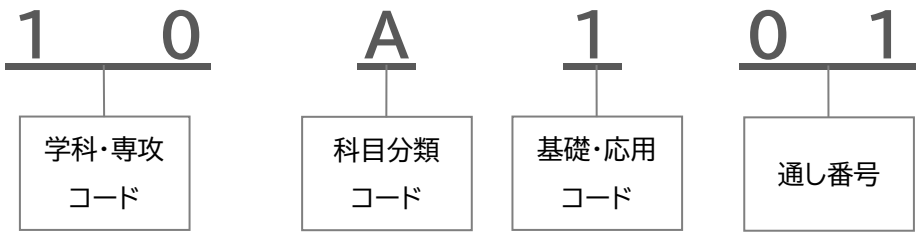
科目ナンバリングについて

科目ナンバリングとは、各授業科目に内容や履修レベル等に応じた番号やアルファベットを付けて分類することで、学習の段階や順序を表し、教育課程の体系性を示すものです。

本学のナンバリングは、次の６桁の数字とアルファベットで構成します。



※ナンバリングは、シラバスに記載されています。学習を進める際の参考にしてください。

◇ ナンバリングの構成 ◇

科目の分類		履修レベル	
学科・専攻コード	科目分類コード	基礎・応用コード	通し番号
10　生活科学学科　教養科目	A　建学の精神 B　現代の教養 C　健康 D　コミュニケーションスキル	1　基礎科目 5　応用科目 9　その他	01～
14　生活情報デザイン専攻	A　生活科学基盤科目 B　情報技術 C　マネジメント技法 D　デザイン表現 Z　総合科目		01～
20　幼児教育学科　教養科目	A　建学の精神 B　現代の教養 C　健康 D　コミュニケーションスキル		01～
21　幼児教育学科	A　本質・目的 B　対象の理解 C　内容・方法 D　表現技術 E　実習 Z　総合演習		01～

2026年度　生活情報デザイン専攻　開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■1回生　教養科目

人間と仏教Ⅰ・・香月　拓・・・・・・・・・　1
人間と仏教Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・CI委員長・・・・・・・・・　3
社会活動実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・CI委員長他・・・・・・・・・　5
国際理解・・澤崎　敏文・野本　尚美・・・・・・・・・　7
＊社会人基礎演習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中里　弘穂・・・・・・・・・　9
＊社会人基礎演習Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中里　弘穂・・・・・・・・・　11
社会人基礎演習Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・成田裕行・黒川義男・・・・・・・・・　13
野外スポーツ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・鮫嶋　優樹・・・・・・・・・　15
英語Ⅰ・・・野本　尚美・・・・・・・・・　17
情報メディア入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・辻岡　和孝・・・・・・・・・　19
データサイエンス入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・辻岡　和孝・・・・・・・・・　21

■1回生　専門科目

生活科学論・・前田　博子・・・・・・・・・　23
衣生活論・・・前田　博子・・・・・・・・・　25
＊食生活論・・木内　貴子・・・・・・・・・　27
＊住生活論・・内山　秀樹・・・・・・・・・　29
情報デザイン論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・田中　洋一・・・・・・・・・　31
情報活用論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・辻岡　和孝・・・・・・・・・　33
情報活用演習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・辻岡　和孝・・・・・・・・・　35
プログラミングⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・田中　洋一・・・・・・・・・　38
＊マルチメディア演習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・澤崎　敏文・・・・・・・・・　40
＊Webデザイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・吉村　正照・・・・・・・・・　42
＊ビジネス実務総論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・澤崎　敏文・・・・・・・・・　44
＊秘書概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大竹口　麻里・・・・・・・・・　47
会計学入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・小形　光雄・・・・・・・・・　49
＊コミュニケーション演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・宮沢　好美・・・・・・・・・　51
プレゼンテーション演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・長原　三輝雄・・・・・・・・・　54
ビジネス文書演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・佐藤　宏隆・・・・・・・・・　57
デザイン表現入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・前田　博子・・・・・・・・・　59
＊色彩学・・・橋本　洋子・・・・・・・・・　61
デッサン・・・重村　幹夫・・・・・・・・・　64
＊グラフィックデザインⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・吉村　正照・・・・・・・・・　66
＊グラフィックデザインⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・西畑　敏秀・・・・・・・・・　68
＊インテリアデザインⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・林　公一朗・・・・・・・・・　71
キャリアプランニング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・田中　洋一・・・・・・・・・　73
＊企業研究Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・澤崎　敏文・・・・・・・・・　75
企業研究Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・前田　博子・・・・・・・・・　77
インターンシップ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・野本　尚美・・・・・・・・・　79
マイプロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・田中　洋一他・・・・・・・・・　81

■1回生　資格取得に関する科目

メディカルクラーク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・倉内　克代・大森　廣子・・・・・・・・・　83

2026年度　幼児教育学科　開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■1回生　教養科目

人間と仏教Ⅰ・・・香月　拓 ・・・・・・・・・　87
人間と仏教Ⅱ・・・CI委員長 ・・・・・・・・・　89
社会活動実践・・CI委員長他 ・・・・・・・・・　91
日本の憲法・・・生駒　俊英 ・・・・・・・・・　93
＊ 健康と食・・木内　貴子 ・・・・・・・・・　95
野外スポーツ・・鮫嶋　優樹 ・・・・・・・・・　97
情報メディア入門・・佐藤　宏隆 ・・・・・・・・・　99
データサイエンス入門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・辻岡　和孝・鮫嶋　優樹 ・・・・・・・・・　101

■1回生　専門科目

教育原理・・・増田　　翼 ・・・・・・・・・　103
教育の方法と技術・・・田中　洋一 ・・・・・・・・・　105
＊ 子ども家庭福祉・・小川　智枝 ・・・・・・・・・　107
＊ 社会福祉・・・近藤　俊英 ・・・・・・・・・　109
＊ 子ども家庭支援論・・小川　智枝 ・・・・・・・・・　112
＊ 社会的養護Ⅰ・・谷口　和正 ・・・・・・・・・　114
教育心理学・・乙部　貴幸 ・・・・・・・・・　117
＊ 子どもの健康と安全・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・川端起代美 ・・・・・・・・・　119
＊ 子どもの食と栄養Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・木内　貴子 ・・・・・・・・・　121
＊ 教育課程総論・・・川崎　恵理 ・・・・・・・・・　123
＊ 保育内容指導法（健康）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・江端　佳代 ・・・・・・・・・　156
＊ 保育内容指導法（人間関係）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・江端　佳代 ・・・・・・・・・　128
＊ 保育内容指導法（環境）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山下　清美 ・・・・・・・・・　130
保育内容指導法（言葉）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・前田　敬子 ・・・・・・・・・　133
＊ 保育内容指導法（表現）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・山下　清美 ・・・・・・・・・　135
文章表現の基礎・・前田　敬子 ・・・・・・・・・　138
身体表現の基礎・・乾　　典子 ・・・・・・・・・　140
造形表現の基礎・・重村　幹夫 ・・・・・・・・・　143
音楽表現の基礎・・川﨑美砂子 ・・・・・・・・・　145
子どもと健康・・鮫嶋　優樹 ・・・・・・・・・　148
＊ 子どもと人間関係・・小川　智枝 ・・・・・・・・・　150
子どもと環境・・大久保嘉雄 ・・・・・・・・・　152
子どもと言葉・・前田　敬子 ・・・・・・・・・　155
子どもと表現(造形)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・重村　幹夫 ・・・・・・・・・　157
子どもと表現(音楽)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・木下　由香 ・・・・・・・・・　159
音楽(ピアノ基礎演習)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・木下　由香他 ・・・・・・・・・　161
＊ 乳児保育Ⅰ・・・橋本登茂江 ・・・・・・・・・　163
＊ 乳児保育Ⅱ・・・橋本登茂江 ・・・・・・・・・　165
リトミック・・南出　眞代 ・・・・・・・・・　167
＊ 教育実習Ⅰ・・・川崎　恵理 ・・・・・・・・・　169
＊ 教育実習Ⅱ・・・川崎　恵理 ・・・・・・・・・　171
＊ 保育実習Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・石川　昭義・中尾　繁史 ・・・・・・・・・　173
＊ 保育実習指導Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中尾　繁史・小川　智枝・山下　清美 ・・・・・・・・・　175

講義科目名称： 人間と仏教Ⅰ　　授業コード： 1410101

英文科目名称： BuddhismⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
香月　拓			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		講義	ナンバリング：10A101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼済」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。 そのため、釈尊の生涯や仏教における人間観を学ぶことを通して、「本当の自分とは何か」を尋ねていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①釈尊の生涯と思想について述べることができる。	ＤＰ１	20
	目標②自分の考えを読み手に伝わるようレポートにまとめることができる。	ＤＰ５	10
	目標③仏教における人間観をもとに「本当の自分とは何か」を考察し、述べることができる。	ＤＰ６	20
	目標④「仁愛兼済」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べることができる。	ＤＰ７	20
	目標⑤仏教に照らし合わせて自分の考えや行動を省察できる。	ＤＰ４	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	イントロダクション－キャンパスのモニュメントについて	『和』を持参すること 授業の取り組み方に関しての説明をする 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	2	仁愛学園の歩みと建学の精神について	『和』を持参すること 事前に『和』p.2～18を読んでおくこと 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	3	四恩の自覚－いのちの大地	『和』を持参すること 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	4	四恩の自覚－仁愛兼済	第1回レポート
	5	宗教とは何か－宗教のイメージをとらえる	宗教のイメージに関するグループワークを行う 『和』を持参すること 授業の最後にワークシートを提出する
	6	宗教とは何か－宗教施設の役割りについて	宗教施設の役割りに関するグループワークを行う 『和』を持参すること 授業の最後にワークシートを提出する
	7	仏教とは何か－自我と自己	授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	8	釈尊の生涯－誕生	事前に『仏教聖典』p.2～8を読んでおくこと 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	9	釈尊の生涯－四門出遊～苦行の放棄	授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	10	釈尊の生涯－成道	事前に『仏教聖典』p.8～10を読んでおくこと 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	11	釈尊の生涯－縁起の法と伝道生活	授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する

	12	釈尊の生涯ー仏弟子たちとの生活	第2回レポート
	13	釈尊の生涯ー涅槃	事前に『仏教聖典』p.10～15を読んでおくこと 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	14	釈尊入滅後の仏教ー『歎異抄』の世界	『礼讃抄』を持参すること 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	15	美しい世をひらく灯となるために	全15回の振り返りを行うとともに、本学の建学の精神についてグループワークを行う 授業の最後にワークシートを提出する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 試験に代わって、全講義終了後に第3回レポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、３時間程度の事前・事後学習（配布資料やレポートの整理をしながら要点をまとめる、指定された教材を読んでおく）を必要とする。レポート課題の作成にはさらに多くの時間が必要となる。また、日常生活のなかで、講義で学んだことを通して「本当の自分とは何か」を思索するよう努めること。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『仏教聖典』（仏教伝道協会，1996） 教材：適宜、プリント資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎回、授業内容のスライドを復習し、LMS（仁短Moodle）の課題に回答すること。※第1回および第2回レポート実施回は除く 課題については、次回授業の冒頭でフィードバックする。 その他、成績評価を含め授業に関する質問等がある場合は、Moodleの質問コーナーやオフィスアワー等を利用すること。
評価の配点比率	目標①毎回の課題10%、第3回レポート10% 目標②第1回レポート5%、第2回レポート5% 目標③毎回の課題20% 目標④第1回レポート5%、第2回レポート5%、第3回レポート10% 目標⑤毎回の課題10%、第3回レポート20%
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては1回目のガイダンスで説明する。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　人間と仏教Ⅱ　　授業コード：1410201

英文科目名称：　BuddhismⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	必修
担当教員			
CI委員長			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたＡＨの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	ＤＰ１	20
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	ＤＰ５	20
	目標③「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	ＤＰ７	30
	目標④自らを振り返る態度を身につける。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月　2年後の理想像と１年次前期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の説明および記入
	2	4月　降誕会	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	3・4	5月　開学記念	※詳細は後日連絡
	5	9月　1年次前期の自己評価と後期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入
	6	12月　成道会	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	7	1月　讃仰会（追弔会）	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	8	1月　先輩に学ぶ【オンデマンド】	感想シート提出
	9	2年次 4月　1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	10	4月　降誕会	『充実した学生生活を送るために』の記入
	11・12	5月　開学記念	※詳細は後日連絡
	13	9月　2年次前期の自己評価と後期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月　成道会	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	15	12月　讃仰会（追弔会）／振り返りテスト	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	16	1月　同輩に学ぶ・2年間の自己評価【オンデマンド】	感想シートの提出

	17	1月　2年次後期の自己評価と２年間の振り返り 【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。そのため、毎回60分程度の事前事後学習が必要。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』2017（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『和』2022（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①レポート（10%）振り返りテスト（10%） 目標②レポート（10%）振り返りテスト（10%） 目標③感想シート、『充実した学生生活を送るために』（30%） 目標④感想シート、『充実した学生生活を送るために』（30%）
受講上の注意	AHは式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会活動実践　　授業コード： 1410301

英文科目名称： Social Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
CI委員長・総合学務センター長・総合学務センター次長			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	ＤＰ８	50
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	ＤＰ５	50
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		単位認定の方法 　本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。	
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に学び支援課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。	所定の用紙は学び支援課で受け取ること。
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。	
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	ボランティア終了後60分程度、習得した内容等の振り返りが必要。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	使用しない		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。		
評価の配点比率	目標①②レポート（100%）		
受講上の注意			

教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 国際理解　　授業コード： 1414301

英文科目名称： International Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	１年次	２単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文・野本　尚美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		講義	ナンバリング：10B504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、様々な国際事象や事例を自ら調査・研究することで、今の時代にふさわしい新しい国際感覚を身につけることである。国際理解、国際協力から多文化共生の時代へと「国際」の持つ意味も変化するなかで、国際社会における新たな価値観について、自信の経験・体験をとおして、探究を深めていく。 特に、本年度は台湾（中華民国）へ訪問・現地調査をおこない、文化、経済活動等について、日本との違いやこれまでの歴史等について学び、課題探求活動を実施することを予定しています。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①グローバル社会における問題を発見するための思考力を身につける。	ＤＰ３	20
	目標②グローバル社会における問題を解決するための判断力を身につける。	ＤＰ４	20
	目標③コミュニケーションのための表現力を身につける。	ＤＰ５	20
	目標④チームで協働できる。	ＤＰ８	20
	目標⑤主体的に行動できる。	ＤＰ６	10
	目標⑥多文化共生に関して理解する。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。 ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 国際理解が意味する範囲の変遷、現在、今後の流れについて理解を深めます。 国際語としての英語やその他の言語、また、文化等について、その概要を学びます。	事前に、国際理解に関する関連記事（Moodle上で指示）を読み、理解を深めてくること。また、議論できるような簡単なメモを作成すること。
	2	課題探求活動と台湾について 現地調査（フィールドワーク）を行う台湾（中華民国）について、地理・歴史・文化の側面から理解を深めます。	台湾に関する文化、歴史、経済情勢などについて事前、事後に調査し、簡易なレポートにまとめます。
	3	台湾に関する事前調査とグループワーク 探求すべき課題について、グループごとに議論を実施して、今後の現地調査（フィールドワーク）のための予備調査をおこない、全体で共有します。	事前に、台湾に関する探究課題について設定をおこない、文献調査を実施すること。（課題は後日変更になってもかまいません） また、グループで議論した内容をMoodleで共有できるように提出します。
	4	現地調査（フィールドワーク）に関する諸手続きと国際法	現地調査を前に、手続き等に関する確認、国際法規について学びます。事前に、一般的なパスポート、査証等に関する知識を予習しておくこと。
	5	現地調査１日目（１） 事前に設定した探求課題に基づいて、グループごとにフィールドワークをおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	6	現地調査１日目（２） 事前に設定した探求課題に基づいて、グループごとにフィールドワークをおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	7	現地調査１日目（３） 事前に設定した探求課題に基づいて、グループごとにフィールドワークをおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。

	8	現地調査１日目（４） 事前に設定した探求課題に基づいて、グループごとにフィールドワークをおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	9	現地調査２日目（１） 事前に設定した探求課題に基づいて、グループごとにフィールドワークをおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	10	現地調査２日目（２） 事前に設定した探求課題に基づいて、グループごとにフィールドワークをおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	11	現地調査２日目（３） 事前に設定した探求課題に基づいて、グループごとにフィールドワークをおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	12	現地調査２日目（４） 事前に設定した探求課題に基づいて、グループごとにフィールドワークをおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	13	現地調査３日目（１） 現地調査（フィールドワーク）をグループごとにまとめて、他のグループと共有・意見交換をおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	14	現地調査３日目（２） 現地調査（フィールドワーク）をグループごとにまとめて、他のグループと共有・意見交換をおこないます。	調査項目、調査事項については、事前に下調べをして、現地では適宜記録をとること。
	15	調査発表、まとめ 現地調査後、探求課題に関する内容について、発表をおこない意見を共有します。	グループごとの発表に加えて、これまでの議論、各自の調査・研究内容を踏まえて、自分が理想とする国際協力のあり方について検討をおこないます。また、その内容を最終レポート課題としてまとめます。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	各回の内容把握ならびに理解を深めるための事前・事後学習が、毎回４時間程度必要。
教科書	なし
参考図書、教材、準備物等	教材としてMoodle上で配布予定
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題はすべてMoodle上へ提出し、フィードバックもMoodle上で行う。
評価の配点比率	目標①～⑥：事前調査20%、最終レポート・発表 40%、現地でのフィールドワーク・調査活動40%
受講上の注意	集中講義の予定でもあり、海外現地調査を伴うことから、全ての授業に出席できることを前提としています。渡航費用については旅行保険への加入等も含めて全て自己負担となります。なお、国内外の状況に応じて、海外現地調査については、変更・中止となる可能性があります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会人基礎演習Ⅰ　　授業コード：1410401　1410402

英文科目名称： Business MannerⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
中里　弘穂			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会で活躍するために必要な能力を理解するとともに、自己の将来を見通し、働くこと、職業を持つことの意義を考えることである。 その上で現代社会における働く環境や働き方の多様性を理解し、社会で必要とされる態度や考え方を学ぶ。次に社会人として仕事を遂行する上で必要なコミュニケーションの取り方や職場での言葉遣い、電話応対等のビジネスマナーを実習を通して学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①働くこと、職業を持つことの意義を理解する。	ＤＰ１	20
	目標②現代社会における働く環境や働き方の多様性を理解し、社会で必要とされる態度や考え方を理解する。	ＤＰ７	20
	目標③社会で必要なコミュニケーション能力の基礎を身に着ける。	ＤＰ５	20
	目標④職場での言葉遣い、電話応対、来客応対等のビジネスマナーを習得する。	ＤＰ４	30
	目標⑤自分の適性を理解し、自己の職業観を確立する。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業の目的の理解と自分の将来を考察する	本授業が実習を多く取り入れた楽しい授業であること 職場生活に有益な授業であることを理解する
	2	働くことの必要性と意義の理解	事後課題として職業インタビューを実施する
	3	現代社会と働く環境の理解	正規雇用と非正規雇用の待遇や仕事内容を理解する。 職業インタビューの結果をグループで分析し仕事のやりがいや苦労を考える
	4	職場で必要とされるビジネスマナー	挨拶動作などの実習を行い、プレゼンテーションがスムーズにできるようにする
	5	ビジネス敬語の演習（基本）	日常生活で耳にする敬語に関心を持つ
	6	ビジネス敬語の演習（応用）	ビジネス敬語の小テスト実施　事後課題としてプレゼンテーションの原案作成
	7	プレゼンテーション実習	プレゼンテーション実習（評価対象）　実習を通し人前で話すことに慣れる
	8	仕事の進め方の基本（基本講義）	職場で必要となるコミュニケーションを実習を通して理解する　グループワーク
	9	仕事の進め方の基本（応用実習）	職場で必要となるコミュニケーションを実習を通して理解する　グループワーク
	10	ビジネス電話の応対実習（基本講義）	ビジネス電話の基本を実習を通して理解する
	11	外部講師による特別講義「ライフプラン作成」	生命保険文化協会の方による特別講義を実施する。卒業から老後までを見据えたリスクと備えを学び、ライフプラン表を作成する。
	12	ビジネス電話の応対実習（応用実習）	電話応対の小テスト実施　相手に好感を与える電話応対ができるようになる
	13	来客応対のマナー実習①	職場や就職活動で必要となる来客応対のマナーを実習を通して学ぶ
	14	来客応対・訪問のマナー実習②	職場や就職活動で必要となる訪問のマナーや訪問時の会話を実習を通して学ぶ。インターンシップにおいて

			企業等を訪問する場合の留意点を考える。
	15	まとめ並びに交流分析による他者理解	この授業を振り返るとともに、自分と他者のコミュニケーションの取り方を考察し、自己の適性を把握し他者理解を進める。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の事前・事後学習が必要。事前学習ではテキストの該当する箇所を読んでわからない用語は調べて参加してください。
教科書	中里弘穂著『キャリア形成とコミュニケーションスキル』（三恵社）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：授業中に随時、必要となる参考図書を紹介する
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方や評価方法については、第１回目の授業で説明する。小テストや提出課題は評価を付し授業期間内に返却する。授業や課題についての質問は休憩時間や授業後に対応する。定期テストについては試験範囲と採点ポイントを明確にし、成績評価を含め質問がある場合には、電子メールで連絡を受けることで学生本人に回答する。（電子メール：nakazato@go.jin-ai.ac.jp）
評価の配点比率	目標①　職業インタビューのレポート10%　定期試験10% 目標②　定期試験20% 目標③　プレゼンテーション実習10%　定期試験10% 目標④　ビジネス敬語の小テスト10%　電話応対の小テスト10%　定期試験10% 目標⑤　定期試験10%
受講上の注意	本科目は単にビジネスマナーを学ぶのではなく、職業や働き方を理解し社会人として仕事を継続する上で必要なビジネスマナーを学ぶことを目的としている。
教員の実務経験	本教員はキャリアコンサルタントとして若者の就職支援、企業団体従業員の教育・キャリア形成支援を担当してきた。その経験を活かし社会で働くうえで必要となること、社会人として仕事を継続する上で求められる仕事の進め方やビジネスマナーを理解させ、併せて職業人としてのキャリア形成を考える授業を行っている。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会人基礎演習Ⅱ　　授業コード：1412001　1412002

英文科目名称： Business MannerⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
中里　弘穂			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10B102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、職場で必要となる文書について理解し、効率的に作成する文書作成能力を身に着けることである。 就職活動時のエントリーシート作成はもとより、社内連絡文書、企画書、稟議書等職場では様々な文書の作成が必要となる。本授業においては、文書の構成や基本的な文書の作成方法を学び、職場で必要とされる報告書、書類送付状等を講義と実習を通して学ぶことで、仕事を効率的に行うスキルを身に着ける。文書を作成することは、論理的な思考を整理することにもつながり、就職活動にも役立つ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①職場における文書作成能力の必要性を理解する。	ＤＰ６	20
	目標②話し言葉と書き言葉の違い、事実説明と主張の違いを理解する。	ＤＰ３	20
	目標③文書を使用したコミュニケーション能力の基礎を身に着ける。	ＤＰ５	20
	目標④連絡文書、報告書等、職場内文書の作成能力を身に着ける。	ＤＰ２	20
	目標⑤書類送付状、お礼状等、社外文書の作成能力を身に着ける。	ＤＰ２	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業の目的の進め方、評価方法について説明するとともに、日本語表現の特徴について理解する。	本授業が実習を多く取り入れた楽しい授業であること職場生活に有益な授業であることを理解する
	2	話し言葉と書き言葉の違いについて理解する。	ペアワークを通して同じことを伝える場合に、話し言葉と書き言葉の相違を体験する。
	3	「ます・です体」と「だ・である体」による文書の作成を習得する。	「だ・である体」を使用してミニレポートを作成する。
	4	主語・述語の関りと文のねじれの理解。	主語により述語が変化することを理解し、様々な書き出しによる文章の作成を行う。
	5	敬語表現の理解と応用	日常生活で耳にする敬語に関心を持つ。理解の定着のために敬語の小テストを実施する。
	6	メール送信のマナーと職場で必要となるメールの作成	コミュニケーションツールとして、職場で使用されるメール文を、社内連絡、社外連絡に分けて理解し、インターンシップ参加の申し込みや事後のお礼を例に作成実習を行う。
	7	PREP法による自己PR文の作成	わかりやすい文章の書き方の例としてPREP法（ポイント、理由、実践、ポイントの繰り返し）を使用して自己PR文を作成する。事後課題として作成したものを提出する。
	8	外部講師による講義と報告書の作成	外部講師により若者が巻き込まれるリスクのある「金融トラブル」について講義を実施する。講義後に報告書作成のポイントを学び、事後課題として受講報告書を作成する。 （外部講師の都合により、日程が前後する場合がある）
	9	社内文書の形式と理解、連絡文書の作成	事後課題として、社内に告知する会議の連絡文書を作成して提出する
	10	報告文書の作成のポイントと封書の宛名作成	「金融トラブル」の外部講師の講義を元に作成した報告書の書き方を検討し、報告書に必要な要素を考え

	10		る。更に、外部の企業に郵送する場合の宛名の書き方を実際の名刺を使って実習する。
	11	稟議書・企画書の形式と作成のポイント	事後課題として、大学で行うイベントの企画書を作成して提出する
	12	社外文書の形式と手紙用語の理解	理解を定着させるために手紙用語の小テストを実施する
	13	書類送付状の必要性・形式の理解と作成練習	事後課題として、就職試験応募先に提出する書類送付状を作成して提出する
	14	志望動機を書いてみる	読み手の印象に残る志望動機のポイントを理解する。事後課題として、志望動機を作成して提出する
	15	まとめ	振り返りとして日本語の乱れを理解し、美しい日本語の継承の必要性を考える。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の事前・事後学習が必要。事前学習ではテキストの該当する箇所を読んでわからない用語は調べて参加してください。事後学習では、その時間に学習した文書を課題として作成し提出してもらう。
教科書	中里弘穂著『キャリア形成とコミュニケーションスキル』（三恵社）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：必要に応じ、授業中に紹介する
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方や評価方法については、第１回目の授業で説明する。小テストや提出課題は評価を付し授業期間内に返却する。授業や課題についての質問は休憩時間や授業後に対応する。定期テストについては試験範囲と採点ポイントを明確にし、成績評価を含め質問がある場合には、電子メールで連絡を受けることで学生本人に回答する。（電子メール：nakazato@go.jin-ai.ac.jp）
評価の配点比率	目標①　定期試験20% 目標②　敬語手紙用語の小テスト10%　定期試験10% 目標③　自己PR作成提出10%　定期試験10% 目標④　社内文書の課題提出10%　定期試験10% 目標⑤　社外文書の課題提出10%　定期試験10%
受講上の注意	本科目は単に文書作成を学ぶのではなく、文書作成を通して、論理的な思考を身に着け、職場でのコミュニケーション能力を高めることを目的としている。
教員の実務経験	本教員はキャリアコンサルタントとして若者の就職支援、企業団体従業員の教育・キャリア形成支援を担当してきた。その経験を活かし社会で働くうえで必要となること、社会人として仕事を継続する上で求められる仕事の進め方やビジネスマナー、文書作成能力の必要性を理解させ、併せて職業人としてのキャリア形成を考える授業を行っている。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会人基礎演習Ⅲ　　授業コード： 1410501

英文科目名称： Business MannerⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	選択
担当教員			
成田　裕行・黒川　義男			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10B103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、公務員試験対策として必須の数的処理の対策を通じて、数的思考力を身に付けることである。そのために、以下の４単元を学ぶ。（1）判断推理・・・文章を通じて物事を推理したり、人やモノの位置・方位の推理、命題などを学習する。（2）数的推理・・・簡単な数学の公式を基に整数の性質や方程式、確率などを学習する。（3）資料解釈・・・グラフや表の読み取り方を学習する。（4）図形・・・図形の計量問題、切断、展開図などを学習する。なお、上記単元について（1）を黒川、（2）～（4）を成田が担当する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①図形の面積、体積など計量、計算が出来るようになる。	ＤＰ１	25
	目標②物事の事象を推理することが出来るようになる。	ＤＰ３	65
	目標③各種、資料を読み取ることを通じて、資料を解釈出来るようになる。	ＤＰ４	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス（授業、試験の概要） 数的推理① 　整数（約数と倍数、割り算の余り、整数の性質、ｎ進法）－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	2	数的推理① 　整数（約数と倍数、割り算の余り、整数の性質、ｎ進法）－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	3	数的推理② 　割合と比(割合、比、売買算、濃度)、方程式・不等式　－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	4	数的推理② 　割合と比(割合、比、売買算、濃度)、方程式・不等式　－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	5	数的推理③ 　速さ(速さ、旅人算、通過算、流水算、時計算）－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	6	数的推理③ 速さ(速さ、旅人算、通過算、流水算、時計算）－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	7	数的推理④ 　その他文章題、計算パズル　－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	8	数的推理④ 　その他文章題、計算パズル　－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	9	数的推理⑤ 　場合の数、確率　－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	10	数的推理⑤ 　場合の数、確率　－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	11	資料解釈 　実数、割合、指数、前年比、増加率、いろいろな資料　－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習

	12	資料解釈 　実数、割合、指数、前年比、増加率、いろいろな資料　－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	13	判断推理① 　論理、集合の要素（ベン図）－1	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	14	判断推理① 　論理、集合の要素（ベン図）－2	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	15	判断推理② 　集合の要素（キャロル図、交わりの最小個数）、順序 －1	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	16	判断推理② 　集合の要素（交わりの最小個数）、順序 －2	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	17	判断推理③ 　位置・方位、対応（対応関係、スケジュール表）－1	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	18	判断推理③ 　位置・方位、対応（対応関係、スケジュール表）－2	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	19	判断推理④ 　対応(対応の数値条件、やりとり)、勝負 －1	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	20	判断推理④ 　対応(対応の数値条件、やりとり)、勝負 －2	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	21	判断推理⑤ 　うそつき、暗号、推理・手順 －1	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	22	判断推理⑤ 　うそつき、暗号、推理・手順 －2	担当:黒川 事後学習:基本問題の演習
	23	図形① 　回転と軌跡、道順・一筆書き・位相、平面構成(折り紙)　－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	24	図形① 　回転と軌跡、道順・一筆書き・位相、平面構成(折り紙)　－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	25	図形② 　平面構成(図形中の図形の数、平面図形の分割・合成)、正多面体・展開図、立体構成(サイコロ）－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	26	図形② 　平面構成(図形中の図形の数、平面図形の分割・合成)、正多面体・展開図、立体構成(サイコロ）－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	27	図形③ 　立体構成(積木、投影図、立体の切断、回転体、平面図形の計量（角度、三平方の定理）－1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	28	図形③ 　立体構成(積木、投影図、立体の切断、回転体、平面図形の計量（角度、三平方の定理）－2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	29	図形④ 　平面図形の計量（相似比、面積比、円、扇形と移動図形）、立体図形の計量 －1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	30	図形④ 　平面図形の計量（相似比、面積比、円、扇形と移動図形）、立体図形の計量 －2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習

定期試験	■全講義終了後に、６０分程度の総まとめ試験を実施する。内容は、基本例題レベルを予定している。
準備学習に必要な時間	事前の予習は必要ない。ただし復習として、初回授業時に配付する講義予定表記載の最重要問題および重要問題を毎回１時間程度学習することが望ましい。
教科書	大原出版株式会社 テキスト（数的処理ＢⅠ、数的処理ＢⅡ、数的処理ＢⅢ）
参考図書、教材、準備物等	特になし
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目の授業開始時に説明する。予習は必要ないが、復習として、毎回関連する問題を解いていく。講義を出席すれば理解は出来るが、理解＝問題が解ける、ではない。問題を解くことで実力が付いてくる。試験は授業終了前もしくは授業開始後に実施し、その都度、結果をフィードバックする。
評価の配点比率	目標①単元チェックテスト2%× 4回=8%、感想4%、定期試験13%。 目標②単元チェックテスト2%×10回=20%、感想10%、定期試験35%。 目標③単元チェックテスト2%× 1回=2%、感想1%、定期試験 7%。
受講上の注意	公務員試験対策として教養試験の３分の１を占める重要な科目になる。講義を受講すれば、公務員試験に必ず合格できるというわけではないが、基本的事項は十分に学べる。また民間の就職試験として必須のＳＰＩ基礎能力検査（非言語能力）の対策としても大いに役立つ部分がある。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 野外スポーツ　　授業コード： 1410601

英文科目名称： Field Sports

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	１年次	１単位	選択
担当教員			
鮫嶋　優樹			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。 そのために今年度は、野外スポーツの中から、ゴルフを集中的に行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標① 積極的に野外スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	ＤＰ８	50
	目標② 野外スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	ＤＰ１	30
	目標③ 野外スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	ＤＰ１	10
	目標④ 野外スポーツの特徴を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	ＤＰ４	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ゴルフの運動効果、スイングの基本	全体オリエンテーションを含む
	2	フルスイングショット	
	3	９番アイアン打撃	
	4	７番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	5	５番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	6	アイアンのテストとまとめ	学外ゴルフ打撃場を使用 ※実技試験
	7	アプローチショット	学内運動場を使用
	8	ピッチとラン	学内運動場を使用
	9	パッテイング	
	10	ウッドショット打撃	学外ゴルフ打撃場を使用 ※実技試験
	11	ドライバーとスプーン	学外ゴルフ打撃場を使用 ※実技試験
	12	ウッドのテストとまとめ	学外ゴルフ練習場を使用 ※実技試験
	13	ルールとマナー	
	14	コースでのプレーの仕方	
	15	ミニ・ラウンド	※基本的には体育館・グラウンドを使用予定

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業で習得した練習内容や技能の振り返りとして、各回60分程度の事後学習が必要
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	適宜必要な資料をプリントして配布予定。

課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。 成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール(y-samejima@go.jin-ai.ac.jp)にて対応します。 レポートは、評価後にフィードバックします。
評価の配点比率	目標①実技試験50% 目標②実技試験30% 目標③レポート10% 目標④レポート10% ※　実技試験は学外ゴルフ練習場を使用する回に実施した全ての試験により総合的に評価する。
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 英語Ⅰ　　授業コード：1410701　1410702

英文科目名称： English Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
野本　尚美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10D101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、基礎的な英語表現を身に付け、英語による基本的なコミュニケーション力を養うことである。仕事で英語を用いる場面を意識しながら、会話文や簡単な自己表現ライティングを中心に、英語表現や基礎的な文法事項を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①英語で書かれた文章を読んで、その内容を理解することができる。	ＤＰ１	50
	目標②積極的に他者と議論し、自分の考えをまとめ、発表することができる。	ＤＰ５	30
	目標③異なる文化について理解を深める意欲がある。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Introduction / Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message (Grammar: Conjunctions)	授業の進め方、予習や復習の仕方について説明する。
	2	Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message (Grammar: Conjunctions)	授業前にPre-Reading Questions(p.1)、Grammar Practice(p.4)を解いてくること。授業で扱った長文のテーマについて、自分の意見を英語で簡潔にまとめること。
	3	Chapter 2 Overtourism is a Problem! (Grammar: Present Tense)	授業前にPre-Reading Questions(p.7)、Grammar Practice(p.10-11)を解いてくること。
	4	Chapter 2 Overtourism is a Problem! (Grammar: Present Tense)	授業で扱った長文のテーマについて、自分の意見を英語で簡潔にまとめること。
	5	Chapter 3 Gender Equality in the Workplace (Grammar: Auxiliary Verbs)	授業前にPre-Reading Questions(p.13)、Grammar Practice(p.16-17)を解いてくること。
	6	Chapter 3 Gender Equality in the Workplace (Grammar: Auxiliary Verbs)	授業で扱った長文のテーマについて、自分の意見を英語で簡潔にまとめること。
	7	Chapter 6 Nature and Health (Grammar: Gerunds)	授業前にPre-Reading Questions(p.31)、Grammar Practice(p.34-35)を解いてくること。
	8	Chapter 6 Nature and Health (Grammar: Gerunds)	授業で扱った長文のテーマについて、自分の意見を英語で簡潔にまとめること。
	9	Chapter 8 Trees: A Gift from Nature (Grammar: Infinitives)	授業前にPre-Reading Questions(p.43)、Grammar Practice(p.46-47)を解いてくること。
	10	Chapter 8 Trees: A Gift from Nature (Grammar: Infinitives)	授業で扱った長文のテーマについて、自分の意見を英語で簡潔にまとめること。
	11	Chapter 11 All the Lonely People (Grammar: Causative Verbs, etc.)	授業前にPre-Reading Questions(p.61)、Grammar Practice(p.64-65)を解いてくること。
	12	Chapter 11 All the Lonely People (Grammar: Causative Verbs, etc.)	授業で扱った長文のテーマについて、自分の意見を英語で簡潔にまとめること。
	13	Chapter 14 Helping People with Disabilities (Grammar: Comparison)	授業前にPre-Reading Questions(p.79)、Grammar Practice(p.82-83)を解いてくること。
	14	Chapter 14 Helping People with Disabilities (Grammar: Comparison)	授業で扱った長文のテーマについて、自分の意見を英語で簡潔にまとめること。
	15	プレゼンテーション発表会	プレゼンテーションを行い、感想や反省点などをまとめ、ミニレポートとして提出する。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前・事後学習が必要です。授業後は「Dialogue」「Useful Expressions」を復習してください。
教科書	Joan McConnell・山内 圭 著『Changing Times, Changing Worlds やさしく読める社会事情』（成美堂、2020）
参考図書、教材、準備物等	適宜プリントを配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	テストは採点後に返却します。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メール（nomoto@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業内容についての確認テスト　50% 目標②プレゼンテーション　30% 目標③ミニレポート　20%
受講上の注意	基礎的な英単語や英文法を学びます。わからないところは積極的に質問してください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 情報メディア入門(生活科学学科)　　授業コード：1410901　1410902

英文科目名称： Introduction to Information and Media Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
辻岡　和孝			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目	情報処理士資格選択・ビジネス実務士資格選択・ウェブデザイン実務士資格選択	講義	ナンバリング：10D102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、情報リテラシーを身につけることである。 高度情報化社会となった現代おいては、情報メディアの活用能力が必要不可欠となっており、将来様々な職業に就いた際はもとより、学生生活を進める上でも基本的な能力として求められるものである。そこでこの授業では、コンピュータやICT（情報通信技術）を用いた情報収集や文書作成・データ処理による情報の加工、発表資料の作成による情報の伝達について学ぶ。これらの学習・技術修得をする過程において、各種情報資源を参考に自ら学ぶ。また、初年次教育科目として、情報収集の方法（図書館の活用を含む）、レポートの書き方、プレゼンテーションの技法についても学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①情報を取り扱う多様なメディア（媒体）の特徴を理解し、適切に活用し表現できる。	ＤＰ５	20
	目標②コンピュータの基本的な操作法、文書作成、表計算、プレゼンテーションなど基本的なソフトウェアを効率的に使用できる。	ＤＰ２	30
	目標③収集したデータを参照し、適切なデータ処理と分析ができる。	ＤＰ４	30
	目標④インターネット活用を通して、情報リテラシーの基礎な考え方を身につけている。	ＤＰ３	10
	目標⑤情報資源（リソース）を参考に主体的に学び、自身の課題と学習進度を把握することで、自主学習・内省・実践といったプロセスを通じて成長できる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業の目的・進め方についての説明、使用設備・学内ネットワーク等の説明、パソコンの基本操作、タイピング	事前学習：情報ガイダンスで配布された資料等を確認しておく。事後学習：授業で行なった内容を再確認し、質問等があれば担当教員もしくはサポートスタッフに問い合わせる。タイピング練習を始める
	2	情報収集（情報検索・図書館活用）の基礎、WWWの利用、学習管理システム（LMS）、情報倫理	事前学習：テキストの対応するページを読み内容を理解する。事後学習：指定する事項について検索を行い、LMSで報告する。タイピング練習を行う。
	3	キーボードと文字入力、電子メールの利用	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	4	ワープロソフトによる文書作成	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	5	ワープロソフトによる文書編集	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	6	ワープロソフトによる表・画像・図形を含む文書の作成	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	7	表計算ソフトによるデータの入力と基本的な計算	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。

	8	表計算ソフトによる関数を使った計算と書式の設定	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	9	表計算ソフトによるグラフの作成・データの可視化	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	10	表計算ソフトによるデータベース処理	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	11	プレゼンテーションソフトによるスライド資料の作成と編集	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	12	プレゼンテーションソフトによる効果的な表現	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	13	プレゼンテーションソフトによるスライドショーと配付資料の作成	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	14	レポート作成の基礎	事前学習：テキストやLMS上の資料を参考に例題を行う。事後学習：練習課題を行いLMSに提出する。タイピング練習を行う。
	15	模擬試験とまとめ	事前学習：試験に向け、これまでの内容全体を振り返り、 内容が身についたかどうか確認する。 事後学習：模擬試験の自己採点を行うなどし、理解が不十分な点について、再度復習する。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回４時間程度の予習（事前学習課題）・復習（事後学習課題）が必要です。 詳細は、仁短Moodle上に掲載するので学習進度を自己管理するよう努めてください。授業は、開始前までに事前学習課題を既に進めてきていることを前提に行います。授業では、指定する練習課題を行うことになりますが、授業時間内に提出できなかった場合には次回の授業までに完成させ、仁短Moodleに提出してください。
教科書	『30時間アカデミック　Office2021　Windows 11対応』（実教出版）
参考図書、教材、準備物等	教材として、タイピングサイトを使用する。 市販のWord、Excel、PowerPoint、Windowsに関連する書籍も参考にしてください。 必要に応じて、プリントの配布を行う場合があります。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	個別に質問が有る場合は授業内のみならず、メールでも受け付けます。理解出来ない部分がある場合には、積極的に問い合わせるなどし、解消するよう努めて下さい。
評価の配点比率	目標①～④：各回の冒頭の事前学習での30%、各回の事後学習での練習課題40%、最終回の実技試験20%、 目標⑤：期限までに課題を提出している10%、なおタッチタイピングに関しては指定する条件の成績・練習時間を達成していることは必要条件とし、達成していない場合はその程度に応じて減点する。
受講上の注意	この授業は一部反転授業として行います。つまり、授業時に全員が同じペースで学習を進めるのではなく、事前学習において各自のペースで資料等を参考に十分学習を進め、授業時には事前に得られた知識・技術をもとに、担当教諭や友人の助言も受けるなどしながら新しい練習課題に取り組むことになります。これは主体的に学ぼうとし実践に向けて自ら課題をみつけ、自己管理能力を身につけてもらうことを目的としています。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： データサイエンス入門　　授業コード：1411001　1411002

英文科目名称： Introduction to Data Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	必修
担当教員			
辻岡　和孝			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目	ウェブデザイン実務士資格選択	講義	ナンバリング：10D502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事場で活用する基礎的な能力を身につけることである。前半は社会におけるデータ・AI利活用、データ・AI利活用における留意事項、データリテラシー（データを読む、説明する、扱う）を学ぶ。後半では、課題解決型学習として福井市の実データ（福井の天気情報を予定）を用いたレポート作成に取り組む。 そのため、社会におけるデータ・AI利活用、データ・AI利活用における留意事項、データリテラシー（データを読む、説明する、扱う）を学ぶ。本科目は、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの該当科目である。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①日常生活や仕事場における数理・データサイエンス・AIの活用事例について説明できる。	ＤＰ１	40
	目標②データから課題を発見できる。	ＤＰ３	20
	目標③実データを適切に読み解き、判断できる。	ＤＰ４	30
	目標④日常生活や仕事場に対して、数理・データサイエンス・AIの活用を主体的に取り入れる意欲がある。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、社会で起きている変化	技術革新がもたらす人間社会の変化、Society5.0について理解する・確認テスト
	2	社会で活用されているデータ	社会で活用されているデータを事例にし、データの分析・加工について理解する・確認テスト
	3	データ・AIの活用領域と利活用のための技術とAI利活用の最新動向	データ・AIの活用領域と利活用のための最新技術と動向の調査を行う・確認テスト
	4	データ・AI利活用における留意事項	AIの発展やデータ社会の進展における倫理的課題について学ぶ・確認テスト
	5	データを読む	総務省統計局（e-stat）より国税調査及び福井市に関するオープンデータを取得し、データ分析を実践する。 基本統計量について学ぶ
	6	データを説明する	総務省統計局（e-stat）より国税調査及び福井市に関するオープンデータを取得し、データ分析を実践する。
	7	データを扱う①：データの理解と加工	総務省統計局（e-stat）より国税調査及び福井市に関するオープンデータを取得し、データ分析を実践する。
	8	データを扱う②：レポートの作成	総務省統計局（e-stat）より国税調査及び福井市に関するオープンデータを取得し、データ分析した結果から報告書の作成を実践する。

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）及び振り返りノート総まとめを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、４時間程度の事後学習が必要。

教科書	仁短Moodleにて、適宜、必要な資料を共有する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『基礎学習ＡＩデータサイエンスリテラシー入門』（吉岡剛志、技術評論社、2022）、『人間中心のAI社会とデータサイエンス MDASHリテラシーレベル準拠』（鈴木陽一他、コロナ社、2025）の他、データサイエンスや統計に関する書籍等。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題は、仁短Moodleを用いて、学生へフィードバックする。
評価の配点比率	目標①確認テスト40%. 目標②課題10%、ミニレポート10%. 目標③課題20%、ミニレポート10%. 目標④振り返りノート（1×8回＝8%、まとめ2%）10%として評価する。
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 生活科学論　　授業コード：1411101　1411102

英文科目名称： Introduction to Human Life and Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	必修
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目(生活科学基盤科目)	情報処理士資格・ビジネス実務士資格・秘書士資格選択	講義	ナンバリング：14A101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、生活科学のテーマにもとづき、グループで主体的に学ぶ方法を身につけることである。 本授業では、生活科学学科の根幹をなす「情報と生活」「衣と生活」「食と生活」「住と生活」という各分野に関する４つのシナリオを用いた課題解決型学習（Problem Based Learning）を行う。グループ作業を通してシナリオから問題を発見し、学習者自身が学習の計画を立てる。計画をもとに個別の調べ学習を行うが、グループで合意形成しながら学習することにより、一人では得られない学習成果を得る。この課題解決型学習を４回繰り返すが、各回の最後には、グループ発表と自己評価を実施する。最終的に、衣・食・住・情報を統合して、生活(暮らし）の課題解決を考える。 ※本授業は、初年次教育科目である。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①衣・食・住・情報に関する、自分の関心・興味のある知識について説明できる。	ＤＰ１	32
	目標②論理的に考えることにより、課題を発見できる。	ＤＰ３	18
	目標③根拠にもとづき、課題に対する解を述べられる。	ＤＰ４	26
	目標④他者と合意形成し、グループ全体としての発表ができる。	ＤＰ８	8
	目標⑤多様性の意義を理解し、適切に自己評価・相互評価ができる。	ＤＰ７	16

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。 ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス，シナリオを用いたPBLの説明，アイスブレイク等のグループワーク	事後学習にて本授業の学習方法をしっかりと理解する。 ※毎回、仁短Moodleにて振り返りノートの記述。
	2	PBL1「情報と生活」グループワークによる課題発見	LMS（仁短Moodle）にプロブレムマップを提出。事後学習にて、個人の調べ学習（個別学習）を行う。
	3	PBL1「情報と生活」グループワークによる課題解決	LMS（仁短Moodle）に個別学習を提出。事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	4	PBL1「情報と生活」グループ発表①と相互評価	相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いる。事後学習にて、「情報と生活」のレポートを書き、LMS（仁短Moodle）に提出。
	5	PBL1「情報と生活」グループ発表②と相互評価・自己評価, PBL2「衣と生活」グループワークによる課題発見	相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いる。LMS（仁短Moodle）にプロブレムマップを提出。事後学習にて、個人の調べ学習（個別学習）を行う。
	6	PBL2「衣と生活」グループワークによる課題解決	LMS（仁短Moodle）に個別学習を提出。事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	7	PBL2「衣と生活」グループ発表①と相互評価	相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いる。事後学習にて、「衣と生活」のレポートを書き、LMS（仁短Moodle）に提出。
	8	PBL2「衣と生活」グループ発表②と相互評価・自己評価, グループワークによるPBL1及びPBL2の振り返り	相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いる。 事後学習にて、PBL1～PBL2の振り返りを行う。
	9	PBL3「食と生活」グループワークによる課題発見	LMS（仁短Moodle）にプロブレムマップを提出。事後学習にて、個人の調べ学習（個別学習）を行う。

	10	PBL3「食と生活」グループワークによる課題解決	LMS（仁短Moodle）に個別学習を提出。事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	11	PBL3「食と生活」グループ発表①と相互評価	相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いる。事後学習にて、「食と生活」のレポートを書き、LMS（仁短Moodle）に提出。
	12	PBL3「食と生活」グループ発表②と相互評価・自己評価, PBL4「住と生活」グループワークによる課題発見	相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いる。LMS（仁短Moodle）にプロブレムマップを提出。事後学習にて、個人の調べ学習（個別学習）を行う。
	13	PBL4「住と生活」グループワークによる課題解決	LMS（仁短Moodle）に個別学習を提出。事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	14	PBL4「住と生活」グループ発表と相互評価	相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いる。事後学習にて、「住と生活」のレポートを書き、LMS（仁短Moodle）に提出。
	15	PBL4「住と生活」グループ発表と相互評価・自己評価, グループワークによるPBL1～PBL4の振り返り、衣・食・住・情報を統合した生活（暮らし）を考察	相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いる。 事後学習にて、PBL1～PBL4の振り返りを行う。 確認テストは全ての単元終了後実施する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	調べ学習のため、毎回４時間程度の予習・復習が必要です。
教科書	岡本健 松井広志 松本健太郎 編『ゆるレポー卒論・レポートに役立つ「現代社会」と「メディア・コンテンツ」に関する40の研究』人文書院/2021
参考図書、教材、準備物等	上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房/2018 M.マクルーハン『メディア論』みすず書房/1987 ノートPCは毎回持参のこと。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①レポート32%（8%×4回） 目標②プロブレムマップ8%（2%×4回）、確認テスト10% 目標③個別学習16%（4%×4回）、確認テスト10% 目標④グループ発表8%（2%×4回） 目標⑤振り返りノート16%（1%×14回+15回目2%）
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。各回の最後、経験学習サイクルの３点に関して、仁短Moodleの振り返りノートに記述します。グループ作業が中心のため、遅刻・欠席はせず、事後学習にしっかりと取り組むこと。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者がグループで主体的に学ぶことをめざしています。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 衣生活論　　授業コード： 1411201

英文科目名称： Clothes and Human Life

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目(生活科学基盤科目)		講義	ナンバリング：14A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、自身の衣服調査、衣服制作などの実践を交えながら、衣服文化とファッション産業との関係を学修することである。その学修をふまえ、サスティナビリティによるグリーンウォッシュ等社会が抱える問題についての解決策等を模索する。 ものが溢れる世の中だからこそ、消費者としての考え方やその方法について暮らしの中で実践できることを深く考え、自ら学習する姿勢を養う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①衣生活についての知識を身につけている。	ＤＰ１	25
	目標②ものづくりの環境知った上で、社会や私たちが抱える課題を提示できる。	ＤＰ４	25
	目標③衣服環境における課題の解決策を提示できる。	ＤＰ６	25
	目標④社会や衣文化の多様性を理解した上で、自身の暮らしを振り返ることができる。衣文化の課題に対して主体的に行動する態度を身につけている。	ＤＰ７	25
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	衣服の役割	材料や道具を買わずに家にあるものを工夫してつくるための情報を探す。 レポート提出。
	2	ファッションの仕組み①	『ファッションで社会学する』（p158-164） レポート提出。
	3	調査／わたしの服①【オンデマンド】	衣服をアイテム毎に分類し自身の傾向を知る。 レポート提出。
	4	ファッションメディアの再編成①	調査してわかったことを共有する。 課題提出。
	5	調査／わたしの服②【オンデマンド】	衣服の生産国調査を調査する。 レポート提出。
	6	ファッションメディアの再編成②	調査してわかったことを共有する。 レポート提出。
	7	デザイナー・縫製工場の仕事	『ファッションで社会学する』（p165-180） レポート提出。
	8	服をつくる①【オンデマンド】	服の作り方を調べる。
	9	服をつくる②【オンデマンド】	つくった服と既製服とを比較した上でレポート提出。 ※つくった服の完成度では評価せず、つくったものから得られた考察内容を評価する。
	10	服をつくる③	服をつくってわかったことを共有する レポート提出。
	11	ファストファッションが与えた影響①	『ファッションで社会学する』（p203-216） レポート提出。
	12	ファストファッションが与えた影響②	『ファッションで社会学する』（p217-222） レポート提出。
	13	調査／わたしの服【オンデマンド】	レポート提出。
		Tモノと人、衣服との関わりについて知る	田中忠三郎『物には心がある。消えゆく生活道具と作

	14		り手の思いに魅せられた人生』麻の腰巻き、そして女性下着の研究（p18-21）、パンツはくとカモ腐る（p24-27）、暗く貧しい生活の中でも「女として美しくありたい」（p28-29）、囲炉裏が家族を作る（p56-59）、ドンジャの中、裸で眠る親と子（p82-85）、生命の布「ボド」ー「座産」（p166-169） レポート提出
	15	サスティナブルファッション②これからの衣生活について	『ファッションで社会学する』（p203-222） 最終レポート提出。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、４時間程度の事前・事後学習が必要。
教科書	田中忠三郎著 『物には心がある』アミューズエデュテインメント／2009 藤田結子 成実弘至 辻泉編『ファッションで社会学する』有斐閣／2017
参考図書、教材、準備物等	エリザベス・L.クライン『ファストファッション クローゼットの中の憂鬱』春秋社／2014 KETE FLETCHER&LYNDA GROSE『循環するファッション 新しいデザインへの挑戦』文化出版局／2014 島根県立石見美術館、国立新美術館『ファッション イン ジャパン1945-2020ー流行と社会』青幻舎／2021
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	今日のレポート60%、最終レポート40% 目標①今日のレポート15%、最終レポート10% 目標②今日のレポート15%、最終レポート10% 目標③今日のレポート15%、最終レポート10% 目標④今日のレポート15%、最終レポート10%
受講上の注意	本科目は面接授業とオンデマンドが混在しています。授業形態を毎回確認してください。 衣服を着るということは毎日あたりまえに行うことです。だからこそ日常的にバランスのとれたコーディネートが必要となります。 日頃からファッション業界についての関心を深めるために自身の衣服を購入している企業を調べてみましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 食生活論　　授業コード： 1411301

英文科目名称： Contemporary Dietary Habits

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	選択
担当教員			
木内　貴子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目(生活科学基盤科目)		講義	ナンバリング：14A103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、健康な食生活を営むために必要な基礎知識を身につけることである。高度な科学と技術の発展により産業構造や家族形態に大きな変化がもたらされたことは、食生活の営みに大きく影響する。そのため、食生活の現状とその深層を見極めるための基礎的知識について食と健康の視点から学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①健康と食生活行動との関連性について正しい知識を身につける。	ＤＰ１	10
	目標②食生活の変容、現状について把握できる。	ＤＰ１	20
	目標③食生活への影響要因を把握し、食を取り巻く環境や問題点について考えることができる。	ＤＰ３	20
	目標④自分の食生活を見直し、より健康な生活を営む力を身につける。	ＤＰ４	20
	目標⑤自分の食意識を示すことができる。	ＤＰ５	20
	目標⑥心身の健康管理のための食生活について、問題意識をもって取り組む姿勢を身につける。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食生活の概念	ガイダンス 生活における「食」のあり方、食べることの意義 事前学習：あなたにとって「生活」とは何を意味するか考え、まとめておく 事後学習：講義内容をまとめる。食べることの意義
	2	食生活の多様化と諸問題	家族と共食・こ食・欠食 事前学習：提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。共食の機能・役割
	3	ライフスタイルと食生活	食生活に影響を与える社会構造 事前学習：提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。家族の生活時間と食生活の変容
	4	生体リズムと食事～いつ食べたらよいのか～	生体リズムと食事、健康との関係 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。朝食がかかわる生体への影響
	5	バランスの良い食事の栄養学～エネルギーと栄養素の基本～	栄養と栄養素の特徴、はたらき 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。５大栄養素
	6	バランスの良い食事の栄養学～どうやって食べたらよいのか～	食事バランスガイドの概要 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：自身の食生活の振り返り　講義内容をまとめる。

	7	日本の食文化とその変遷	食のあゆみと行事食・郷土料理 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。身近な郷土食を調べる
	8	日本型食生活と望ましい献立	日本型食生活と健康とのかかわり 事前学習：講義内で提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。献立を考える
	9	食文化の継承と食事作法	食習慣と日本食の食事マナー 事前学習：講義内で提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。食べ方の特徴と利点
	10	女性の栄養学と食生活	妊娠前から考える妊産婦の食生活 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。妊娠期に必要な栄養素
	11	子どもの栄養と食生活	乳幼児期の発育・発達と栄養・食生活の特徴 事前学習：講義内で提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。幼児期の発達に伴う食の問題
	12	食物アレルギーの仕組みと食生活	食物アレルギーの原因と症状、対処法 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。除去食・代替え食
	13	若者世代の栄養と食生活	若者世代の栄養・健康の課題と食生活の特徴 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。若者世代の食生活上の課題
	14	食卓の衛生	飲食に伴う危害要因　食中毒 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。食中毒の原因物質と予防法
	15	これからの食生活 ～環境と健康～	健康のための食環境の整備と連携 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。将来に向けてどのように「食べるのか」について考えまとめる

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、４時間程度の事前・事後学習を要します。 事前学習では教科書の該当箇所を読み概容をまとめておきましょう。また、講義内で提示されるキーワードについて調べておきましょう。 事後学習では講義内容をノートにまとめるようにしましょう。
教科書	稲代貴代・大森玲子編著「食と健康の科学（第3版）」建帛社　2021年
参考図書、教材、準備物等	参考図書：講義内で随時紹介します。 教材：必要に応じて資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	仁短moodle等を利用してフィードバックを行います。
評価の配点比率	期末試験70%　課題30% 目標①期末試験10% 目標②期末試験15%　課題5% 目標③期末試験20% 目標④期末試験10%　課題10% 目標⑤期末試験10%　課題10% 目標⑥期末試験5%　課題5%
受講上の注意	授業の取り組み方については、第1回目のガイダンスで説明します。 本講義受講を、自身の食生活の振り返りの機会としてください。
教員の実務経験	栄養士経験がある教員が、現代社会における食を取り巻く環境をふまえ、適正な食生活について講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 住生活論　　授業コード： 1411401

英文科目名称： Theory of Living Arrangements

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	選択
担当教員			
内山　秀樹			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目(生活科学基盤科目)		講義	ナンバリング：14A104
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、住まいのデザインやインテリアデザインに関する基礎的な知識を修得することを目的とする。 人間にとって最も基本的な生活空間であるとともに一生のうち最も多くの時間を過ごしている「住まい」について、「眠る」、「食べる」、「着る」、「入浴･排泄」などの生活行為の視点から、”住まう”ことの意味と人と住まいの関係のあり方、望ましい住環境について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①人間と住まいの関係や環境と住文化について説明することができる。	ＤＰ７	20
	目標②生活行為と住空間のあり方について説明することができる。	ＤＰ１	40
	目標③自宅の間取りをわかりやすく描き、住環境の問題点を抽出することができる。	ＤＰ３	20
	目標④住環境の良否について適切に評価し、説明することができる。	ＤＰ４	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業ガイダンス／１　人と生活・住まい 1 人間とは	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。
	2	１ 人と生活・住まい　2 集まって住む～3 環境と住まい 課題①「わが家の間取りチェック」の説明	課題①「わが家の間取りチェック」 自宅の間取りを簡単に描き、バリアフリーの観点からの問題点と住空間的に優れている点を整理する。 事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	3	２生活行為と生活空間 A 眠る(1) 1 睡眠の生理～3 就寝様式	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	4	A 眠る(2) 4 就寝空間の計画	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	5	B 食べる(1) 1 食事について～3 食事の文化と変遷	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	6	B 食べる(2) 4 食事の場、調理の場の計画～5 調理と環境問題	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇

			所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	7	受講生が課題①を発表し、それについて意見交換する。	課題①を説明できるように準備しておくこと 事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	8	D 排泄・入浴(1) 1 排泄する～4 水環境	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	9	D 水回り空間(2) 5 現代の衛生空間～6 衛生空間の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること
	10	E ふれあう・くつろぐ(1) 1 今日のふれあいについて～3 今日のふれあい・くつろぎ空間	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	11	良い住まいとは～優れた住まいの事例の動画等による解説	課題②レポート「すまいの好事例の動画をみて」 視聴した動画の概要と学んだこと、考えたことなどをレポートにまとめる。
	12	E ふれあう・くつろぐ(2) 4 居間の計画	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。 課題②「すまいの好事例の動画をみて」提出締め切り
	13	F 子どもを育てる(1) 1 子供とは～3 子供と生活	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	14	F 子どもを育てる(1) 4 子供と住まい～5 子供部屋の計画	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	15	G 高齢者が住む・安らぐ 1 高齢者と高齢社会～4 高齢者の住まいの計画	事前に該当する箇所についてテキストを読み、重要と思われる箇所にアンダーライン、もしくはマーキングしておくこと。 事後に自分で記した重要箇所と授業で示された重要箇所の確認をし、重要事項の理解を深めること。
	16	期末試験	「着る」、「暮らしを管理する」については出題範囲から除外する。 試験はmoodleで実施するため、学内のWifiに接続でき、moodleにアクセスできるデバイスを持参するように。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回４時間程度の事前事後学習が必要。 毎回テキストの該当箇所を読み重要箇所にアンダーラインもしくはマーキングをしておくこと。
教科書	『住まい方から住空間をデザインする―図説住まいの計画』新訂第二版(林　知子他　最新版)彰国社
参考図書、教材、準備物等	参考図書：小宮洋一、片山勢津子、他『新しい住まい学』(井上書院 2016)、定行 まり子・沖田富美子『生活と住居(光生館 2013)、水上裕、岩崎俊之、 他『住まいのミカタ 暮らしに役立つ住居学』(学芸出版社 2009)、小 澤紀美子編『豊かな住生活を考える-住居学』(彰国社 2002)
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題や試験は期末または採点が済み次第、各自に返却する。
評価の配点比率	目標①期末試験20％ 目標②期末試験40％ 目標③「わが家の間取りチェック」20％ 目標④「住まいに関するビデオをみて」20％
受講上の注意	住まいのプランニングやインテリア関連分野を目指す方はもちろん、今後、生活者として不可欠の知識、理解を得ることができる基本的な内容であるため、生活科学学科の学生は受講が望ましい。 机上には、授業に関係ない、かばん等を置くことを禁ずる。 私語が目立つ場合は座席指定とする。
教員の実務経験	民間コンサルタントで22年間、住宅政策やすまいやまちづくりのコンサルティングに携わっていた経験をふまえ、生活者にとって優しく快適で安全・安心なすまいやまちづくりの方策について講述する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 情報デザイン論　　授業コード： 1411501

英文科目名称： Introduction to Information Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
田中　洋一			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	情報処理士資格必修・ビジネス実務士資格必修・秘書士資格必修	講義	ナンバリング：14Z102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、問題解決能力を身につけることである。 そのため、すぐには答えが見つからないがリアリティのある事例に取り組み、自ら課題を発見し、それを解決していくため、デザイン思考にもとづく問題解決手法のマインドセットや方法論を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①自分やチームの認知活動（考える・感じる・記憶する・判断する等）を客観的にとらえられる。	ＤＰ２	14
	目標②多面的かつ順序立てて、モノゴトを考えることができる。	ＤＰ３	29
	目標③デザイン思考にもとづき、適切な判断ができる。	ＤＰ４	26
	目標④他者の声に耳を傾け、自分の考えを自分の表現（口頭、文章等）で伝えることができる。	ＤＰ５	17
	目標⑤チームで目標を共有し、同僚支援及び率先垂範ができる。	ＤＰ８	14
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、創造①発想力を身につけよう	グループワーク、事後学習にて、対話の方法を振り返り、マイセオリーを実践する。 ※毎回、仁短Moodleにて振り返りノートの記述。
	2	デザイン思考ミニワーク①「小学生時代の遊び」を再定義しよう	ペアワーク、事後学習：デザイン思考ミニワークシートを仕上げる。プロトタイプ案を考える。
	3	デザイン思考ミニワーク②小学生向けゲームを企画しよう	ペアワーク、事後学習：デザイン思考ミニワークを仕上げる。プロトタイプを仕上げる。
	4	共感①観察力＆質問力	NVCを用いたワーク、QFTを用いたグループワーク、事後学習：インタビュー項目を完成させる。
	5	共感②インタビュー「他己紹介」	ペアワーク＆グループワーク、事後学習：他己紹介音声を作成する。
	6	共感③チームビルディング：不安を減らす	ボードゲーム「Project勇者」を用いたペアワーク＆グループワーク、事後学習：不安の外在化を試みる。
	7	問題定義①ブレスト＆SWOT分析「生活情報デザイン専攻」	リンクマップの作成、グループワークによる課題解決型学習、事後学習：Jamboardを完成する。
	8	問題定義②ユーザ、ニーズ、インサイト「情デザの魅力が伝わる高校生対象イベントを企画しよう」	グループワークによる課題解決型学習、事後学習：問題定義文を作る。
	9	創造①なぜ～なのかな？	グループワーク、事後学習：「なぜ～なのかな？」文を仕上げる。
	10	創造②もし、どうすれば	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：「なぜ、もし、どうすれば」文を仕上げる。
	11	創造③解決のためのアイデア出し	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：問題定義に対して、解決策を仕上げる。
	12	プロトタイプ＆テスト	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：プロトタイプに対するテスト結果を振り返る。
	13	ストーリーテリング①企画	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：ス

	13		トーリーテリング発表（寸劇２分）の準備。
	14	ストーリーテリング②制作	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：ストーリーテリングの小道具製作及びリハーサル。
	15	ストーリーテリング③発表＆振り返り	発表及びグループワーク、事後学習：ストーリーテリングの評価、話し合いの振り返り

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 試験に代わって、全講義終了後に、振り返りノートまとめを提出する。
準備学習に必要な時間	毎回４時間程度の予習・復習が必要です。詳細は、仁短Moodle上に示します。
教科書	適宜、必要な資料を配付する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『世界のトップデザインスクールが教える　デザイン思考の授業』日本経済新聞出版、『問題解決のためのリテラシー強化書（講義編）』河合塾.
課題（試験・レポート等）のフィードバック	デザイン思考ミニワークシート等、紙メディアの提出物は、仁短Moodleを用いて、PDFや写真として学生へフィードバックする。振り返り等の提出には仁短Moodleを用いて、課題モジュールのコメント機能等で結果を学生へフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メールやMoodleメッセージで連絡すること。
評価の配点比率	目標①リンクマップ2%、NVCシート2%、チームの振り返り5%、授業の振り返り5% 目標②発想力シート3%、QFTシート2%、インタビューシート8%、SWOTシート3%、なぜ文5%、参考サイト3%、もし～どうすれば文5% 目標③デザイン思考ミニワーク10%（3%×2+4%）、問題定義5%、解決策5%、プロトタイプ3%、テストシート3% 目標④他己紹介5%、寸劇案5%、小道具2%、ストーリーテリング5% 目標⑤振り返りノート14%（1%×14回）
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明しますが、基本的に隣席の学習者とのペアワーク及びグループワークで進行します。各回の最後、経験学習サイクルの３点に関して、仁短Moodle上の振り返りノートに記述します。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者がペア及びチームで主体的に学ぶことをめざしています。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 情報活用論　　授業コード：1411601　1411602

英文科目名称： Introduction to Information Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
辻岡　和孝			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	情報処理士資格必修・ビジネス実務士資格必修・秘書士資格必修・ウェブデザイン実務士資格必修	講義	ナンバリング：14B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、大学及び職場にて情報を扱う知識やスキルを身につけることである。テキストを通して情報の収集・分析・整理・保管・表現の方法、表計算、データ管理、プレゼンテーションについて学ぶ。授業初回および期末試験として情報活用力診断テストを行い、自身の成長を実感してもらう。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①情報を活用するための基礎的な知識・技能が身についている。	ＤＰ２	30
	目標②情報を多面的かつ順序立てて分析し活用できる。	ＤＰ２	20
	目標③職場において情報を管理する思考力が身についている。	ＤＰ３	20
	目標④情報を活用する的確な判断力を身につけている。	ＤＰ４	20
	目標⑤生活の中で主体的に情報活用力を活かせる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、プレテスト	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	2	電子メール１（登録、作成、送信、受信、返信）	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	3	電子メール２（転送・フィルタ、添付）	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	4	インターネット（Web、SNS、ブログ）	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題課す。
	5	情報検索	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	6	情報倫理（著作権、肖像権、個人情報）、情報セキュリティ	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	7	表計算１（数式、セル参照、関数）	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	8	表計算２（グラフ）	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	9	データベース	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	10	ファイル・データ管理	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	11	文書表現	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	12	ビジュアル表現	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	13	プレゼンテーションの基本	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	14	プレゼンテーション資料作成１	教科書の指定部分を予習してくること。 毎回、課題を課す。
	15	プレゼンテーション資料作成２	教科書の指定部分を予習してくること。

	15	毎回、課題を課す。
定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 情報活用力総合評価テスト CLIP（Competency & Literacy in Information-use Practice）を受験する。	
準備学習に必要な時間	毎回４時間程度の事前学習が必要。	
教科書	『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』（noa出版） 情報活用力総合評価テストCLIP	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：インターネット上や市販のWord、Excelの文献	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。 質問等がある場合は、電子メールで連絡してください。試験はCLIPの結果を配布してフィードバックします。	
評価の配点比率	目標①～④情報活用力総合評価テスト（Web試験）60％ 目標①～④課題30% 目標⑤入力テスト10％	
受講上の注意		
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している	

講義科目名称： 情報活用演習Ⅰ　　授業コード：1411701　1411702

英文科目名称： Information Literacy Seminar Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	必修
担当教員			
辻岡　和孝			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	情報処理士資格必修	演習	ナンバリング：14B103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、事務処理に必要不可欠な道具となっている表計算ソフトExcelを利用した集計処理およびデータ管理の方法を身につけることである。 授業では、表計算ソフトExcelの基本的な使用法を学ぶ。具体的には、テキストの課題を通してデータの活用方法や様々な観点からデータを捉える方法についてPCを操作しながら実践的に学ぶ。また、Microsoft Office Specialist Excel試験に合格できる総合的な知識についても模擬試験を通して身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①表計算の基本的な知識が身についている。	ＤＰ２	15
	目標②表計算ソフトExcelの基本操作が身についている。	ＤＰ２	15
	目標③目的に応じて、適切なデータ処理を選択できる。	ＤＰ４	20
	目標④ビジネスの場で用いるExcelの機能を理解している。	ＤＰ２	20
	目標⑤ビジネスの場で用いる実用的な表を順序立てて作成できる。	ＤＰ３	10
	目標⑥Excelの知識を実生活に活かすことができる。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Excelで求められるスキルとは	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	2	セルのデータ作成とオートフィル	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	3	セルの範囲指定方法、並べ替え	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	4	セルの書式設定とページ設定	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。

	5	ワークシートとブックの管理	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	6	数式と関数による集計	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	7	条件付き論理	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	8	グラフと図	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	9	ブックの共有とコメントの管理	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	10	フィルタ、データベース関数、複数条件関数	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	11	テキスト第1回模擬試験の実施、解説	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	12	テキスト第2回模擬試験の実施、解説	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	13	テキスト第3回模擬試験の実施、解説	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	14	テキスト第4回模擬試験の実施、解説	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とする。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
		テキスト第5回模擬試験の実施、解説	Moodle上にて毎回の説明と課題を課す。 以下の事前・事後学習のために1時間以上を必要とす

	15		る。 事前学習：テキストを読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	課題のため、各回１時間程度の事前・事後学習が必要である。
教科書	『Microsoft Office Specialist Mos Excel 365 対策テキスト&問題集』（FOM出版）
参考図書、教材、準備物等	参考図書:Excelに関する書籍
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題のフィードバックはMoodleにて行う。MOS試験の場合は結果をプリントしたものをフィードバックする。
評価の配点比率	目標①②④授業毎の課題50％ 目標③⑤⑥実技試験50％(期末試験またはMOS試験)
受講上の注意	Excelは様々な会社で使われており、将来役立つソフトであるので、どのような機能があるのかを実際にPCを操作してマスターすることが大切である。Excelによるデータ分析の基本とデータのグラフ化など説得力のある分析手法及びデータ表現方法について例題を参考に身につけるよう努力すること。データ分析・データのビジュアル化のスキルを確実に身につけるためにもMOS　Excelの資格取得を推奨する。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： プログラミングⅠ　　授業コード：1411801　1411802

英文科目名称： ProgrammingⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	必修
担当教員			
田中　洋一			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	情報処理士資格必修・ウェブデザイン実務士資格選択	演習	ナンバリング：14B102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、プログラミングの楽しさに触れると共に、問題解決能力・論理的思考力・創造力を身につけることである。 そのため、小学生でも簡単に使用できるブロック型プログラム言語Scratchを用いて、ゲーム制作およびプログラミングの初歩を学ぶ。小学生にプログラミングを教えるCoderDojoプロジェクトをケースとして、例題や教え方を考える。変数、関数、条件分岐、乱数を使用したアルゴリズムの基本を学習する。また、デザイン思考のプロセスを知り、プログラム制作に活用でき、自分の思考・判断・表現を振り返ることができる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①プログラミングの基礎的なキーワード（変数、関数、条件分岐等）について説明できる。	ＤＰ２	11
	目標②論理的思考力：物事を整理し構造的にとらえることができる。	ＤＰ３	24
	目標③問題解決能力：試行錯誤する経験にもとづき、問題を解決できる。	ＤＰ４	18
	目標④創造力：「想像する→作る→遊ぶ→共有する→振り返る→再び想像する」というサイクルを繰り返すことにより、新しい価値のあるものを作ることができる。	ＤＰ４	28
	目標⑤制作を通して、自分に自信を持ち、プログラミングを楽しめる。	ＤＰ６	19
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	事後学習：Blockly Gamesのプログラムを体験、課題「プログラミング的思考とは」 ※毎回、仁短Moodleにて振り返りノートの記述。
	2	Scratch入門（繰り返し）	アニメーションを作ろう（例題１）、図形を描こう（例題２）、事後学習：すべてのプログラムを完成
	3	Scratch入門（条件分岐＆変数）	２つ以上のものを動かそう（例題３）、音を鳴らそう（例題４）、乱数を用いたゲームを制作しよう（例題５）、事後学習：すべてのプログラムを完成
	4	処理の繰り返しを用いたピンポンゲームを制作しよう	ピンポンゲーム（課題１）を制作、事後学習：独自ピンポンゲーム及びプログラム説明ページの完成
	5	ピンポンゲームの改良＆評価	事後学習：他者のゲームを体験して、良い点をコメントする。自己を振り返り。
	6	条件分岐を用いた迷路ゲームを制作しよう	迷路ゲーム（課題２）を制作、事後学習：独自迷路ゲーム及びプログラム説明ページの完成
	7	迷路ゲームの改良＆評価	事後学習：他者のゲームを体験して、良い点をコメントする。自己を振り返る。
	8	変数及び数値演算を用いたリンゴキャッチゲームを制作しよう	リンゴキャッチゲーム（課題３）を制作、事後学習：独自リングキャッチゲーム及びプログラム説明ページの完成
	9	リンゴキャッチゲームの改良＆評価	事後学習：他者のゲームを体験して、良い点をコメントする。自己を振り返る。
	10	小学生向けオリジナルゲームを企画しよう	ペアワーク、事後学習：オリジナルゲームを企画する
	11	小学生向けオリジナルゲームを制作しよう①	事後学習：オリジナルゲームの制作を開始
	12	小学生向けオリジナルゲームを制作しよう②	事後学習：オリジナルゲームを制作する
	13	小学生向けオリジナルゲームの完成＆口頭試問①	事後学習：オリジナルゲーム及びプログラム説明ページの完成

	14	オリジナルゲームの相互評価＆口頭試問②	事後学習：オリジナルゲームを相互評価する
	15	オリジナルゲームの自己評価＆口頭試問③	事後学習：オリジナルゲームを自己評価する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 試験に代わって、全講義終了後に、振り返りのまとめを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の事後学習が必要。詳細は、仁短Moodle上に示します。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：インターネット上や市販のScratchに関する文献
課題（試験・レポート等）のフィードバック	紙メディアの提出物は、仁短Moodleを用いて、PDFや写真として学生へフィードバックする。ゲームの公開及びプログラム説明は、仁短Moodleにて履修者間で共有し、コメント機能を用いて、相互評価や教師評価をフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メールやMoodleメッセージで連絡すること。
評価の配点比率	目標①課題プログラム説明シート11%（課題１～３：2%×３個、オリジナルゲーム：5%） 目標②プログラミング的思考ワーク２%、BlocklyGames体験2%、例題11%（例題１～５：各2%、例題２加点：1点）、フィードバックコメント4%、相互評価ワークシート5% 目標③課題18%（課題１～３:各6%） 目標④小学生向けオリジナルゲーム23%（第１歩ワークシート3%、ゲーム制作10%、口頭試問10%）、自己評価ワークシート5% 目標⑤振り返りノート14%（1回～14回：各１%）、振り返りのまとめ５%
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。各回の最後、経験学習サイクルの３点に関して、仁短Moodle上の振り返りノートに記述します。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者が主体的に学ぶことをめざしています。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： マルチメディア演習Ⅰ　　授業コード：1411901　1411902

英文科目名称： Multimedia Seminar Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格選択	演習	ナンバリング：14B104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、画像・サウンド・動画などのマルチメディアコンテンツを利用し、様々な手法で映像作品を制作する技術を身につけることである。特に、ビジネスにおける動画による情報発信を念頭に置き、スマートフォン、PowerPoint等の動画への活用方法を学ぶ。 マイク、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、タブレット等に加えて、スマートフォンで撮影した音声、画像や映像をパソコンへ取り込み、編集。最後に、テーマに沿った映像作品の制作を通して、映像作品制作の知識・技術を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①映像編集および関連する用語、作成手順を理解できる。	ＤＰ２	30
	目標②パソコンへマルチメディアコンテンツを取り込み、編集できる。	ＤＰ３	10
	目標③テーマに沿った映像作品が制作できる。	ＤＰ５	30
	目標④チームで協働して作品を作成することができる。	ＤＰ８	20
	目標⑤映像作品の制作にあたり著作権や肖像権などに気を付けることができる。	ＤＰ３	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業概要と動画作成の流れ	様々な動画作成（編集）手法について、機材、アプリケーションソフト等についての概要を学びます。
	2	動画作成から配信までの流れを学ぶ	動画作成の目的設定、構成、内容の設計から実際の撮影、編集までを学びます。
	3	動画編集アプリの活用と基本的な考え方（１）	Windowsフォトを活用した動画作成の流れを学んだあとで、実際に短い動画作品を作成してみます。
	4	動画編集アプリの活用と基本的な考え方（２）	Windowsフォトを活用した動画作成の流れを学んだあとで、実際に短い動画作品を作成してみます。
	5	動画の公開、相互評価と著作権に関する知識	作成したそれぞれの動画作品をYouTube（限定公開）でアップロード。このMoodleのフォーラム上で公開して相互評価を行います。それぞれの作品を相互評価することで、動画作成に関する注意すべき点、工夫すべき点などの気づきを深めていきます。
	6	動画のレビュー PowerPointによる動画作成の基本	５週目に作成してフォーラムで相互評価した動画について全体的なレビューを行います。レビューを通して、上手な編集方法、マルチメディアの効果的な使い方について学びます。また、著作権、その他産業財産権についての理解を深めます。 PowerPointによる動画作成の基本について学びます。
	7	PowerPointによる動画作成・基本操作	PowerPointでの動画作成のメリット等について学んだあとで、基本的な操作をもとにPowerPointで簡単な動画作成を行います。 音声入力、カメラ連携、アニメーション等での解説の基本を学びます。
	8	PowerPointによる動画作成・基本操作の実習	PowerPointでの動画作成のメリット等について学んだあとで、基本的な操作をもとにPowerPointで簡単な動画作成を行います。 音声入力、カメラ連携、アニメーション等での解説の基本を学びます。

	9	PowerPointによる動画作成・解説動画の作成演習	PowerPointによる解説動画の基本的な機能を使って、実際に解説動画を作成してみます。なお、この技術は、マイプロジェクトや卒業研究の中間発表、最終発表等でも必要な知識となります。自由に、動画を作成して、YouTubeスタジオで限定公開、公開等の原理を理解して、安全に動画配信等できる技能を身に着けます。
	10	動画レビュー（振返り）、最終課題に向けて	作成したPowerPointの動画に関して、振り返りを実施します。 また、最終課題に関しての説明、写真、動画撮影時のポイントなどを説明します。
	11	最終課題のシナリオ・企画	最終映像課題に関するシナリオ、企画を考えます。 誰が見ることを想定しているのか、何を伝えたいのか、そのためにどのような構成、シナリオでどのような映像素材、写真資材が必要かなどを検討、考えます。
	12	最終課題の素材あつめ、編集 最終映像課題に関するシナリオ、企画から、伝えたい人に伝えたいことを伝わるようにするために、どんな映像、写真、素材が必要かを考えて素材選び（撮影など）に臨みます。「なにを」よりも「誰に」の方が難しいです。	著作権などに気を付けて、無料の素材活用しながら映像作品を作成します。 授業中、自分のPCで編集したい方は持参してください。カメラ（授業で使ったウェブカメラ）やジンバル（スマホを水平安定させる機械）などを借りたい学生は研究室までご連絡ください。映像などの撮影方法などの相談にものります。楽しい映像作品を作りましょう。
	13	最終課題の評価・講評	引き続き、動画の制作をおこないます。
	14	映像作品の発表と相互評価	フォーラムに１人１件の動画リンク（YouTube）を限定公開して、相互評価します。
	15	マルチメディア、映像制作のまとめ	これまで学習した映像編集（加工）の考え方について、全体のまとめ、振り返りをおこないます（これまでの学習内容は下記の１～４）。特定のアプリの操作方法に依存するのではなく、基本的な映像、画像の知識を正しく理解し、幅広く応用できる力が身についたかどうか、自分自身で再度確認し、復習してみましょう。今後、２年生での卒業研究や社会に出てからも活用できる基礎知識です。 1.基本的なデジタル画像に関する知識、レタッチの基本的な考え 2.Windowsフォトを活用した動画アプリの基本的な考え方 3.PowerPointを

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習、課題制作で毎回１時間程の事前・事後学習が必要。
教科書	「PowerPointでかんたん！動画作成」（技術評論社）ISBN 978-4-297-11940-9
参考図書、教材、準備物等	教材としてMoodle上で配布予定
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題はすべてMoodle上へ提出してもらい、フィードバックもMoodle上で行う。
評価の配点比率	目標①確認テスト20% 目標①～⑤映像作品課題40%、サウンドデータ編集課題10%、撮影課題10%、ビデオ編集課題20%
受講上の注意	動画作成は将来的に役立つ場面もでてきますので、この機会に習得しましょう。
教員の実務経験	企業経営の経験、商工会議所等での専門アドバイザー（経営、マーケティング手法等の一つとしての動画活用等）としての経験を有する教員が、その経験を活かして、ビジネスにおける動画作成、活用等の基本的な知識や今日的な課題について講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： Webデザイン　　授業コード：1414001　1414002

英文科目名称： Web Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
吉村　正照			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格必修	講義	ナンバリング：14B105
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、Web制作における基本的な力を養うことである。専用の制作ツールを用いながら、UIデザインにおける基本的な知識と技術を学び、プロトタイピングを行う。更に、Webページを作成するために必要な言語について学習し、HTMLによるマークアップやCSSによるスタイリングの技法を習得していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①制作ツールの扱い方を理解し、速く正確に作業ができる。HTMLやCSSの基本を理解し、正確な記述ができる。UIデザインの基本を理解し、意図した表現ができる。	ＤＰ２	50
	目標②目的や対象を想定し、使う人の側に立ったデザインができる。	ＤＰ４	30
	目標③デザインの意図を言語化して説明できる。	ＤＰ５	10
	目標④Web制作に取り組む上で必要となる姿勢を身につけ、Web制作演習Ⅰ、Web制作演習Ⅱでの実践的な制作に対応できる基礎力を習得することができる	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業概要、制作ツールの紹介	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	2	情報設計、ワイヤーフレーム	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	3	UIパーツの作成	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	4	UIパーツのレイアウト	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	5	色スタイル・文字スタイルの管理、UIパーツの管理	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	6	レスポンシブデザイン	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	7	コードエディタやWebブラウザの基本操作、Webページで扱う画像の形式	練習用の制作環境（VS Code）を整える 事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	8	HTMLの書き方	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	9	CSSの書き方①　文字、色	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	10	CSSの書き方②　レイアウト	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	11	CSSの書き方③　メディアクエリ	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	12	生成AIの活用	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	13	最終課題①　UIデザイン	期日までに課題作品を完成し、Moodle上に提出する
	14	最終課題②　コーディング	期日までに課題作品を完成し、Moodle上に提出する

	15	最終課題③　プレゼンテーション、相互評価、口頭試問	事前学習：プレゼンテーションを準備する 事後学習：レビューの結果を踏まえて課題作品の完成度を高め、Moodle上に提出する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回３～４時間程度の事後学習が必要。毎回の授業で知識や技術を積み重ねるため、事後学習は事前学習を兼ねている。 短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれることが望ましい。 最終課題においては、4時間以上の自主制作が必要。
教科書	教科書は使用しない。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『プロを目指す人のためのHTML&CSSの教科書』（マイナビ出版 2022） その他の参考図書や資料は授業内で紹介する。 教材はMoodle上で配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小テスト（Moodle上で実施）：毎回の授業で学んだ基礎知識が3～5問出題される。自動採点によりフィードバックする。 授業毎の課題（Moodle上で実施）：毎回の授業で小さな作品を制作し提出する。コメントによりフィードバックする。 最終課題（第15回）：講評によりフィードバックする。
評価の配点比率	目標①　小テスト20%、授業毎の課題20%、最終課題10% 目標②　授業毎の課題10%、最終課題20% 目標③　授業毎の課題5%、最終課題5% 目標④　小テスト5%、授業毎の課題5%
受講上の注意	技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。 質問はオフィスアワーまたはeメール、Moodleメッセージで受け付けます。
教員の実務経験	デザイナーおよびディレクターとして20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かし、実際の現場で使われてる専門的な制作ツールを用いて実践的な課題を扱う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： ビジネス実務総論　　授業コード： 1412101

英文科目名称： Introduction to Business

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ビジネス実務士資格必修・秘書士資格選択	講義	ナンバリング：14C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会人として必要なビジネススキルの基礎的理解をとおして、自らのキャリア形成に必要な知識・技能の習得をおこなうことである。具体的には、企業における事業活動を念頭におき、業務処理のいくつかの場面やそこでのコミュニケーションを取り上げ、実務でのキャリア形成につなげていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①ビジネス実務に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、組織システムを理解することができる。	ＤＰ２	50
	目標②ビジネス上のコミュニケーションに関する基礎的な知識・技能をもとに、状況に応じた多面的分析を行うことができる。	ＤＰ３	20
	目標③ビジネス実務に関する基礎的な知識をベースに、ビジネス上の諸問題に対し、適切な判断を行うことができる。	ＤＰ４	20
	目標④自身の将来のキャリアについて考え、主体的に取り組む意欲・態度を形成することができる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ビジネス実務とは ビジネスとは、仕事での価値について考えます。	事後学習：会社で働くということについて調べ、自分の考えをまとめたうえでレポートとして提出
	2	キャリア形成と職業意識、コミュニケーション 社会人としてのキャリア形成、働くことの意味について考えます。	教科書第一章について事前に読んでキャリア形成に関する自分の考えをまとめておくこと。 LMS（Moodle）上の確認問題の実施と、自分自身の目標設定に関するレポートを提出
	3	ビジネス文書の基本 － ビジネス文書の意義	ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、実際にどのようなものがやり取りされ、なぜ必要か、また、どのような形式で作成していくかの基礎を習得する。 ビジネス文書の基礎を復習したうえで、LMS（Moodle）上の確認問題を実施すること
	4	ビジネス業務の基本 － 社外文書、社内文書	具体的なビジネス文書の種類から学びます。社内文書、社外文書の基本的な違いについて概要を学びます。 ビジネス文書の基礎を復習したうえで、LMS（Moodle）上の確認問題を実施すること
	5	ビジネス文書の基本と実務 － 稟議の意義と実際	ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、それぞれの形式が持つ意味を理解することで、ビジネス文書活用の意義を確認する。具体的には以下のとおり。 文書作成（起案）から稟議、発送、保管までのサイクルの理解 報告、連絡、相談と社内コミュニケーション ビジネス文書の基礎を復習したうえで、LMS（Moodle）上の確認問題を実施すること
		ビジネス文書作の基本と実務 － 往復文書、メール等	ビジネス文書の基本を学び、様々な種類や役割について、その概要を学びます。特に、この回では、ビジネ

	6		スに欠かすことができなくなった電子メール等のやりとりの実際や注意点などを実例を用いて学びます。 課題：LMS（Moodle）上のビジネスメールに関するレポート課題を実施すること
	7	ビジネス文書の基本と実務 － 報告書の意義	ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、それぞれの形式が持つ意味を理解することで、ビジネス文書活用の意義を確認する。特に、ビジネス実務での意思伝達、記録を残す意味で重要な報告書の意義（形式から実際のやり取り）を理解します。 課題：LMS（Moodle）上の報告書に関する確認問題を実施すること
	8	会議業務を考える	会社・組織での会議業務について考えます。会議の種類や進め方、準備等について、主催する側、参加する側双方の視点で会議業務の実際について学びます。 教科書第７章「会議業務」を中心に事前に内容を読み理解しておくこと。 課題：LMS（Moodle）上の会議のあり方に関するレポート、ならびに、確認問題を実施すること
	9	会議業務と議事録等の事務の意義	会議業務に必須となる「議事録」について、その一般的な必要事項を学んだあとで、実際に作成された議事録をベースに問題点、改善点等について考察を行います。 課題：LMS（Moodle）上の議事録に関するレポートを提出してください
	10	来客対応と訪問	来客対応の良しあしが会社の印象を左右するとも言われます。社会人としてビジネスをしていくうえで必要となるマナーの一環として来客対応があります。これらの基礎を理解し、実践で活用できる知識・技能をみにつけます。 課題：LMS（Moodle）上の来客対応、名刺交換、訪問に関する確認問題を実施すること
	11	電話対応の実際	電話対応における心構えやマナーについて学びます。電子メールやウェブ上でのやり取りが増えた現在でも、電話対応はビジネス実務で重要な役割を担っています。それらの重要性やコミュニケーションのあり方の実際を学び考察します。 課題：LMS（Moodle）上の電話対応を考える確認問題を実施すること
	12	会社に関する基礎知識 － 会社に関する法的な基礎知識のまとめ	会社の基礎について学びます。業種・業界・職種などの違い、会社（株式会社、合同会社等）の違いを学んだうえで、組織のあり方や働き方について考えます。 課題：LMS（Moodle）上の会社の基礎知識に関する確認問題を実施すること
	13	実務で必要な法律と事務に関する知識	今回、次回の２回をとおして、仕事の取組み方、法律、税金、保険等の知識について学びます。社会人として必要なルール、ビジネスをするうえで知るべき事項など、今までと違い、覚えなければいけない知識も多いので、しっかりと取り組みましょう。 課題：LMS（Moodle）上の仕事に関する法律の確認問題を実施すること
	14	実務で必要な税金、保険等に関する知識	前回、今回の２回をとおして、仕事の取組み方、法律、税金、保険等の知識について学びます。社会人として必要なルール、ビジネスをするうえで知るべき事項など、今までと違い、覚えなければいけない知識も多いので、しっかりと取り組みましょう。 課題：LMS（Moodle）上の仕事に関する税金、保険の確認問題を実施すること
	15	まとめ（授業内容全体の確認） まとめの確認テストの実施	これまでの学習内容を再確認するために、まとめの確認テストを実施します。 また、確認テストの内容を踏まえて、全体の振返り、テスト結果に対するフィードバックを実施します。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事後学習、授業準備に毎回４時間程度の時間が必要。
教科書	「大学生・新社会人のためのビジネス実務の基礎知識」（一粒書房） (ISBN 978-4-86743-028-6)
参考図書、教材、準備物等	適宜プリント等を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	企業等の業種を問わず、様々な実務の場面で活用できる知識・技能の理解・習得を目指して課題を実施していきます。LMS(Moodle)を利用して課題の配布・提出が行われるので、LMS上で頻繁に実施される課題に関するフィードバック、電子メール等でのお知らせ等を必ず確認してください。
評価の配点比率	目標①　15回目に実施するまとめの確認テスト　30% 目標①　授業で提出するレポート課題　20% 目標②　授業で提出するレポート課題　20% 目標③　授業で提出するレポート課題　20% 目標④　授業で提出するレポート課題　10%
受講上の注意	この科目は「ビジネス実務士資格」必修科目。

教員の実務経験	企業経営の経験、商工会議所等での専門アドバイザーとしての経験を有する教員が、その経験を活かして、ビジネスにおける基本的な知識や今日的な課題について講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 秘書概論　　授業コード： 1412301

英文科目名称： Introduction to Secretarial Work

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
大竹口　麻里			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	秘書士資格必修	講義	ナンバリング：14C103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、秘書業務に関する基礎的知識について学習し、社会の一員として働くための基本的姿勢を身に付けることである。 秘書検定の勉強を通して、秘書としての資質や役割、言葉遣い、ビジネスマナー、会社組織の仕組みなど、社会人として身に付けるべき知識及び技術について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①秘書としての資質や役割について説明できる。	ＤＰ７	10
	目標②秘書業務に必要な一般知識を身に付けている。	ＤＰ２	30
	目標③適切な敬語表現を使うことができる。	ＤＰ５	20
	目標④職場において必要とされる文書を作成することができる。	ＤＰ３	20
	目標⑤秘書として必要とされる能力や人柄について省察できる。	ＤＰ４	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	マナー・接遇（敬語、接遇用語、人間関係と話し方・聞き方・断り方）	授業の進め方、予習や復習の仕方などについて説明を行う。宿題としてｐ23までの練習問題を解いておくこと。
	2	マナー・接遇（指示の受け方、報告の仕方、依頼・説得の仕方、電話応対）	授業後にp35までの練習問題を解いておくこと。
	3	マナー・接遇（来客応対、慶事・パーティーのマナー）	授業後にp45までの練習問題を解いておくこと。
	4	マナー・接遇（弔事のマナー、贈答・見舞いのマナー）	授業後にｐ59までの練習問題を解いておくこと。
	5	技能（会議の知識、社内文書、社外文書）	授業後にp73までの練習問題を解いておくこと。
	6	技能（社交文書、グラフの書き方、受信文書の取り扱い）	授業後にp89までの練習問題を解いておくこと。
	7	技能（「秘」扱い文書の取り扱い、郵便の知識、ファイリング、資料の整理）	授業後にｐ103までの練習問題を解いておくこと。
	8	技能（スケジュール管理、オフィスのレイアウトと整理）	授業後にｐ113までの練習問題を解いておこと。
	9	一般知識（カタカナ用語・略語、企業の基礎知識、経営管理の知識）	授業後にｐ123までの練習問題を解いておくこと。
	10	一般知識（人事・労務、マーケティングの知識）	授業後にp133までの練習問題を解いておくこと。
	11	一般知識（企業会計・財務・税務の知識）	授業後にｐ139までの練習問題を解いておくこと。
	12	必要とされる資質（秘書としての心構え、求められる人柄、機密保持）	授業後にｐ153までの練習問題を解いておくこと。
	13	必要とされる資質（求められる能力）	授業後にｐ161までの練習問題を解いておくこと。
	14	職務知識（秘書の役割と機能）	授業後にｐ183までの練習問題を解いておくこと。
	15	職務知識（秘書の業務）	

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回４時間程度の事後学習が必要。授業で学習したテキストのページの練習問題を解いておくこと。
教科書	西村この実『現役審査委員が教える秘書検定2級.3級テキスト＆問題集』（成美堂出版2024）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：実務技能検定協会『秘書検定実問題集2級』（早稲田教育出版）、実務技能検定協会『秘書検定実問題集3級』（早稲田教育出版）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明する。質問は授業の前後に教室にて受け付ける。何かあればotake-m@mx4.fctv.ne.jpに連絡すること。
評価の配点比率	目標①②⑤筆記試験60％ 目標③④演習への取り組み　40％
受講上の注意	一般常識からビジネスマナー、幅広い教養を身につけることは就職活動時に役にたつことでしょう。興味をもって取り組みましょう。
教員の実務経験	日本航空にて客室乗務員として7年間お客様のサービスを担当。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 会計学入門　　授業コード：1412401　1412402

英文科目名称： Introduction to Accounting

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
小形　光雄			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14C104
添付ファイル			

授業の概要	この授業の目的は、会計学の基本原理の学びを通して、会計という「言語」の基本を身につけることです。 会計はビジネス社会における一つの重要な「言語」です。企業はこの会計「言語」を使って、企業を取り巻く様々な利害関係者（ステークホルダー）とコミュニケーションをとっています。そうした意味から、会計は一つの「情報（メディア）」とみることもできます。その「情報」の一つに、企業の決算書があります。決算書は、簿記のルールに基づいて作成されます。本授業で簿記の基本を学習し決算書を作成したり読めるようになりましょう。授業は、テキスト・問題集を活用しながら進めます。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①簿記に関する基本的な知識・技能を身につけることができる。	ＤＰ２	40
	目標②簿記を学ぶことで、会計に関する問題を発見・解決するための思考力・判断力を身につけることができる。	ＤＰ４	30
	目標③簿記を学ぶことで、自らが問題に取り組む主体性を身につけることができる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：企業について考える（企業と会社、業種、規模、分類、福井県の現状） テキスト・問題集　第１編（第１章　企業の簿記　第２章　資産・負債・資本と貸借対照表）	（予習）あらかじめ、日本にはどんな業種・職種があるのかについて調べておくこと。 テキスト第１編（第１章）を読み、簿記とは何かを考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	2	テキスト・問題集　第１編（第３章　収益・費用と損益計算書　第４章　取引と勘定記入）	（予習）テキストを読み、収益・費用とは何かを考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	3	テキスト・問題集　第１編（第５章　仕訳と転記　第６章　仕訳帳と総勘定元帳）	（予習）テキストを読み、仕訳とは何かを考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	4	テキスト・問題集　第１編（第７章　試算表 ～ 第９章　損益計算書と貸借対照表）その①	（予習）テキストを読み、決算はどのような順番で行うのか考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	5	テキスト・問題集　第１編（第７章　試算表 ～ 第９章　損益計算書と貸借対照表）その②	（予習）第４回の授業内容を復習し、理解できなかった点をまとめておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	6	テキスト・問題集　第２編（第１章　帳簿 ～ 第３章　商品売買の記帳）	（予習）テキストを読み、商品売買の記帳とはどのように行うのか考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。

	7	テキスト・問題集　第２編（第４章　掛け取引の記帳　第５章　手形取引の記帳）	（予習）テキストを読み、掛け取引とはどのように行うのか、手形とは何なのか考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	8	テキスト・問題集　第２編（第６章　電子記録債権・電子記録債務　第７章　その他の債権・債務の記帳）	（予習）テキストを読み、債権・債務とは何なのか考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	9	テキスト・問題集　第２編（第８章　有形固定資産の記帳 ～ 第１０章　税金の記帳）	（予習）テキストを読み、株式会社・株式の仕組みについて考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	10	テキスト・問題集　第２編（第１１章　証ひょうと伝票）	（予習）テキストを読み、伝票の仕組みについて考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	11	テキスト・問題集　第３編（第１章　決算整理（１））	（予習）テキストを読み、決算手続きについて考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	12	テキスト・問題集　第３編（第２章　決算整理（２））	（予習）テキストを読み、収益・費用の見越し繰り延べについて考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	13	テキスト・問題集　第３編（第３章　決算整理後残高試算表）	（予習）テキストを読み、各種試算表について考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	14	テキスト・問題集　第３編（第４章　精算表と財務諸表）	（予習）テキストを読み、精算表について考えておくこと。 （復習）課題（プリント配布予定）に取り組み次回提出すること。
	15	定期考査前直前模試	（予習）決算整理について復習しておくこと。 （復習）定期考査に向け理解できなかった点を復習し定期試験に備えること。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、４時間程度の事前および事後の学習が必要となる。テキストをよく読み、わからない点を授業を通して理解し、復習に取り組むこと。
教科書	日本商工会議所公認　日商簿記３級テキスト（株式会社カリアック）
参考図書、教材、準備物等	日本商工会議所公認　日商簿記３級問題集・解答集（株式会社カリアック）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の理解を深めるために、毎回課題を出します。課題は毎回2点満点評価で14回あります（成績に占める割合28%）。各課題は内容を確認し、フィードバックします。疑問点がある場合には、メールまたはオフィスアワーを利用してください。
評価の配点比率	目標①毎回の課題10%、期末試験30% 目標②毎回の課題10%、期末試験20% 目標③毎回の課題 8%、期末試験22%
受講上の注意	授業を受ける前に、テキストを利用して予習をしてください。授業ではテキストに記載されていないことも学習します。授業は問題集を活用しながらから進めます。また、授業中はノートを取るなどして、授業後は復習をしてください。 授業の進度によっては、学習の順番を前後させることがあります。その場合には、あらかじめ連絡します。なお、この授業は、2回生前期の「簿記演習」につながりますから、2回生前期に「簿記演習」を履修する予定のある方は本授業を履修することが望ましいです。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： コミュニケーション演習　　授業コード：1412601　1412602

英文科目名称： Communication Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
宮沢　好美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14C105
添付ファイル			

授業の概要	・本授業は、対人コミュニケーションに的を絞り、心理学・行動科学に基づいた実践的なコミュニケーション方法を修得することを目的とする。 ・職場で良好なコミュニケーションを図ることが難しくストレスを抱え悩み、心の健康を害するというケースは増加傾向にある中で、対人コミュニケーションについて学んでおくことが社会に適応するために必要時代となっている。 ・様々な実務場面で活用できるコミュニケーションの基礎理論を学習した上で「グループワーク」など様々な演習活動を通し「聴く・話す・伝わる」スキルを身につけ、その応用を目指す。そして豊かな対人関係のあり方とはどのようなものかを体感し理解を深める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①自分の考えや感じたことを整理できる。	ＤＰ２	15
	目標②自分の考えを聞き手に伝えるための的確な言葉選びができる。	ＤＰ２	15
	目標③自分の考えや思いを聞き手に印象深く伝えることができる。	ＤＰ５	20
	目標④他者の言葉に耳を傾けることができる。	ＤＰ５	20
	目標⑤言葉を使って他者とよりよいコミュニケーションをはかることができる。	ＤＰ８	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、なぜ「コミュニケーションを学ぶ」のかを全員で考察し、コミュニケーションの機能ついてグループワーク １）　授業の進め方・到達目標と評価の説明 ２）　なぜ大学でコミュニケーションを学ぶのか ３）　自己紹介ゲーム ４）　スマートフォン等の機器、 ５）　パソコン、LMSの利用について ６）　グループ演習の進め方について	互いに心が満たされる対人コミュニケーションの重要性やその機能について議論します。 自己紹介をゲーム形式で行います。 事後学習：講義概要(シラバス)を見直す
	2	コミュニケーションの基本過程、コミュニケーション力を高める要素・スキルについて理解する① １）　伝える伝わるために ２）　伝達力トレーニング ３）　演習：自分の考えを書いてまとめる グループで様々な意見交換をする グループの意見をまとめて、発表する	グループワーク：ゲーム形式でグループを作り、今後のワークに向けて準備をします。 自分の考えを書き出し、グループで意見交換しまとめ発表することを短時間に行う演習を実施し“伝わるように伝える”ことについて体験しながら考える。 事後学習：議論に関するレポートをMoodleに提出すること。
	3	コミュニケーションの基本過程、コミュニケーション力を高める要素・スキルについて理解する② １）　論理的な話し方の基礎を理解 ２）　演習：論理的に伝えることのメリットを体験的に学習する	グループワーク：自分のまとめた内容を元に、グループで話し合い、他人の意見に耳を傾ける。 他人の意見を批判的（いい意味で）に捉えて、論理的、構造的な構成になっているか考える。 ・グループでの意見交換（理由等を添えて自分の意見を言おう） ・グループでの意見をまとめてみよう。 ・発表してみよう（代表が発表） 事後学習：次回のワークに向けて事前準備。 提示するテーマについて論理的に伝えられるよう準備すること。

	4	チームビルディングの体験 １）　チームビルディングとは何か？ ２）　チームビルディングを通して、グループ力が高まることを体感する	事後課題：グループビルディングを体験しての気づきや理解したことについてのレポートを提出すること。
	5	聴くための知識とスキルを習得する① １）　傾聴法とは ２）　傾聴法のスキル　(姿勢・態度・うなずき・あいづち・応答の仕方)	コミュニケーションにおいて重要である“きく”ことに焦点をあてる。 傾聴法とは何か、スキルを理解し、実践に繋げられるようにする。
	6	聴くための知識とスキルを習得する② ペアワークで傾聴法を体験しそのスキルを習得する	ペアワーク：傾聴法のワークを行い、良い聴き手、悪い聴き手を体験する。 互いに振り返り意見交換する。 どのような聴き方が効果的かを体験的に学習する。
	7	非言語コミュニケーションについて理解し、その効果を体験的に学ぶ １）　印象形成について体験しながら理解する ２）　演習：表情・声の出し方・態度などを工夫すると伝わり方がどう違うか検討する	事後課題:言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの伝わり方や印象の違いに関するレポートを提出すること。
	8	自分と他者の認知の違いを理解し、自己主張する際のスキルを習得する １）　認知とは何かを学ぶ ２）　自分と他者の認知の違いを理解する ３）　ミスコミュニケーションを防ぐにはどうしたたよいかを考える ４）　相手も自分の大切にした自己自己主張法「アサーション」 「アサーション」のスキルを学ぶ ５）　アサーショントレーニング(ロールプレイ)	ワークを通して、自分と他者の認知の違いを体感します。 自分と他者の認知の違いを理解した上で、ミスコミュニケーションを防ぐための 伝え方を考える。さらに、自分の主張を自分も相手も大事にしながら伝える自己主張法「アサーション」について学び、ロールプレイをしながら習得する。 事後学習：対人コミュニケーションで重要と感じたことをまとめた上で、 自分はどのように行動に繋げるかレポートを提出すること。
	9	ワールドカフェ演習① 多様な意見を聞き、まとめるための手法であるワールドカフェの演習	グループワーク：自分の意見をまとめて、論理的に伝える体験をする。 事後学習：ワールドカフェで出された意見をまとめて、発表できるよう準備すること。
	10	ワールドカフェ演習② 多様な意見を聞き、まとめるための手法であるワールドカフェの演習	グループワーク：ワールドカフェで出された意見を集約し、これまで学習した「論理的な構成」「傾聴法」「効果的な質問」「非言語コミュニケーション」などを踏まえた上でまとめていく。 最終的にグループごとに意見を発表する。 事後学習：ワールドカフェを体験しての意見をミニレポートにまとめ提出すること。
	11	プレゼンテーション（自己アピール）演習に向けて準備 １）　自己理解を深めるワーク「20の私」 ２）　ンテーション（自己PR）演習に向けて 一人でするブレインストーミング演習「アイデアの花」	発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。 そのためのアイディア発散のためのツール「ブレインストーミング」を実施するための手法 「アイディアの花」について学ぶ。 事後課題：アイディアの花のシートを完成させて指定期日までに提出すること。
	12	プレゼンテーション（自己アピール）演習と評価、論理演習① 発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。 発表内容をスマートフォン等を使ってリアルタイムに相互評価、議論します	ループワーク：多様な意見をまとめ、論理的、構造的に文章化し、発表する。 事後学習：発表の準備、振り返りをする。
	13	プレゼンテーション（自己アピール）演習と評価、論理演習② 発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。 発表内容をスマートフォン等を使ってリアルタイムに相互評価、議論します	グループワーク：多様な意見をまとめ、論理的、構造的に文章化し、発表します。 事後学習：発表の準備、振り返りをする。
	14	プレゼンテーション（自己アピール）演習と評価、論理演習③ 発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。 発表内容をスマートフォン等を使ってリアルタイムに相互評価、議論します。	グループワーク：多様な意見をまとめ、論理的、構造的に文章化し、発表します。 事後学習：発表の準備、振り返りをする。
	15	授業のまとめ 最終課題(レポート)の提示、提出方法、評価の説明、本授業全体の振り返り。	プレゼンテーション(自己アピール)演習と本授業で学んだ知識とスキルを振り返りディスカッション。 事後学習：レポートの作成。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回1時間以内程度の予習（グループワークや発表準備など）と復習が必要。		
教科書	使用しない。		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『対人コミュニケーションの心理学』(水國照充ほか、北樹出版、2018) 『コミュニケーション力』(齊藤　孝、岩波新書、2018) 教　材：必要に応じてプリントを配布します。 その他、必要に応じて指示します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・ＬＭＳ(Moodle)を利用して課題の提示・提出・フィードバックが行われます。 ・13回14回目の授業で自己アピール発表を課題とします。その場でフィードバックをします。 ・15回目の授業で最終課題レポートの解説等を行います。
評価の配点比率	目標① 授業内の演習活動 5%、中間、最終レポート 10% 目標② 授業内の演習活動 5%、接続表現、論理等に関する課題　10% 目標③ 授業内の演習活動 5%、中間、最終レポート 15% 目標④ 授業内の演習活動 5%、自己アピールでの相互評価 15% 目標⑤ 授業内の演習活動 5%、自己アピール発表 25%
受講上の注意	グループワークやディスカッション等の演習活動中心の講義です。演習活動に支障をきたしますのでできるだけ遅刻がないようにしてください。欠席、遅刻等がある場合には、必ず事前に電子メールで連絡してください。 自己理解や相互交流を深める為にゲーム的な要素や心理学の理論も取り入れます。 積極的な発話と主体的に取り組む態度を重視します。
教員の実務経験	バックグラウンドは心理学で、臨床心理学、産業組織心理学(職場のメンタルヘルス)が専門です。病院臨床をはじめ民間企業や陸上自衛隊などで職場のメンタルヘルス向上に携わり、コミュニケ―ション研修も行っている。 さらに、かつて情報を伝えるアナウンサーの仕事にも携わっていた経験も活かし「聴く・話す・伝わる」というコミュニケーションにおける重要な基本的な知識の講義はもちろん、コミュニケーションのスキルの向上について演習する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： プレゼンテーション演習　　授業コード：1414101　1414102

英文科目名称： Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
長原　三輝雄			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14C102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、プレゼンテーションに必要不可欠な道具となっているMicrosoft PowerPointを利用したスライド作成および管理の方法を身につけることである。 そのため、PowerPointの基本的かつ効率の良い使用法を学び、課題を通してスライドの作成方法やさまざまな観点から活用する方法を学ぶ。また、Microsoft Office Specialist試験の対策を行い、試験に合格できる知識を学ぶ。 またプレゼンテーションとはなにか、どのように伝えたらより伝わるのか。論理的に話す技術の習得も同時に目指す。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①プレゼンテーションの基本的な知識が身についている。	ＤＰ２	15
	目標②プレゼンテーションソフトPowerPointの基本的な知識が身についている。	ＤＰ２	15
	目標③目的に応じて、適切なデータ処理を選択できる。	ＤＰ４	20
	目標④ビジネスの場で用いるPowerPointの機能を理解している。	ＤＰ２	20
	目標⑤ビジネスの場で用いる実用的なスライドを順序立てて作成できる。	ＤＰ３	10
	目標⑥PowerPointの知識を実生活に活かすことができる。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	プレゼンテーションに必要なスキル	事前学習：授業のシラバスを理解できるまで読んでおく。 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。 ※毎回の事前学習、事後学習には1時間の学修が必要
	2	プレゼンテーションの表示やオプションの変更	事前学習：テキスト（p16 － 42）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	3	スライド、配布資料、ノートのマスターの変更	事前学習：テキスト（p43 － 65）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	4	共同作業用プレゼンテーションの準備	事前学習：テキスト（p66 － 99）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	5	スライドの管理	事前学習：テキスト（p100 － 127）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	6	テキスト、図の書式設定	事前学習：テキスト（p128 － 153）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料について

			の見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	7	グラフィック要素、図形の書式設定	事前学習：テキスト（p154 - 181）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	8	表、グラフの書式設定	事前学習：テキスト（p182 - 214）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	9	3Dモデル、メディアの設定	事前学習：テキスト（p215 - 231）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	10	画面切り替えやアニメーションの適用	事前学習：テキスト（p232 - 253）を読み、疑問点を確認しておくこと 事後学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。
	11	プレゼンテーション技法　その１ 第1回模擬試験	事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。） 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にすること。
	12	プレゼンテーション技法　その２ 第2回模擬試験	事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にすること。
	13	プレゼンテーション技法　その３ 第3回模擬試験	事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にすること。
	14	プレゼンテーション技法　その４ 第4回模擬試験	事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にすること。
	15	プレゼンテーション技法　その５ 第5回模擬試験	事前学習：講義の内容および配布された資料についての見直しや復習をし、分からないことがあったら、図書館で調べたり、担当教員に質問すること。 事後学習：再度模擬試験を行い、正答率を90%以上にすること。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	各回１時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	『Microsoft Office Specialist PowerPoint 365 対策テキスト＆問題集』（FOM出版）
参考図書、教材、準備物等	参考図書:PowerPointに関する書籍
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題、模擬試験ともにMoodleにてフィードバックを行う。MOS試験の場合は結果をプリントしたものをフィードバックする。 質問等は、moodle上のメッセージやメールで随時受け付ける。
評価の配点比率	目標①ランダム模擬試験10%、Lesson課題5% 目標②ランダム模擬試験10%、Lesson課題5% 目標③ランダム模擬試験5%、Lesson課題10%、確認課題・模擬試験5% 目標④ランダム模擬試験5%、Lesson課題10%、確認課題・模擬試験5% 目標⑤ランダム模擬試験5%、Lesson課題5% 目標⑥ランダム模擬試験5%、Lesson課題10%、確認課題・模擬試験5%
受講上の注意	PowerPointは様々な会社で使われているので、プレゼンテーションは将来必ず役に立つスキルである。どのような機能があるのかを実際にPCを操作してマスターすることが大切であり、プレゼンテーションの基本と説得力のあるスライド構成・スライド表現については例題を参考に身につけるよう努力すること。自分のプレゼンテーションに自信を持つためにもMOS PowerPointの資格取得を目指すことを推奨する。
教員の実務経験	担当教員は臨床検査技師免許を有し、大学病院において30年以上の実務経験がある。 特に、第一種衛生管理者免許、上級医療情報技師、診療情報管理士、公認医療情報システム監査人補、医療経営士３級の認定資格を有しており、永年、病院情報システムの管理業務に携わっており、Microsoft Officeの十分な使用経験がある。また、IPA（独立行政法人情報処理推進機構）が実施する情報セキュリティマネジメント試験、基本情報技術者試験にも合格している。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　ビジネス文書演習　　授業コード：1414201　1414202

英文科目名称：　Business Writing Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
佐藤　宏隆			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14C106
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、事務分野での仕事を想定したビジネス文書作成スキルを修得することである。 企業において日常業務の生産性を高めることや効率化をはかることは共通目的であり、文書作成アプリケーションの豊富な機能を効果的に活用してさまざまなビジネス文書の作成することが求められる。授業ではビジネス文書の作成に必要な知識を学んだうえで実践的なアプリケーションの操作技術を身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①文章作成用のアプリケーションを用いて基本的なビジネス文書作成ができる。	ＤＰ２	40
	目標②ビジネス文章を作成する上での基本的な知識を説明できる。	ＤＰ２	20
	目標③ビジネス文章を作成する上で基本となる日本語力を説明できる。	ＤＰ３	10
	目標④実務処理をする上で必要な情報機器の基礎知識を説明できる。	ＤＰ４	10
	目標⑤ビジネス文書の作成を通して主体的に学び自身のキャリアを形成する意欲がある。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：授業の目標・内容、授業評価、MOSについて	事後学習：授業内容を振り返る。
	2	文書の管理（移動、書式、保存・共有、検査）	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	3	文字列、段落、セクション	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	4	確認問題１	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	5	表やリストの管理	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	6	参考資料の作成と管理	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	7	確認問題２	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	8	グラフィック要素	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。

	9	表やリストの管理	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	10	確認問題３	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	11	模擬試験問題１と振り返り	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	12	模擬試験問題２と振り返り	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	13	模擬試験問題３と振り返り	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	14	模擬試験問題４・５と振り返り	事前学習：授業範囲について、テキストで内容の確認を行う。 事後学習：授業内容を振り返り、理解が不十分だった点などについて再度課題内容を行う。
	15	MOS対応の実技試験とまとめ	事前学習：これまでの全体の振り返りをしておくこと

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の予習・復習が必要です。 詳細は、仁短Moodle上に掲載するので学習進度を自己管理するよう努めてください。授業では、指定する学習課題を行いますが、授業時間内に提出できなかった場合には次回の授業までに行い、仁短Moodleに提出してください。
教科書	『よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　Word 365対策テキスト&問題集』（FOM出版）
参考図書、教材、準備物等	市販のWordに関連する書籍も参考にしてください。 必要に応じて、プリントの配布を行う場合があります。仁短Moodle上に教材・参考資料を掲載します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	主に仁短Moodle上でフィードバックを行いますが、個別に質問が有る場合は、授業内や、メール等でも対応します。理解出来ない部分がある場合には、積極的に問い合わせるなどし、解消するよう努めて下さい
評価の配点比率	目標①～⑤：授業時の演習課題10%、実技試験（MOS試験の結果を充てることも可能）90%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： デザイン表現入門　　授業コード：1412901　1412902

英文科目名称： Introduction to Design Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格必修	講義	ナンバリング：14D101
添付ファイル			

授業の概要	人とのコミュニケーションをよりスムーズにするための表現力をデザイン手法から探り、習得することを目的とする。 日常生活でのコミュニケーションが得意・不得意に関わらず、伝えることを求められる場面は非常に多い。デザイン手法を基に、その伝達手段をイラストや言葉を用いた表現方法を試行・体験する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①簡単な矩形や造形を用いて他者に伝わるイラストが描ける。	ＤＰ２	45
	目標②相手の立場で考え、分かりやすいデザイン手法で図解化できる。	ＤＰ５	45
	目標③課題に対して能動的に取り組むことができる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション 線の練習／課題提出	描きやすい鉛筆、水性ペン、油性ペン持参
	2	図形の練習／課題提出	水性ペン持参
	3	○△□で描く①／課題提出	水性ペン持参
	4	○△□で描く②／課題提出	水性ペン、油性ペン持参
	5	○△□で描く③／課題提出	水性ペン、油性ペン、ハサミ持参
	6	棒人間を描く／課題提出	水性ペン、油性ペン持参
	7	表情と態度（喜怒哀楽）／課題提出	水性ペン持参
	8	表情と態度（百面相）／小テスト課題提出	これまでの課題を復習するための小テストを実施するので、これまでの学びを復習しておきましょう。
	9	関係の表現① 見やすくするための表現方法／課題提出	水性ペン持参。
	10	関係の表現② 線・面・矢印などの表現方法／課題提出	水性ペン持参。
	11	関係の表現③　子どもに伝わるイラスト制作／課題提出	水性ペン持参。
	12	関係の表現④ 物語を図解する／課題提出	水性ペン持参。
	13	関係の表現⑤ 物語を図解する／課題提出	水性ペン持参。 事前学習：関係性の表現について、ノートやスケッチブックを振り返る。
	14	関係の表現⑥ 事象を図解、構造化する／課題提出	水性ペン持参。 事前学習：関係性の表現について、ノートやスケッチブックを振り返る。
	15	私新聞をつくる／課題提出、レポート提出	水性ペン持参。 事前学習：自身のことを振り返り、まとめておく 事後学習：ノートから授業全体を振り返える
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		

準備学習に必要な時間	毎回４時間程度（調べる・考える・練習する・課題等）
教科書	吉田瑞紀『問題をシンプルにして毎日がうまくいくふだん使いのGRAPHIC RECORDING』CCCメディアハウス／2021
参考図書、教材、準備物等	タカムラカイ監修『観察力、想像力、伝える力を高めるラクガキノート術』枻出版社／2015 準備物：スケッチブック、使い慣れた筆記用具 初回より共通のスケッチブックを使用するのでスケッチブック代（６００円程度）持参のこと。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出課題に関しては、スケッチブックにてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	課題、レポート90%　授業での取り組み姿勢10% 目標①　45% 目標②　45% 目標③　10%
受講上の注意	その日の学びを他の授業で実践しましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 色彩学　　授業コード： 1413001

英文科目名称： Colors Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	２単位	選択
担当教員			
橋本　洋子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格選択	講義	ナンバリング：14D103
添付ファイル			

授業の概要	色彩の基本とカラーユニバーサルデザインを身につけることを本授業の目的とする。 生活の中で、いかに色彩が重要な役割を果たしているかを多角的に学ぶ。 色彩検定UC級のテキストを基に、実際に配色カード等を使って色覚の特性などを体験し、さらに色彩の現象等についても実験検証する。また、色の見え方の多様性についても理解を深め、ユニバーサルデザインとしての色の使い方を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①実際の生活の中で、色彩基礎知識が活用されている事例を探すことができる。	ＤＰ２	20
	目標②色はなぜ見えるのか概ね理解している。	ＤＰ２	20
	目標③カラーユニバーサルデザインを概ね理解している。	ＤＰ７	10
	目標④色の多様性について概ね理解している。	ＤＰ７	10
	目標⑤色彩心理の基本を概ね理解している。	ＤＰ５	20
	目標⑥色彩調和の基本を概ね理解している。	ＤＰ５	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	●オリエンテーション（この授業について） ●色のユニバーサルデザイン ユニバーサルデザインとは ・考え方 ・７原則 ・事例 ・色のユニバーサルデザイン ・資格情報に関する法律と規格	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページ（色のユニバーサルデザイン）を読みノートにまとめる 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	2	●色が見える仕組みと特性 ・色って何？ ・光とは？ ・光源色と物体色 ・光の反射と吸収 ・分光反射・透過	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	3	●光の性質 ・光の性質 ・分光と分光分布、反射と分光反射率曲線 ・色の三属性（色相・明度・再度） ・色相とトーン（PCCS） ・補色・補色残像	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	4	●色名 ・基本色名・系統色名・固有色名・慣用色名 ●色覚タイプの分類 ・1型色覚・2型色覚・3型色覚・１色覚	事前学習：該当内容を調べ、ノートにまとめる 事後学習：授業内容と授業ノートを参考に復習する
	5	●色の三属性 ・色相　PCCS 24色環 ・明度（無彩色・有彩色） ・彩度 ・色立体	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する

		＜課題１：三属性の体験＞	
	6	●三属性の理解・実践（配色カード） ・色彩対比効果（明度対比・色彩対比・色相対比） ＜課題２：色彩対比＞	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる（テキストに無い項目は、調べてみよう） 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	7	●その他の対比 ・補色対比・縁辺対比（則抑制）・色陰現象 ●色彩調和（配色） ・同一色相・隣接色相・類似色相 ・中差色相 ・対照色相・補色色相	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる（テキストに無い項目は、調べてみよう） 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	8	●色彩調和（トーン） ・同一トーン ・類似トーン ・対照トーン ・セパレーション ・同化現象	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる（テキストに無い項目は、調べてみよう） 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	9	●色覚異常と混同色 ・色の見えのイメージ（１型・２型） ・色相環で見る混同色 ・混同色線 ・LEDランプの色分類 ●色の誤認 ・色覚タイプと色名呼称 ・色誤認の傾向 ・誤認を起こす条件 ・誤認と経験	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	10	●色覚の遺伝 ・男女の違い ・保因者 ・伴性潜性遺伝 ●色覚検査法 ・色覚検査表・石原色覚検査表Ⅱ　国際版38表・標準色覚検査表(SPP)・色相配列検査 ・アノマロスコープ検査・ColorDx CCT-HD ●日常事例 ・時期・場所別 ・制限	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	11	●色を見る仕組み（眼球から脳まで） ・受光（眼） ・信号変換（錐体） ・反対色応答（網膜から脳） ・色の識別と分類（脳）	事前学習：　色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	12	●色のユニバーサルデザイン ・色の工夫 ・色意外の工夫 ・その他の配慮 ＜課題３：UDの工夫と修正＞	色彩調和　色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストと授業ノートを参考に復習する
	13	●色の心理効果 ・寒暖感・進出後退感・膨張収縮感・硬軟感・軽重感・興奮鎮静感・派手地味感 ・連想と象徴 ・面積効果・主観色・ベンハムトップ ・アクセントカラーとセパレーション ＜課題４：配色イメージ＞	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる（テキストに項目がない項目は、調べてみよう） 事後学習：資料・授業ノートを参考に復習する
	14	●光の性質と分光観察 ・光の性質 ・分光観察と記録 ＜課題５：分光観察記録＞	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる（テキストに無い項目は、調べてみよう） 事後学習：資料・授業ノートを参考に復習する
	15	●加法混色と減法混色 ・加法混色の体験・観察 ・減法混色の体験・観察 ＜課題６：加法・減法混色の観察記録＞ ●未提出課題の提出最終受付日！	事前学習：色彩検定UC級テキスト　該当ページを読みノートにまとめる（テキストに無い項目は、調べてみよう） 事後学習：資料・授業ノートを参考に復習する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回４時間程度 該当するテキストを読み、ノートにまとめる
教科書	「色彩検定 公式テキストUC級編」（公益社団法人 色彩検定協会　2022年改訂版） 「新配色カード199a」（教科書と共に購入 ）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「暮らしの中の色彩学入門［色と人間の感性］」（株式会社新曜社 2014） 「色と光のはなし 科学の目で見る日常の疑問」（技報堂出版株式会社　2017）

	「カラーユニバーサルデザインの手引き」（教育出版株式会社） 「色彩検定 公式テキスト３級」（公益社団法人 色彩検定協会　2020） 教材：　必要に応じてプリントを配布する 準備物：　ハサミ、スティックのり、「配色カード199a」、色鉛筆、定規、コンパスなど （「配色カード199a」は 教科書と共に購入 ）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	天候などの状況により授業内容(屋外での実験を伴うため)が前後することがある 課題は、評価（A・B・C等）を付け、フィードバックする
評価の配点比率	課題80%　授業への取り組み姿勢20% 課題には下記の目標を含む 目標①身近な事例を見つけることができる 20% 目標②色はなぜ見えるのか概ね理解している 20% 目標③カラーユニバーサルデザインを概ね理解している 10% 目標④色の多様性について概ね理解している 10% 目標⑤色彩心理の基礎を理解している 20% 目標⑥色彩調和の基礎を理解している 20%
受講上の注意	授業は夏休み中(9月)から開始し、11月で終了予定 アイデア出しなどは事前学習と考え、授業中はできるだけ制作作業に集中すること 授業後の提出に間に合わない場合は、次週までに仕上げ授業最初に必ず提出すること
教員の実務経験	企業内デザイナーとして、製品・カタログ・販促品の企画デザインを行い、さらにフリーのデザイナーとして色彩指導に携わる。 また、大学、短期大学、高等学校、専門学校、福井県のデザイン講座等で、講師を務める。 それらの経験を活かし、講義に演習等を交えながら、生活の中で使える色彩学を目指した授業を行なっている。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　・グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： デッサン　　授業コード： 1413101

英文科目名称： Dessin

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
重村　幹夫			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格選択	演習	ナンバリング：14D104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、造形的な物の見方描き方の基礎的な力を身に着けることである。そのために本授業では、デザイン表現の上で必要な基礎的な観察力や表現力を養うため、鉛筆デッサンを行なうとともに、鉛筆、紙やカッターナイフ等の描画材の扱いに習熟する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①線遠近法や空気遠近法を理解し、形態や明暗を写実的に把握し、描写することが出来る。	ＤＰ２	90
	目標②自身の作品について振り返り、工夫や難しさ等について皆の前で発表することが出来る。	ＤＰ５	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第１回	オリエンテーション及び講義、実技：学習内容の概略と目的、鉛筆の種類と扱い方 人物クロッキー①人物の入れ方デスケールの使い方を理解する	描画材はこちらで用意するが、デッサン用鉛筆(各種)、練ゴム、プラスチック消しゴム(一般的な消しゴム)を持っている場合は持参する事。 人物ワークシート①を配布するので、合格するまで加筆修正する事。
	第２回	静物①手本の模写	静物ワークシートを配布するので、合格するまで加筆修正する事。
	第３回	静物②実物デッサン	実物を、固有色や明暗を意識して描く。
	第４回	静物③実物デッサン	実物を、固有色や明暗を意識して描く。
	第５回	風景①線遠近法の理解	風景ワークシート①の消失点や水平線を決め、それを意識した風景を描くことを理解する。
	第６回	風景②手本の模写	風景ワークシート②を配布するので、合格するまで加筆修正する事。
	第７回	風景③学内風景	屋外にてモチーフを決めてデッサンするとともに、参考写真を撮る。
	第８回	風景④学内風景	屋外にてデッサン。
	第９回	風景⑤学内風景	屋外にてデッサン。
	第10回	人物クロッキー②手本の模写	人物ワークシート②を配布するので、合格するまで加筆修正する事。
	第11回	人物クロッキー③	人物モデルを描く。
	第12回	人物クロッキー④	人物モデルを描く。
	第13回	人物クロッキー⑤	人物モデルを描く。
	第14回	自由課題①	これまでの学習を元に、実在するモチーフを組み合わせたデッサンを考案、作成する。
	第15回	自由課題②、これまでの講評、各自振り返り、発表	これまでの作品の講評をするとともに、各自の振り返りを行い、自分の意見を発表する。
定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		

準備学習に必要な時間	人物、静物、風景のワークシートを完全に仕上げる必要がある。完全に仕上げない限り合格とはしない。そのため、毎回60分程度の事前、事後学習が必要。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	描画材は必要に応じその都度指示する。原則こちらで用意するが、既に持っている場合は持参する事。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎回の学習内容は全てファイルに綴じ、その内容はチェックして、コメントを記入する。
評価の配点比率	目標①作品90% 目標②発表10%
受講上の注意	現在は、コンピュータソフトウエアが飛躍的に進歩しており、ヴァーチャル空間における迫真的な対象表現が容易な時代です。そのような時代であっても、対象を直接自分の目で観察、再現する力は必要であると考えます。特に、自然観察やその再現を通じて学ぶことは大きいでしょう。デッサンを通じて、本当に見ることの大切さを感じ取ってほしいです。 手本の模写は完璧な状態になるまで描きこんでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： グラフィックデザインⅠ　　授業コード：1413201　1413202

英文科目名称： Graphic Design Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
吉村　正照			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格必修	演習	ナンバリング：14D102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、視覚表現を用いて情報を人に伝える力の基盤を養うことである。専用の制作ツールを用いながら、グラフィックデザインにおける基本的な知識と技術を学び、今後様々なメディアを扱うために必要となる基礎を身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①制作ツールの扱い方を理解し、速く正確に作業ができる。グラフィックデザインの基本を理解し活用できる。	ＤＰ２	50
	目標②目的や対象を想定し、観る人の側に立ったデザインができる。	ＤＰ４	30
	目標③デザインの意図を言語化して説明できる。	ＤＰ５	10
	目標④デザインに取り組む上で必要となる姿勢を身につけ、グラフィックデザインⅡ、グラフィックデザインⅢでの実践的な制作に対応できる基礎力を習得することができる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業概要、制作ツールの紹介	練習用の制作環境を整える 事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	2	制作ツール Figma の基本操作	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	3	文字と書体	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	4	文章のデザイン	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	5	図表のデザイン	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	6	写真と画像／レイアウトの基本	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	7	レイアウトの実践	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	8	配色の基本	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	9	実践演習　チラシ	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	10	Macの基本操作、画像生成AIの活用	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	11	制作ツール Adobe Illustrator の基本操作① 画面の操作、図形の編集、ペンツール、塗りと線、色の設定	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	12	制作ツール Adobe Illustrator の基本操作② 文字の設定、グループ化、画像の配置、マスク、レイヤー、アートボード	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する
	13	制作ツール Adobe Illustrator の基本操作③ 用紙サイズ、PDF形式で保存、印刷	事後学習により新しく学んだ技法を定着させる 課題をMoodle上に提出する

	14	最終課題①　チラシのデザイン	事前学習：最終課題について先行事例を調査し、構想を練る 事後学習：期日までに課題作品を完成し、Moodle上に提出する
	15	最終課題②　プレゼンテーション、相互評価、口頭試問	事前学習：プレゼンテーションを準備する 事後学習：レビューの結果を踏まえて課題作品の完成度を高め、Moodle上に提出する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要。毎回の授業で知識や技術を積み重ねるため、事後学習は事前学習を兼ねている。 短時間でも構わないので、1〜2日に一度は制作ツールにふれることが望ましい。 最終課題においては、2時間以上の自主制作が必要。
教科書	『伝わるデザインの基本』増補改訂3版（技術評論社 2021）
参考図書、教材、準備物等	参考図書や資料は授業内で紹介する。 教材はMoodle上で配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小テスト（Moodle上で実施）：毎回の授業で学んだ基礎知識が3〜5問出題される。自動採点によりフィードバックする。 授業毎の課題（Moodle上で実施）：毎回の授業で小さな作品を制作し提出する。コメントによりフィードバックする。 最終課題（第15回）：講評によりフィードバックする。
評価の配点比率	目標①　小テスト30%、授業毎の課題10%、最終課題10% 目標②　授業毎の課題10%、最終課題20% 目標③　授業毎の課題5%、最終課題5% 目標④　小テスト5%、授業毎の課題5%
受講上の注意	技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1〜2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。 質問はオフィスアワーまたはeメール、Moodleメッセージで受け付けます。
教員の実務経験	デザイナーおよびディレクターとして20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かし、実際の現場で使われてる専門的な制作ツールを用いて実践的な課題を扱う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： グラフィックデザインⅡ　　授業コード：1413301　1413302

英文科目名称： Graphic DesignⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
西畑　敏秀			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格選択	演習	ナンバリング：14D105
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、課題をとおして発想・表現要素・表現技術を習得することである。ビジュアル・コミュニケーションのためのグラフィックデザインについて、グラフィックソフト／イラストレーター「タイポグラフィ」や「フォント」「イラストレーション」などの応用的技術を習得し、写真画像とテキストの「編集デザイン」など実践的な演習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①実際に社会で活用されている案件の課題を実践することで現実的なデザインに対応できる応用力を習得できる。	ＤＰ２	40
	目標②他のアプリケーションソフトと連動した作品制作や編集に活用できる。	ＤＰ４	30
	目標③今後さまざまな書類、印刷物、提案書を作成できる基本的なデジタルデータ処理能力習得できる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション／曲線を描く	今回の到達目標：1年前期＿最終課題を振り返り文字構成のコツを学ぶ 今回の授業内容：アンカーポイント、パス、ハンドルの仕組み　線を描く
	2	イラレ演習 パス・アンカー・ハンドル	今回の到達目標：イラストレーターのパス・アンカーポイント・ハンドルの関係を学ぶ 今回の授業内容：トランプ柄の作成　課題／オリジナルハートで構成「LOVE」
	3	欧文フォントについて	今回の到達目標：代表的な欧文フォントについて学ぶ 今回の授業内容：欧文書体の歴史的背景から、世界で使用されているスタンダードなフォントについて学び　実際に自分の名前を入力してみる。セリフ体・サンセリフ体・スクリプト体・ゴシック体・ディスプレイ体 冒頭で15分、2回目課題についての講評を行う
	4	タイポグラフィ＿欧文1	今回の到達目標：文字構成の重要なポイントについて学ぶ（欧文：サンセリフ体） 今回の授業内容：デザインのテーマは『ダイナミック』『シャープ』『アクティブ』のどれか ・A4横位置　モノクロ　Univers または Futura のどちらかのみで構成する（ファミリーを活用する） ・構成要素（すべて欧文＿調べる）／○自分の名前　○テーマ ○キャッチフレーズ（英文-自分のテーマ、座右の銘、好きなフレーズ等なんでも可）

			○仁愛女子短期大学　○生活科学学科 生活デザイン専攻 ○大学の電話番号　○URL　○アドレス ・原則として文字は変形しないこと（意図や目的がある一部の加工は可） ・具体的な絵柄は使わない（花、星、人 等）　罫線や塗りは可
	5	タイポグラフィ＿欧文2	今回の到達目標：文字構成の重要なポイントについて学ぶ（欧文：セリフ体） 今回の授業内容：・デザインのテーマは 『品格』『エレガント』 『華麗』のどれか ・A4横位置　モノクロ　Didot または Garamond の どちらかのみで構成する（ファミリーを活用する） ・構成要素（すべて欧文＿調べる）／○自分の名前　○テーマ ○キャッチフレーズ（英文-自分のテーマ、座右の銘、好きなフレーズ等なんでも可） ○仁愛女子短期大学　○生活科学学科 生活情報デザイン専攻 ○大学の電話番号　○URL　○アドレス ・原則として文字は変形しないこと（意図や目的がある一部の加工は可） ・具体的な絵柄は使わない（花、星、人 等）　罫線や塗りは可 冒頭で15分、4回目課題についての講評を行う
	6	イラスト編集	今回の到達目標：手描き素材のデータ化を学ぶ 今回の授業内容：下絵画像の修正　画像の変換　モノクロ2階調TIFF画像の作成　イラストレーターでの配置トレース変換 冒頭で15分、5回目課題についての講評を行う
	7	ネーミング・ロゴタイプ	今回の到達目標：キャラクターのネーミングを考え、同様に手書きのロゴを作成 今回の授業内容：前回の復習も兼ねて、手描き素材を簡単にデータ化する工程を習得する 宿題：図書館が募集する青空文庫の小説3点を読んで、表紙デザイン下絵を考えておくこと
	8	実践課題／青空文庫＿01	附属図書館が主催する著作の切れた文学作品の表紙デザインを考案する（作品01） これまでに学んだ手描きイラストをデータ化し、タイトルと効果的に編集する ※審査を経て採用作品は次年度に制作され、附属図書館から一般学生に貸し出される
	9	実践課題／青空文庫＿02	附属図書館が主催する著作の切れた文学作品の表紙デザインを考案する（作品01） これまでに学んだ手描きイラストをデータ化し、タイトルと効果的に編集する ※審査を経て採用作品は次年度に制作され、附属図書館から一般学生に貸し出される
	10	実践課題／青空文庫＿03	附属図書館が主催する著作の切れた文学作品の表紙デザインを考案する（作品01） これまでに学んだ手描きイラストをデータ化し、タイトルと効果的に編集する ※審査を経て採用作品は次年度に制作され、附属図書館から一般学生に貸し出される
	11	タイポグラフィ＿和文フォント・文字組について	今回の到達目標：文字組みで構成する基礎知識とコツを学ぶ 今回の授業内容：和文書体（主に明朝とゴシック体）について、本文用、見出し用などそれぞれの特徴をイラストレータを活用しながら演習。 冒頭で15分、8~10回目課題についての講評を行う
	12	明朝体のみで自己紹介ポスターのデザイン	今回の到達目標：人を惹きつけるキャッチコピーを考案する 今回の授業内容：・文字だけで自分のプロフィールポスターをつくる。 ・A3縦横自由　色は白、黒＋1色 のみ ・フォントはA1明朝＋光朝体のみ、

			または秀英明朝シリーズのみ（A-OTF） ・内容は名前・自分のキャッチフレーズ＋メッセージコピー（200字程度） ・電話番号・URL・メール等は仁短の情報を流用する
	13	ゴシック体のみで仁短ポスターをデザイン	今回の到達目標：限られた条件の中でデザインする、基本的な構成力の習得 今回の授業内容：・文字だけで仁愛女子短期大学のポスターをつくる ・A3縦横自由　色は白、黒、1色のみ ・フォントはA-OTF MB101ゴシックファミリーのみ ・内容は、仁愛女子短期大学を広告するキャッチフレーズ＋学長メッセージ 住所・電話番号・URL・メール等、仁短を紹介するのに必要とする情報 冒頭で15分、12回目課題についての講評を行う
	14	実践課題／「学生のしおり」デザイン	今回の到達目標：実際に来年度使用する「学生のしおり」のデザインを提案する 今回の授業内容：来年度の1～2回生の学生が使用する「学生のしおりファイル」の表紙・裏表紙のデザインを考案する。 A4版・1色刷りの条件でテーマ、アイデアが明確な表現で構成し、1～2回生は原則色替えで使い分ける。 冒頭で15分、13回目課題についての講評を行う
	15	歌詞ポスターデザイン	今回の到達目標：実践的な演習として、ビジュアルとコピーを活かした構成を学ぶ 今回の授業内容：好きな歌詞（またはポエム、小説の一部等）のタイトルを、内容をイメージさせる写真とA3内に構成する。 作者、アーティスト名、自分の名前も構成の要素とする。 ※画像は1,000ピクセル以上／controlキーを押しながら画像をクリック～名前をつけて画像を保存～ダウンロード ※必ず画像の出展URLを小さく表記すること／配置してある画像データも一緒に提出すること 和文フォントは２種類まで、英数タイトルは欧文フォント ただし同フォントのファミリーは数種類使用可 原則、文字は白か黒。もしくはビジュアルのメインカラー 写真は全面では使用しない。必ずクリッピングマスクをして画面上に構成すること

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回60分程度、前回のアプリの操作や手順を復習して次回に備えておくこと。
教科書	教科書は使用しない。
参考図書、教材、準備物等	なし
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業課題の講評、掲示、講評時に個別にアドバイスを行う
評価の配点比率	授業課題100％ 目標①40％　目標②30％　目標③30％
受講上の注意	
教員の実務経験	広告会社制作部でグラフィックデザイナー４年、広告企画制作会社でアートディレクター４年、デザインプロダクションでデザインプロデューサー15年　県内企業を中心に、メディア広告・グラフィックデザインを核としたブランディングコミュニケーション、デザインマネジメントを手がける。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： インテリアデザインⅠ　　授業コード： 1413401

英文科目名称： Interior Design Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
林　公一朗			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14D106
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、インテリアデザインについての基礎知識を習得し、自分なりのインテリアデザインを企画・制作できる能力を身につけることである。 インテリアの主要エレメント（アクセントエレメント、コアエレメント、ベースエレメント、その他のエレメント）や、インテリア・スタイル（クラシック、エレガント、モダン、カジュアル等）、インテリア・テイストについての知識を教科書を基に学んでいく。 前述の授業内容について学び、単なる色彩や造形からのインテリア・デザインではなく、自身のライフスタイルから必要とされるアイテムやエレメントなどを選択・組み合わせて、快適な住空間（アメニティ）の創造を目指す。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①インテリアデザインについて、基本的な知識を身につけることができる。教科書 Ｐ８からＰ１５３まで	ＤＰ２	20
	目標②インテリアデザインについて、身近な事例から考察する知識を身につけることができる。	ＤＰ３	23
	目標③インテリアデザインについて学んだ知識を用いて、課題を解決することができる。	ＤＰ４	36
	目標④自ら企画・立案・制作した課題を、第三者にわかりやすく伝えることができる。	ＤＰ５	6
	目標⑤グループワークを通じて、与えられた課題を解決することができる。	ＤＰ８	5
	目標⑥自ら企画・立案・制作した課題を、解決することができる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：インテリアデザインについて第1章 風土と歴史における住まい	教科書（第１章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：インテリア・デザインに対するイメージを記述する。
	2	第2章　現代のライフスタイルと住まい	教科書（第２章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：自分の部屋の図面化。
	3	第2章　現代のライフスタイルと住まい	教科書（第３章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：自分が住む住居の配置を調べる。
	4	第4章　住まいの材料と構法	教科書（第４章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：自分が住む住居の外装と、自分の部屋の内装及び設備機器を調べる。
	5	第5章　室内環境の計画	教科書（第５章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：自分が住む住居の外装と、自分の部屋の内装及び設備機器の問題点を考える。

	6	第6章　インテリアの計画	教科書（第６章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：福井型3世帯住居の検討（グループワーク）
	7	第7章　インテリアと家具	教科書（第７章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：自分の部屋のデザイン（平面図の作図）
	8	第8章　インテリアの設備・機器	教科書（第８章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：自分の部屋のデザイン（展開図の作図）
	9	第9章　空間のデザインと表現	教科書（第９章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：自分の部屋のデザイン（平面図・展開図に着色）
	10	第10章　住まいの実務と資格	教科書（第１０章）に沿った講義。 教科書の内容の理解度を図るためのミニテストを実施する。 授業内課題：自分の部屋のデザイン（発表）
	11	課題制作(1):家具のデザイン（企画）	机、テーブル、椅子、ソファ、本棚などの家具を自分なりにデザインし、図面化する。
	12	課題制作(2):家具のデザイン（製作図の作図）	デザイン・図面化した家具の型紙を製作する。
	13	課題制作(3):家具のデザイン（製作）	スチレンボードを使用し、自らデザインした家具の1/10の模型を製作する。
	14	課題制作(4):家具のデザイン（製作）	スチレンボードを使用し、自らデザインした家具の1/10の模型を製作する。
	15	課題制作(5):家具のデザイン（発表）	自らデザインした家具を発表する（１人２分･６００文字程度）

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	1回目から10回目までは教科書を用いた授業となるので、授業までに事前学習として該当ページ(14～16ページ程度)を必ず黙読しておくこと。（４時間程度） 事前学習を前提とした授業内容となるので、必ず取り組むこと。
教科書	(株)学芸出版社『イラストでわかる　インテリアデザイン基礎』
参考図書、教材、準備物等	2回目：自宅(自室)の図面 7回目：定規、0.3㎜および0.5㎜のシャープペンシル、消しゴム 9回目：色鉛筆、コピック(持っている場合) 13回目：カッターナイフ、定規
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業内での課題提出とする。 15回の授業終了後の課題提出は原則認めない。 提出された課題は、学習管理システム(LMS)の仁短Moodleを用いて、PDFデータとして学生へフィードバックする。
評価の配点比率	目標①：課題①教科書の内容を基にしたミニテストの実施（満点2%×10回＝計20%） 目標②：課題②授業内容に則したミニ課題の実施（満点:5%×1回＋満点:6%×3回＝計23%） 目標③：課題③授業内容に則したミニ課題の実施（満点:5%×1回＝計5%） 目標③：課題④自分の部屋のデザイン（満点:7%×3回＝計21%） 目標③：課題⑤家具のデザイン（満点:5%×2回＝計10%） 目標④：課題④⑤のプレゼンテーション（満点3%×2回＝計6%） 目標⑤：課題⑥福井型3世代住居の検討（グループワーク）（満点5%×1回＝計5%） 目標⑥：課題⑤家具のデザイン(制作)（満点10%）
受講上の注意	座席指定とする。 遅刻厳禁。 授業の取り組み方については第１回目のガイダンスで説明する。 第１回目から10回目までは、授業の内容を基にしたミニテストを実施する。 インテリア・デザインは私たちの日常生活に密接に関わっており、その知識を深めることはより豊かな生活を築く一環となります。本授業を通じて、様々な視点からデザインを考慮できるスキルを身につけることを期待しています。
教員の実務経験	一級建築士として培った豊富な実務経験を生かし、建築物と密接に関わるインテリアデザインについて、幅広い知識や具体的な事例を交えながら講義します。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： キャリアプランニング　　授業コード： 1413501

英文科目名称： Career Planning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	選択
担当教員			
田中　洋一			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	秘書士資格選択	講義	ナンバリング：14Z101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、SEL（Social and Emotional Learning：社会性と情動の学習）を通して、自尊感情や対人関係能力を育成し、キャリアをデザインすることです。 そのため、マインドフルネスやライフデザイン・ポートフォリオ作成等の実践により自己理解、質問ワークやプロセス・エデュケーションの実践により社会や他者の理解及び対人関係スキル、ジェネリックスキルテストや働く価値ワークショップ等の実践により自己マネジメント及び責任ある意思決定を育んでいきます。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①客観的に自己や他者を観察できる。	ＤＰ２	24
	目標②経験を省察することにより、マイセオリーを作成できる。	ＤＰ３	19
	目標③自分の経験から判断し、ライフデザイン・ポートフォリオを作成できる。	ＤＰ４	27
	目標④自分の強みや経験にもとづき、他者に対して自己をＰＲできる。	ＤＰ５	12
	目標⑤自分の強み・弱みを理解した上、自らの働く価値やキャリアを設計できる。	ＤＰ６	18
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、マインドフルネス入門	グループワーク。　事後学習：１週間のマインドフルネス実践をワークシートに記述 ※毎回、仁短Moodleへ振り返りノートを提出。
	2	マインドフルネス：ヨーガ瞑想	グループワーク、事後学習：１週間のマインドフルネス実践をワークシートに記述
	3	ジェネリックスキルテスト（PROGテスト）：現在のジェネリックスキルについて知る	別日時に合同でテスト(約100分)、事後学習：PROGテストの振り返り
	4	観察力：マインドフルリスニング＆NVC、ボードゲーム「じっくりミレー」	グループワーク、事後学習：１週間のマインドフルネス実践をワークシートに記述
	5	プロセスエデュケーション	グループワーク、事後学習：リフレクションシートの提出
	6	合意形成ワーク	グループワーク、事後学習：リフレクションシートの提出
	7	ジェネリックスキルの振り返り：自分の強みと弱みを知り、２年間の計画と自己PRを考える	グループワーク、事後学習：PROGの強化書提出
	8	過去を想起する	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：過去回帰シートの完成
	9	過去回帰から理念を導く	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：理念シートの完成
	10	人生の核心をつかむ	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：核心シートの完成
	11	核心に沿った目標を立てる	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：ライフデザインポートフォリオの完成
	12	ライフデザインポートフォリオの発表、自己PR	グループワーク、事後学習：ライフデザインポートフォリオの説明、自己PRシートの完成
	13	働く価値に関するワークショップ	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：言の葉シートの完成

	14	ライフプランに関するワークショップ、自己PRスライドの作成	グループワーク、事後学習：自己PRスライドの完成
	15	自己PRプレゼンテーション、振り返り	自分にとっての本授業の意義を説明する。事後学習：自己PR音声ファイルの提出
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 試験に代わって、全講義終了後に、振り返りシートまとめを提出する。		
準備学習に必要な時間	毎回、４時間程度の事後学習が必要。詳細は、仁短Moodle上に示します。		
教科書	適宜、必要な資料を配布する。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：サーチ・インサイド・ユアセルフ―仕事と人生を飛躍させるグーグルのマインドフルネス実践法（チャディー・メン・タン、英治出版、2016）。 教材：PROGテスト及びPROGの強化書、はたかちカード（別途、集金）。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	紙メディアの提出物は、学習管理システム（LMS）の仁短Moodleを用いて、PDFや写真として学生へフィードバックする。仁短Moodleへの提出物に関しては、課題モジュールのコメント機能やフィードバック・モジュールで結果を学生へフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メールやMoodleメッセージで連絡すること。		
評価の配点比率	目標①マインドフルネス実践シート12%（3%×4回）、質問ワークシート2%、名画鑑賞シート5%、コンセンサスシート5% 目標②振り返りシート19%（1%×14回、まとめ5%） 目標③ライフデザイン・ポートフォリオ10%（シート5%、説明5%）、URL1%、過去想起シート5%、理念シート5%、核心シート3%、目標シート3%、 目標④自己プロフィール2%、自己PR10%（スライド5%、音声5%）、 目標⑤はたかちシート3%、言の葉シート5%、PROG強化書5%、ライフプランシート5%		
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明しますが、基本的に隣席の学習者とのペアワークで進行します。各回の最後、仁短Moodle上の振り返りノートに自分の行動変容に関して記述します。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者がペアやグループで主体的に学ぶことをめざしています。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： 企業研究Ⅰ　　授業コード：1413601　1413602

英文科目名称： Study of Companies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	秘書士資格選択	講義	ナンバリング：14Z103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、福井県における企業活動等を調査・研究することで、社会人として必要な知識や技能の習得をすることである。 金融、販売、製造、公的機関等の業界を総合的に学ぶため、テクノフェア等の業界イベントに参加（オンライン調査を含む）し、企業調査を行う予定。また、福井商工会議所での新商品・新サービスプレス発表会の様子（動画を活用予定）から、企業活動の実際について理解を深める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①福井県の主要な産業やそれらを代表する企業等について、主な業務内容を理解し説明することができる。	ＤＰ２	40
	目標②企業における課題を見つけ出し、適切な提案をすることができる。	ＤＰ４	20
	目標③状況に応じて必要な調査を主体的に実施することができる。	ＤＰ６	20
	目標④課題に対して協働して取り組むことができる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 福井県の産業と企業の歴史、福井をとりまく企業環境について学びます。	福井県の歴史的な背景から、産業にどのような特色があり、どのように企業が成長してきたかを考える。
	2	福井県の企業を考える 福井県の企業の特徴などを分野別に考察します。福井県の歴史的な背景から、産業にどのような特色があり、どのように企業が成長してきたかを考える。	事後学習として、福井県庁のホームページ「実は福井の技」から、福井県内企業の特徴について事前に調べておくこと。
	3	企業調査＆研究の方法について、金融業について １）企業研究の手法について ２）福井の金融業界について（銀行、その他の金融機関）	事後学習として、福井県庁のホームページ「実は福井の技」から、自分のグループで調べる企業について、その他資料を調査し研究をすすめること。
	4	福井のものづくり企業を考える 福井の企業（特に中小企業）の特徴について、マーケットリーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチという４つの視点から考察を行います。また、福井テクノフェアに出展する技術系企業について全体で議論を行います。	テクノフェア参加企業の資料（福井商工会議所作成）から、調査対象企業について授業後に調査を行い、まとめること。
	5	企業調査（１） テクノフェアふくいの参加企業について、指定の分野について調査・報告を行います。	事前課題：事前に配布された現地調査企業一覧（テクノフェア参加企業一覧）を確認し、調査を実施したい企業を選定し、オンライン調査を実施します。
	6	企業調査（２） テクノフェアふくいの参加企業について、指定の分野について調査・報告を行います。	事前課題：事前に配布された現地調査企業一覧（テクノフェア参加企業一覧）を確認し、調査を実施したい企業を選定し、オンライン調査を実施します。
	7	企業と、行政の果たす役割、中間団体の存在 企業活動と行政の果たす役割、中間団体の果たす役割（商工会議所、農協等）について学びます。	事前資料により行政の役割等を学習したうえで、東京等でのアンテナショップの役割、商工会議所等の役割についてレポートを提出すること。
	8	全国で活躍する福井の企業（１） 東京を始め、福井県外で活躍する企業について	事後課題：調査後、その内容についてレポート課題を提出すること（Ａ４、１枚）

		学びます。	
	9	全国で活躍する福井の企業（２） 東京を始め、福井県外で活躍する企業について学びます。	事後課題：調査後、その内容についてレポート課題を提出すること（Ａ４、１枚）
	10	福井の代表的な企業・産業を知ろう 繊維産業、眼鏡産業などの歴史や今について学びます。	事前に指定の業界について調査をおこないます。 また、事後に、レポートや確認テストの実施をおこないます。
	11	福井商工会議所プレス発表より、新商品考察① 福井商工会議所プレス発表（３月期）の新商品から企業について考察します。	事前に指定の企業について調査をおこないます。 また、事後に、レポートや確認テストの実施をおこないます。
	12	福井商工会議所プレス発表より、新商品考察② 福井商工会議所プレス発表（６月期）の新商品から企業について考察します。	事前に指定の企業について調査をおこないます。 また、事後に、レポートや確認テストの実施をおこないます。
	13	福井商工会議所プレス発表より、新商品考察③ 福井商工会議所プレス発表（９月期）の新商品から企業について考察します。	事前に指定の企業について調査をおこないます。 また、事後に、レポートや確認テストの実施をおこないます。
	14	福井商工会議所プレス発表より、新商品考察④ 福井商工会議所プレス発表（１２月期）の新商品から企業について考察します。	事前に指定の企業について調査をおこないます。 また、事後に、レポートや確認テストの実施をおこないます。
	15	企業研究のまとめ これまでの企業、これからの企業という視点で、企業の地域における役割について考えます。	事後課題：講義中に示された参考文献等を調査し、最終課題（レポート）に向けた事前準備を実施すること。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業準備（企業事前調査）、事後学習（調査まとめ・レポート作成等）に毎回４時間程度必要。
教科書	「大学生・新社会人のためのビジネス実務の基礎知識」（一粒書房） ※ビジネス実務総論と同じ教科書です。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「実は福井」の技（福井県産業労働部）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	企業等の業界・業種を問わず、幅広い知識を身につけ、社会人として実務の場面で活用できる力の習得を目指します。 ＬＭＳ(Moodle)を利用して課題の配布・提出が行われます。
評価の配点比率	目標①　授業のまとめ（授業毎の研究発表に対するレポート、確認問題）　40% 目標②　企業課題に対するまとめ（各授業毎の研究発表に対するレポート）　20% 目標③　企業課題に対する調査内容 20%（最終レポート） 目標④　確認問題、演習課題 20%
受講上の注意	
教員の実務経験	企業経営の経験、商工会議所等での専門アドバイザーとしての経験を有する教員が、その経験を活かして、企業活動の基本的な知識や今日的な課題について講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) ■自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している ■他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 企業研究Ⅱ　　授業コード： 1413701

英文科目名称： Study of Traditional Industries

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	１年次	２単位	選択
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14Z104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、福井県における伝統工芸と地域社会を調査・研究することで、社会人として必要な知識や技能の習得をすることである。 地域産業とそのイベント企画を総合的に学ぶため、RENEW等の地域産業イベントに参加し、工房訪問を行う予定。また、卒業生からものづくりと仕事との関わり、デザインの役割を学び、デザインとものづくりとの関わりについて理解を深める。体験したことを発表、相互評価等を行うことにより、ものづくりとこれからのデザインとの関わりを思索する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①福井県のものづくり・イベントを理解し説明することができる。	ＤＰ１	30
	目標②ものづくりと地域社会について考え、社会が抱える課題を見つけられる。	ＤＰ３	20
	目標③調査を主体的に実施し、他者に伝えることができる。	ＤＰ４	40
	目標④ものづくりに携わる人の話を聞いて、今の私たちに出来る事を考えられる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：現代の生活に関する幅広い教養と、科学的な知識と技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 福井県の産業と企業の歴史 福井県のものづくり、企画	福井県の風土から、産業にどのような特色があるのかを調べる。
	2	調査＆研究の方法について １）福井のイベントについて調べる ２）福井のものづくりについて調べる。	福井県のものづくりの特徴などを分野別に考察。福井県の歴史的な背景から、産業にどのような特色があり、どのように産業が栄えてきたか、衰えてきたかを考える。 「今日のレポート」提出。
	3	先輩に学ぶ／地域イベントへの参画（企画・取材）	先輩の仕事や暮らしの話を聞いて、自身の考察をまとめる。
	4	先輩に学ぶ／地域イベント参画WS	先輩が実施しているWSを体験し、それらが他者や社会に与える影響について考察する。 「今日のレポート」提出。
	5	先輩に学ぶ／地域イベントとケア労働	先輩の仕事や暮らしの話を聞いて、自身の考察をまとめる。 「今日のレポート」提出。
	6	福井の探索	事前に配布された資料から興味関心のある場所を選出し、訪問する。
	7	福井の探索	事前に配布された資料から興味関心のある場所を選出し、訪問する。 「報告書」提出。
	8	工房調査	事前に配布されたmapを確認し、訪問したい工房を５～７箇所選定し、HP等で工房の概要を理解しておくこと。 　調査対象となった工房や職人に対してのインタビュー内容を事前にまとめておく。「 「計画書」提出。

	9	工房見学、体験１ 現地調査（RENEW）にて、工房を訪問し、ものづくりを体験、RENEWに関わる人々にインタビューをする。	体験の記録として写真、動画等を撮っておくこと。事前に撮影の許可をもらうこと。 事後課題：研究発表で議論された工房について報告書（スライドが好ましい）を提出すること。
	10	工房見学、体験２ 現地調査（RENEW）にて、工房を訪問し、ものづくりを体験、RENEWに関わる人々にインタビューをする。	体験の記録として写真、動画等を撮っておくこと。事前に撮影の許可をもらうこと。 事後課題：研究発表で議論された工房について報告書（スライドが好ましい）を提出すること。
	11	工房見学、体験３ 現地調査（RENEW）にて、工房を訪問し、ものづくりを体験、RENEWに関わる人々にインタビューをする。	体験の記録として写真、動画等を撮っておくこと。事前に撮影の許可をもらうこと。 事後課題：研究発表で議論された工房について報告書（スライドが好ましい）を提出すること。
	12	工房見学、体験4 現地調査（RENEW）にて、工房を訪問し、ものづくりを体験、RENEWに関わる人々にインタビューをする。	体験の記録として写真、動画等を撮っておくこと。事前に撮影の許可をもらうこと。 事後課題：研究発表で議論された工房について報告書（スライドが好ましい）を提出すること。
	13	RENEWから学ぶ／地域イベント参加報告 グループごとに、訪問した工房体験について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施。	他者に伝わりやすい発表資料を作成し、相互評価を行う。 まとめレポートの提出
	14	RENEWから学ぶ／地域イベント参加報告 グループごとに、訪問した工房体験について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施。	他者に伝わりやすい発表資料を作成し、相互評価を行う。 まとめレポートの提出
	15	企画者に学ぶ／RENEW これまでの企業、これからの企業という視点で、企業の地域における役割と自身の参加方法について考えます。	疑問に思っていたことや、聞いておきたいことなど質問をリストアップしておく。 これまでの学びを踏まえて、最終レポートの提出

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事前学習（発表資料）、事後学習（まとめレポート作成等）に毎回４時間程度必要。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	ナガオカケンメイ『d design travel 福井』D&DEPARTMENT PROJECT／2024 新山直広 坂本大祐 編著『おもしろい地域には、おもしろいデザイナーがいる -地域×デザインの実践-』学芸出版社/2022 田中元子『マイパブリックとグランドレベル: 今日からはじめるまちづくり』晶文社/2017 田中元子『１階革命 私設公民館「喫茶ランドリー」とまちづくり』晶文社/2022
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①　今日のレポート30% 目標②　報告書 20% 目標③　計画書、発表資料 40% 目標④　最終レポート 10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： インターンシップ　　授業コード： 1413801

英文科目名称： Internship

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
野本　尚美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14Z501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、インターンシップを通して、キャリアを形成する心構えを身につけることである。 そのため、「ふくいインターンシップ」（合同企業ガイダンス、事前研修会、インターンシップ、事後研修会）や伝統工芸職の就業を体験する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①論理的・合理的に考える。	ＤＰ３	20
	目標②問題に対して的確な判断を行う。	ＤＰ４	20
	目標③傾聴し、自らの考えを伝える。	ＤＰ５	20
	目標④主体的に行動する。	ＤＰ６	20
	目標⑤多様な文化や考えの意義を理解する。	ＤＰ７	10
	目標⑥仕事場の一員として協働する。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。 ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	
	2	インターンシップの説明	
	3	合同企業説明会	インターンシップフェア
	4	事前研修	振り返りシートを提出する
	5	インターンシップ	４コマ×３日
	6	事後研修会	ワークシートを提出する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	報告書に関しては、仁短Moodleにてフィードバックする。
評価の配点比率	目標①～⑥：振り返りシート20%、ワークシート30%、インターンシップ報告書50%
受講上の注意	
教員の実務経験	

アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： マイプロジェクト　　授業コード： 1413901

英文科目名称： My Projects

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
田中　洋一・木内　貴子・澤崎　敏文・前田　博子・吉村　正照			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	秘書士資格選択	演習	ナンバリング：14Z105
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、身の回りのモノコトヒトへの興味関心から課題を発見し、「実践から学ぶ」ことを学ぶことである。 そのため、課題の見つけ方、調査方法、発表方法をプロジェクト活動を通して学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①自分の興味・関心からプロジェクトテーマを見つけられる。	ＤＰ３	20
	目標②プロジェクトテーマに合った研究法を選ぶことができる。	ＤＰ４	20
	目標③傾聴し、自らの考えを伝えられる。	ＤＰ５	20
	目標④主体的に行動することができる。	ＤＰ６	20
	目標⑤多様な文化や考えを理解できる。	ＤＰ７	10
	目標⑥他者と協力できる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ４：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ５：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。 ＤＰ７：多様な文化や考えを理解し、共感する態度を身につけている。 ＤＰ８：チームで共通の目標に向かい、サポートし合う態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、自分の興味・関心を可視化する	興味関心マップの作成、グループワーク。事後学習：興味関心マップの完成。※毎回、振り返りノートを提出。
	2	SDGsを自分ごと化する	自分のライフヒストリーを振り返り、2030年の自分とSDGsの結びつきを考えるグループワーク。事後学習：SDGs自分ごと化ワークシートの完成。
	3	文献調査法の理解、担当教員の興味関心紹介	図書館司書から文献調査の方法を学ぶ。教員５名の興味関心を理解する。
	4	アンケート調査法の理解、マイプロシートの作成	研究計画の立て方およびアンケート調査法を理解する。希望する担当教員を選ぶ。
	5	担当教員のチームでのガイダンス	担当教員およびチームメンバーを理解する。
	6	プロジェクトテーマ探し	マイプロジェクトのテーマを探す。
	7	プロジェクトテーマの決定	プロジェクトテーマを決定する
	8	マイプロの目的を決めよう	マイプロジェクトの目的（何を明らかにするのか等）を決定する。
	9	先行研究の調査	先行研究の文献調査を行う。
	10	データの収集	データを収集する。
	11	データの分析	データを分析する。
	12	データの考察	データを考察する。
	13	発表動画制作(1)	一人ひとりが発表動画（５分程度）のスライドを制作する。事後学習：スライドの完成。
	14	発表動画制作(2)	一人ひとりが発表動画（５分程度）を完成し、フォーラムにアップロードする。事後学習：動画の完成および提出。
	15	まとめ	他者の発表を評価する。自己評価を行う（※オンデマ

	15		ンド授業)

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。
教科書	必要に応じて、資料を配付する。
参考図書、教材、準備物等	上野千鶴子「情報生産者になる」（筑摩書房）等
課題（試験・レポート等）のフィードバック	紙での提出物は、適宜返却する。課題に対するフィードバックは、仁短Moodleで行う。プロジェクト型学習のため、遅刻・欠席はせず、事後学習にしっかりと取り組むこと。質問等がある場合は、担当教員へ連絡してください。
評価の配点比率	目標①～⑥：ワークシート20%、振り返りノート30%、進捗報告10%、発表動画30%、質疑応答10%
受講上の注意	卒業研究及び専門演習における心構えや方法論を学ぶ科目ですから、主体的に取り組んでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： メディカルクラーク　　授業コード： 1412201

英文科目名称： Medical Clerk

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
大森　廣子・倉内　克代			
メディカルクラーク資格取得に関する科目		演習	ナンバリング：14C901
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、医療現場を事務的な側面からサポートする『医療事務職』に求められる基礎的能力を身につける事です。 医療事務職の仕事の内容は主に①受付窓口での患者さんへの思いやりのある応対とその日の診療費を計算し患者さんに負担して頂く診療費の一部を徴収する日々の「受付業務」②患者さんから徴収しなかった診療費の残りを一月分にまとめて、患者さんが加入している保険組合に請求する「請求事務」の2点になります。これらの仕事に必要な「医療保険制度」「患者接遇」「医科診療報酬点数」「診療報酬明細書点検」についての知識を学習します。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①医療事務の基礎的な知識・技能を身につけている。	ＤＰ２	60
	目標②医療事務の具体的な問題に対して、論理的に考えることができる。	ＤＰ３	30
	目標③医療事務職としてのキャリアを形成するため、主体的に学ぶことができる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：現代の生活に不可欠な多様な情報を扱うための情報技術・マネジメント技法・デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ３：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ６：自ら目標を設定し、能動的に取り組む態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス【大森担当】【倉内担当】 医療機関を受診した場合の受付から診察、会計までの保険制度や診療報酬点数等を具体的な事例で説明し、医療事務講座の学習の概要を理解する。	補足説明：本授業は（一財）日本医療教育財団主催の「医療事務技能審査試験」を受験し「メディカルクラーク」の資格取得を目標とする講座です。 事前学習：本講義の概要を知るために、このシラバスを読んでおく。
	2	オリエンテーション 医療保険制度①【大森担当】【倉内担当】 医療事務の業務の流れを理解し、保険診療を行う医療機関と保険医が守るべき規則を学ぶ。	事後学習：配布プリントで講義内容を復習し、練習問題を解く。 補足説明：３回よりテキスト『医療保険制度のしくみ』の学習。
	3	医療保険制度②【倉内担当】【大森担当】 窓口業務で必要な医療保険制度のしくみについて理解する。	事後学習：講義内容の復習及びテキスト巻末の参考資料を理解する。基礎ドリル「医療保険制度」の問題を自力で解く。
	4	医療保険制度③【倉内担当】【大森担当】 医療保険の種類と被保険者証の見方を理解する。	事後学習：講義内容の復習及びテキスト巻末の参考資料のポイントを理解する。基礎ドリル「医療保険制度」の問題を自力で解く。 補足説明①全テキストにインデックスシールを貼る。
	5	医療保険制度④【倉内担当】【大森担当】 後期高齢者医療制度と診療報酬請求の流れを理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「医療保険制度」の問題を自力で解く。
	6	医療保険制度⑤・医事システム（新患受付登録）【倉内担当】【大森担当】 公費負担医療制度と介護保険制度を理解する。 医事システムの新患受付登録方法を学習する。	事後学習：講義を復習し基礎ドリル「医療保険制度」の問題を自力で解く。「医療保険制度確認プリント」の実施。 補足説明①：「医療保険制度確認プリント」と「基礎ドリル」は７回に提出。 補足説明②：７回よりテキスト『診療報酬の算定ルール』の学習。
	7	初再診料①【倉内担当】【大森担当】 初再診料の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。	事後学習：講義内容を復習し、基礎ドリル「初診料・再診料」の問題を自力で解く。

	8	初再診料②【倉内担当】【大森担当】 初再診料のレセプトの記載要領と点検方法を理解する。薬剤料の計算方法と電卓の使用方法を学ぶする。	事後学習：講義内容を復習し、基礎ドリル「初診料・再診料」の問題を自力で解く。薬剤料計算方法の確認プリントの実施。スタディブックに補足資料の書き込み等実施
	9	医学管理等【倉内担当】【大森担当】 医学管理等の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。医学管理等のレセプトの記載要領及び点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し、基礎ドリル「医学管理等」の問題を自力で解く。スタディブックの医学管理等の書き込み課題実施。
	10	在宅医療【倉内担当】【大森担当】 在宅医療の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。在宅医療のレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「在宅医療」の問題を自力で解く。確認プリント①「初再診～在宅」実施。 補足説明：確認プリント①と基礎ドリルは11回に提出。
	11	投薬①【倉内担当】【大森担当】 投薬の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「投薬」の問題を自力で解く。
	12	投薬②【倉内担当】【大森担当】 投薬のレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「投薬」の問題を自力で解く。基礎ドリル用プリントの実施。 補足説明：基礎ドリル用プリントは13回に提出。
	13	注射①【倉内担当】【大森担当】 注射の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「注射」の問題を自力で解く。
	14	注射②【倉内担当】【大森担当】 注射のレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「注射」の問題を自力で解く。基礎ドリル用プリントの実施。 補足説明：基礎ドリル用プリントは15回に提出。
	15	処置①【倉内担当】【大森担当】 処置の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「処置」の問題を自力で解く。
	16	処置②【倉内担当】【大森担当】 処置のレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「処置」の問題を自力で解く。 補足説明：基礎ドリルは17回に提出。
	17	手術①【倉内担当】【大森担当】 手術・麻酔の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「手術」の問題を自力で解く。
	18	手術②・麻酔【倉内担当】【大森担当】 手術・麻酔の点数算定方法の復習及び手術・麻酔のレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「手術・麻酔」の問題を自力で解く。 補足説明：確認プリント②実施し次回提出
	19	検査①【倉内担当】【大森担当】 検体検査の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「検体検査」の問題を自力で解く。
	20	検査②【倉内担当】【大森担当】 検体検査の点数算定方法及びレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「検体検査」の問題を自力で解く。
	21	検査③【倉内担当】【大森担当】 生体検査の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「生体検査」の問題を自力で解く。
	22	検査④【倉内担当】【大森担当】 生体検査及び病理診断の点数算定方法の復習とレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「生体検査」の問題を自力で解く。 補足説明：基礎ドリルは23回に提出。
	23	画像診断①【倉内担当】【大森担当】 画像診断の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「画像診断」の問題を自力で解く。
	24	画像診断②【倉内担当】【大森担当】 画像診断のレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「画像診断」の問題を自力で解く。 補足説明：25・26・27回は２限～４限の集中講義。27回は『医療現場における接遇』に入るので、テキスト『医療現場での接遇マナー』も追加で持参すること。
	25	入院料【倉内担当】【大森担当】 入院料の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。入院のレセプトの記載要領と点検方法を理解する。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「入院料」の問題を自力で解く。
	26	リハビリテーション等【倉内担当】【大森担当】 リハビリテーション等の点数算定方法を学び演習問題を解き理解する。レセプトの記載要領と明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「リハビリテーション等」の問題を自力で解く。
	27	医療現場における接遇①【倉内担当】【大森担当】 医事業務における個人情報保護の適切な取り扱いを事例より理解する。また患者や家族の心理を知り、望まれる医事担当者の基本を学ぶ。	事後学習：・[確認プリント③] 実施 ・[受験対策問題集(A)の学科]実施 ・[修了試験の学科]実施。課題物は28回に提出する（課題の返却日については講義内で知らせる）
	28	医療現場における接遇②【倉内担当】【大森担当】 患者接遇の基本である[姿勢][表情][あいさつ][言葉遣い][態度]を理解し各自で実践してみる。また事例を通して電話応対の基本を学ぶ。	事後学習：講義内容を復習し基礎ドリル「窓口応対」の問題を自力で解く。

	29	医療現場における接遇③【倉内担当】【大森担当】 受付窓口、会計窓口の対応についてグループでロールプレイニングを実施し、気づきを話し合う。受付業務の具体的な事例を紹介し、対応方法について理解する。	事後学習：＊基礎ドリルの「窓口応対」の問題を解き、基礎ドリルの全体を完成させ３０回に提出する(完成した基礎ドリルは講師確認後に返却する。未実施箇所があれば再提出を指示する) 補足説明①：30回よりテキスト『レセプト点検』に入る。
	30	レセプト作成【倉内担当】【大森担当】 今まで学習してきた点数算定ルールを基に、テキストにある外来及び入院のカルテから診療日ごとの診療報酬点数と患者負担金を求め、さらにレセプトの手書き作成まで体験する。手書きレセプトを作成する事で、次回からのレセプト点検の理解につなげる。	事後学習：講義内容を復習し、レセプト作成方法を理解する。
	31	レセプト点検①・医事システム（会計入力）【倉内担当】【大森担当】 医事システム（医療事務用PCソフト）の会計入力の特徴を理解し、レセプト上での点検要領の基礎を学ぶ。	事後学習：講義内容を復習し、レセプト点検方法を理解する。
	32	レセプト点検②【倉内担当】【大森担当】 今までの学習内容を復習しながら、レセプト上で「算定ルール」や「記載要領」が正しいかを確認し、レセプトの点検方法の理解を深めていく。	事後学習：講義内容を復習し、レセプト点検方法を理解する。
	33	レセプト点検③【倉内担当】【大森担当】 今までの学習内容を復習しながら、レセプト上で「算定ルール」や「記載要領」が正しいかを確認し、レセプトの点検方法の理解を深めていく。	事後学習：講義内容を復習し、レセプトの点検方法を理解する。「修了試験 実技」を実施し、34回に提出。（修了試験の返却及び再提出は講義内で説明） 補足説明①：34回～36回は集中講義。
	34	レセプト点検④【倉内担当】【大森担当】 今までの学習内容を復習しながら、レセプト上での「算定ルール」や「記載要領」が正しいかを確認し、レセプトの点検方法の理解を深めていく。	事後学習：講義内容を復習し、レセプト点検方法の理解を深めていく。
	35	レセプト点検⑤【倉内担当】【大森担当】 今までの学習内容を復習しながら、テキストにあるレセプト点検を徐々に自力で実施できるように理解度を上げていく。	事後学習：講義内容を復習し、自身でレセプト点検方法の理解を深めていく。
	36	レセプト点検⑥【倉内担当】【大森担当】 今までの学習内容を復習しながら、テキストにあるレセプト点検を徐々に自力で実施できるように理解度を上げていく。	事後学習：講義内容を復習し、レセプト点検方法を習得する。 補足説明①：受験対策問題集・スタディブックの[復習問題]を実施する(詳細は講義内で説明) 補足説明②：37・38・39回と40・41・42回は集中講義。全教材持参すること
	37	レセプト点検⑦【倉内担当】【大森担当】 レセプトの点検方法の理解と公費負担医医療制度のレセプトの紹介。返却された[修了試験]は各自で誤答箇所を理解し、訂正して100点を目指す。演習問題を自力で点検し自身の点検能力の達成度を知ると共に、理解不足部分を復習する。	事後学習：テキストを復習しレセプト点検方法を習得する。
	38	レセプト点検演習①【倉内担当】【大森担当】 各自で受験対策問題集の演習問題に取り組み、資格試験問題の傾向をつかむ。	事後学習：各自受験対策問題集の問題を自力で進めていく。わからない箇所をまとめておき、次回の講義に講師に質問すること。
	39	レセプト点検演習②【倉内担当】【大森担当】 各自で受験対策問題集の演習問題に取り組み試験問題の傾向をつかむ	事後学習：各自受験対策問題集の問題を自力で進めていく。わからない箇所をまとめておき、次回の講義に講師に質問すること。
	40	点数算定・レセプト点検演習【倉内担当】【大森担当】 各自が進めている受験対策問題集について、講師が個別質問に対応し、各人の理解度を上げる。	事後学習：実施した演習問題の復習。受験対策問題集を各自進める
	41	患者接遇演習【倉内担当】【大森担当】 受付での患者応対の具体的な演習問題を各自で解き、自身の認識不足がないかの確認をする。	事後学習：演習問題の復習。受験対策問題集を各自進める
	42	総合演習・講義の振り返り【倉内担当】【大森担当】 学習してきた内容の総まとめ。各人の苦手な科目の演習を実施し理解を深める。講義終了にあたって、講義の感想や受験に臨むにあたって今後の自分の学習方法を考えるための「振り返りレポート」実施。	事後学習：受験対策問題集の全問題実施完了を目標に、自己学習を進める。 補足説明①：総合確認テスト配布。総合確認テストは定期試験の代わりとする。自宅で自力で仕上げ、必ず指定日に提出すること（提出日厳守） 補足説明②：42回の講義の後、別日に1日4コマの『医療事務受験対策セミナー』を実施する。受験する者は必ず出席すること。『医療事務受験対策セミナー』では、予想問題を実際の試験と同じ時間を計って実施する。また、自身のPCを使用して資格試験と同じ形式のサンプル試験にも挑戦する。（「医療事務受験対策セミナー」の日程はオリエンテーション時に説明）
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 全講義終了後に「総合確認テスト」を自宅で行い提出する。		
準備学習に必要な時間	1コマ1時間程度の事後学習が必要。テキスト等を読み返しながら、「基礎ドリル」「確認プリント」等を行うことで学習内容の理解度を自己確認する。ドリル等の進捗状況確認のため、それらの提出を定期的に指示す		

	る。課題物提出の周知は、講義内での板書の他に随時Moodleでも知らせる。
教科書	医療事務講座：テキスト４冊「医療保険制度のしくみ」「診療報酬の算定ルール」「レセプト点検」「医療現場での接遇マナー」（※厚生労働省認定教材）・スタディブック・医科ハンドブック・医療事務受験対策セミナーテキスト（著者：(株)ニチイ学館　出版：(株)ニチイ学館　2026）
参考図書、教材、準備物等	教材：インデックスシール、 医療事務用電卓、基礎ドリル(問題編/解答編)、受験対策問題集(問題編/解答編)、必要に応じてプリントを配布
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・各講義後に行う課題の「基礎ドリル」は、定期的に復習状況の確認のため提出し講師のアドバイスを添えて返却する。・講義中４回行う課題の「確認プリント」は、原則実施日の次の授業に提出し、評価後解答解説を添えて返却する。「確認プリント」の返却時に誤答の多い箇所は、授業内で補足説明する。・講義後半の課題の「修了試験」は学科と実技に分けて実施し提出。採点返却後に誤答箇所を自力で訂正し再度提出する。最終的に誤答箇所は解説プリントを添えて返却し口頭説明の補足で満点を目指す。また講義中の個別質問等は、講義前後の対面及びMoodleにて随時受付け対応する。
評価の配点比率	目標①修了試験30％ 総合確認テスト30％ 目標②確認プリント20％　基礎ドリル10％ 目標③患者接遇レポート5％　講義振り返りレポート5％
受講上の注意	【（一般財団法人）日本医療教育財団主催　医療事務技能審査試験（医科）について】 ①上記の資格試験の受験希望者は42回の授業履修後、1日（4コマ）の『医療事務受験対策セミナー』を受講すること。 ②試験は講義修了後、(一般財団法人)日本医療教育財団が指定する試験日に各人で『インターネット試験(ＩＢＴ方式)』を受験する。受験料は8800円。試験の詳細等はガイダンスで説明する。 （株）ニチイ学館が行う医療事務講座を担当する教員が医療事務講座の基礎的能力を身につけるために、実状に即したテキスト、ドリル、問題集、確認プリントを使用し講義する。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク　□発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業□双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している　□他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 人間と仏教Ⅰ　　授業コード： 2110101

英文科目名称： BuddhismⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	必修
担当教員			
香月　拓			
幼児教育学科　教養科目		講義	ナンバリング：20A101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼済」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。 そのため、釈尊の生涯や仏教における人間観を学ぶことを通して、「本当の自分とは何か」を尋ねていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①釈尊の生涯と思想について述べることができる。	ＤＰ９	20
	目標②自分の考えを読み手に伝わるようレポートにまとめることができる。	ＤＰ６	10
	目標③仏教における人間観をもとに「本当の自分とは何か」を考察し、述べることができる。	ＤＰ７	20
	目標④「仁愛兼済」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べることができる。	ＤＰ８	20
	目標⑤仏教に照らし合わせて自分の考えや行動を省察できる。	ＤＰ９	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	イントロダクション－キャンパスのモニュメントについて	『和』を持参すること 授業の取り組み方に関しての説明をする 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	2	仁愛学園の歩みと建学の精神について	『和』を持参すること 事前に『和』p.2～18を読んでおくこと 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	3	四恩の自覚－いのちの大地	『和』を持参すること 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	4	四恩の自覚－仁愛兼済	第1回レポート
	5	宗教とは何か－宗教のイメージをとらえる	宗教のイメージに関するグループワークを行う 『和』を持参すること 授業の最後にワークシートを提出する
	6	宗教とは何か－宗教施設の役割りについて	宗教施設の役割りに関するグループワークを行う 『和』を持参すること 授業の最後にワークシートを提出する
	7	仏教とは何か－自我と自己	授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	8	釈尊の生涯－誕生	事前に『仏教聖典』p.2～8を読んでおくこと 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	9	釈尊の生涯－四門出遊～苦行の放棄	授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	10	釈尊の生涯－成道	事前に『仏教聖典』p.8～10を読んでおくこと 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	11	釈尊の生涯－縁起の法と伝道生活	授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する

	12	釈尊の生涯ー仏弟子たちとの生活	第2回レポート
	13	釈尊の生涯ー涅槃	事前に『仏教聖典』p.10～15を読んでおくこと 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	14	釈尊入滅後の仏教ー『歎異抄』の世界	『礼讃抄』を持参すること 授業内容のスライドを復習し、Moodle上の課題に回答する
	15	美しい世をひらく灯となるために	全15回の振り返りを行うとともに、本学の建学の精神についてグループワークを行う 授業の最後にワークシートを提出する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 試験に代わって、全講義終了後に第3回レポートを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の事前・事後学習（配布資料やレポートの整理をしながら要点をまとめる、指定された教材を読んでおく）を必要とする。レポート課題の作成にはさらに多くの時間が必要となる。また、日常生活のなかで、講義で学んだことを通して「本当の自分とは何か」を思索するよう努めること。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『仏教聖典』（仏教伝道協会，1996） 教材：適宜、プリント資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎回、授業内容のスライドを復習し、LMS（仁短Moodle）の課題に回答すること。※第1回および第2回レポート実施回は除く 課題については、次回授業の冒頭でフィードバックする。 その他、成績評価を含め授業に関する質問等がある場合は、Moodleの質問コーナーやオフィスアワー等を利用すること。
評価の配点比率	目標①毎回の課題10%、第3回レポート10% 目標②第1回レポート5%、第2回レポート5% 目標③毎回の課題20% 目標④第1回レポート5%、第2回レポート5%、第3回レポート10% 目標⑤毎回の課題10%、第3回レポート20%
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては1回目のガイダンスで説明する。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　人間と仏教Ⅱ　　授業コード：2110201

英文科目名称：　BuddhismⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	必修
担当教員			
CI委員長			
幼児教育学科　教養科目		演習	ナンバリング：20A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたＡＨの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	ＤＰ７	25
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	ＤＰ７	25
	目標③「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	ＤＰ８	25
	目標④自らを振り返る態度を身につける。	ＤＰ９	25
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月　2年後の理想像と１年次前期の目標設定 【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の説明および記入
	2	4月　降誕会	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	3・4	5月　開学記念	※詳細は後日連絡
	5	9月　1年次前期の自己評価と後期の目標設定 【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入
	6	12月　成道会	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	7	1月　讃仰会（追弔会）	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	8	1月　先輩に学ぶ【オンデマンド】	感想シート提出
	9	2年次 4月　1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	10	4月　降誕会	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	11・12	5月　開学記念	※詳細は後日連絡
	13	9月　2年次前期の自己評価と後期の目標設定 【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月　成道会	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	15	12月　讃仰会（追弔会）／振り返りテスト	式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加 感想シート提出
	16	1月　同輩に学ぶ【オンデマンド】	感想シート提出

	17	1月　2年次後期の自己評価と２年間の振り返り 【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。そのため、毎回60分程度の事前事後学習が必要。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』2017（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『和』2022（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①レポート（15%）振り返りテスト（10%） 目標②レポート（15%）振り返りテスト（10%） 目標③感想シート、『充実した学生生活を送るために』（25%） 目標④感想シート、『充実した学生生活を送るために』（25%）
受講上の注意	AHは式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会活動実践　　授業コード： 2110301

英文科目名称： Social Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
CI委員長・総合学務センター長・総合学務センター次長			
幼児教育学科　教養科目		演習	ナンバリング：20A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動の事前準備ができる。	ＤＰ７	10
	目標②ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	ＤＰ８	20
	目標③活動を通して感じたことをレポートすることができる。	ＤＰ９	70
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		単位認定の方法 　本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。	
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に学び支援課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。	所定の用紙は学び支援課で受け取ること。
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	ボランティア終了後60分程度、習得した内容等の振り返りが必要。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	使用しない
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①②③レポート（100%）
受講上の注意	

教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　日本の憲法　　授業コード：2110401

英文科目名称：　Constitution of Japan

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	１年次	２単位	選択
担当教員			
生駒　俊英			
幼児教育学科　教養科目	幼稚園教諭免許必修	講義	ナンバリング：20B102
添付ファイル			

授業の概要	本講義では、日常生活で体験する身近な問題を取り上げることによって、現代社会における法の生きた現実の機能を学ぶとともに、憲法の中心的役割とされる、我々国民の権利と自由を守る基本的概念を理解することを目的とする。法の精神、憲法の概念について学んだ後、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重を中心に、背景にある目的を踏まえて講義を進めたい。 国の最高法規である日本国憲法を学ぶことにより、法的なものの考え方を身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	これまでに高校等で学んだ「日本国憲法」に対する考え方をより深め、条文に込められた意図を理解する。	ＤＰ１	100
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション　講義予定、講義内容、授業の進め方等の説明	今後の授業について準備する。
	2	憲法の意味、憲法前文　形式的・実質的意味の憲法、前文の内容・法的性質	憲法の意味を理解した上で、今後学習していく現憲法がどのような性質を有しているかを明らかにする。 今後の憲法勉強の学習に当たって、必ず前文を一読する事。 前文の法的性質（法規範性・裁判規範性）を明らかにする。
	3	国民主権　国民主権の意味	国民主権の内容である二つの側面について理解する。
	4	天皇　天皇の地位・権能	明治憲法下の天皇の位置付けとの相違に注意しつつ学習を進めると理解しやすい。 公的行為（象徴としての行為）については、しっかりと理解しておく。
	5	平和主義　憲法９条の解釈	憲法9条における解釈方法について理解する。
	6	基本的人権１　人権の概念・種類・主体	人権の享有主体として、日本国民があげられる。その他、天皇、法人等が享有主体として国民とどのような相違があるかについて整理する。
	7	基本的人権２　公共の福祉、幸福追求権、法の下の平等	法の下の平等との関係で民法900条4号ただし書きについては、最高裁判所の新判断が出ているので要チェック！
	8	基本的人権３　精神的自由権（思想・良心の自由、信教の自由）	信教の自由における政教分離原則について、国家が行ってはいけない（禁止される）宗教行為とは何かを裁判例から理解する。
	9	基本的人権４　精神的自由権（学問の自由、表現の自由）	学問の自由については、その保障される三つの具体的な権利について理解する。 表現の自由は、自由権の中でも最も重要な権利であるとされ、内容も多岐にわたる。 公務員の政治活動の自由との関係では、リーディングケースとされる猿払事件（テキスト61頁）について理解しておく必要がある。
	10	基本的人権５　経済的自由権、身体的自由権	職業選択の自由（憲22条）を制限する制約は、内在的制約と政策的制約とに区別される。それぞれどのような内容の制約か裁判例（テキスト71頁）にも触れつつ

	10		理解しておく。 被疑者、被告人の違いも整理した上で、それぞれの権利を条文をもとに整理する。
	11	社会権（教育を受ける自由）	生存権は、指摘される３つの法的性質について、その違いに着目し理解する。 教育を受ける権利（憲26条）の内容については、裁判例を踏まえて理解する。
	12	国会　国会の地位・権能	憲法は、大きく「人権」と「統治機構」に分類されるが、「統治機構」の中の一つである国会について勉強していく。日頃から新聞を読み、現在の日本の政治システムにも関心を持ちながら勉強を進めて欲しい。
	13	内閣　内閣の地位・組織	第７章の国会と同様、日頃から新聞を読み、現在の日本の政治システムにも関心を持ちながら勉強を進めて欲しい。
	14	裁判所	裁判所については、その組織体系もさることながら、違憲立法審査権や司法権の限界についても注意しておきたい。
	15	地方自治・財政	地方自治に関しては、まず初めに「住民自治」、「団体自治」とは何かについて理解する必要がある。そのうえで、地方公共団体の権限について見ていく。 財政のところでは、様々な言葉が出てくるので、しっかりと整理して理解する必要がある。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	予習：事前に教科書を読んでから講義を受講することが望まれる（１時間程度）。 復習：講義で進んだ教科書の個所を読み直すことと、課題問題に取り組むこと（１時間程度）。 予習および復習とあわせて、定期試験に向けて相当な時間の準備が必要となる。
教科書	『ワンステップ憲法』（嵯峨野書院）
参考図書、教材、準備物等	他に必要な資料は、授業において随時紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明する。 成績評価を含め、質問等がある場合は、メールにて受け付ける。
評価の配点比率	目標①レポート３０％、定期試験７０％
受講上の注意	講義はリモート（オンデマンド）で実施し、試験は対面試験を行う。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 健康と食　　授業コード： 2110801

英文科目名称： Health and Food

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
木内　貴子			
幼児教育学科　教養科目		講義	ナンバリング：20C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、健康の維持・増進のための知識を身につけ、食生活の実践力を高めることである。食のあり方が多様化し変容する社会において、健康と、食生活や運動習慣、ストレスなどの生活習慣は強く関連している。そのため、授業では、よりよい生活習慣を軸に、科学的な情報を活用しながら健康的な食生活を送るための知識・技術を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①健康的な食生活を営むための知識を身につける。	ＤＰ３	25
	目標②健康的な食生活を営むために必要な情報を、適切に収集できる。	ＤＰ３	10
	目標③より健康的な食行動のための技法を身につける。	ＤＰ４	15
	目標④科学的な知識・情報に基づいて、どのような食生活を送るかを自ら判断できる。	ＤＰ６	20
	目標⑤食の多様性を理解し尊重する態度を身につける。	ＤＰ７	10
	目標⑥食生活における諸問題を、自分の問題として考える態度を身につける。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	生活と健康	ガイダンス 食生活が健康に及ぼす影響 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。健康に関する社会制度・保健対策
	2	日本の食生活の変容	現代日本における食生活の変化と健康課題 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。メタボリックシンドローム
	3	糖尿病予防のための健康・栄養管理	血糖コントロールで肌の老化対策はできるか？ 食からアンチエイジングを考える 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。血糖コントロールのための食事管理
	4	高血圧予防のための健康・栄養管理	日本食と塩と健康、高血圧と塩分の関係 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。減塩のための工夫
	5	脂質異常症予防のための健康・栄養管理	あなたは本当にダイエットが必要か 脂質のとり方、脂質異常症と食生活 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。脂質の摂取と健康の関係
	6	骨の健康のための健康・栄養管理	骨を強くする栄養素はカルシウムだけではなかった 子どもから始める骨粗しょう症の予防 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。骨を意識した生活習慣

	7	貧血予防のための健康・栄養管理	ライフステージにみる貧血と健康課題 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。貧血予防のための食事、調理の工夫
	8	シニア世代の健康と栄養・食生活	いつまでも食べ続けるためには フレイルとオーラルフレイル 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。摂食嚥下機能と食事の種類
	9	ストレスと健康・栄養管理	ストレスと食欲、健康の三要素 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。やせによる健康課題と対応
	10	バランスの良い食事の実際	食事バランスを整えるための指標とは 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。栄養計算
	11	食卓の安全	食の安全とリスク分析 事前学習：提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。　食品パッケージから安全を読み解く
	12	今、もしもの時の食事を考える	災害と食生活 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。災害時に配慮すべき栄養・食事内容
	13	食行動を科学する	よりよい食行動に変えるための技法とは 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。行動科学理論
	14	食の情報を読み解くには	食情報とヘルスリテラシー 事前学習：教科書の該当箇所を読み、概容を確認しておく 事後学習：講義内容をまとめる。様々な観点のリテラシー
	15	作って食べるということ	食べることは生きること、生き抜くこと 事前学習：提示されたキーワードについて調べ学習する　災害時の料理レシピ 事後学習：講義内容をまとめる。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の事前・事後学習を要します。 事前学習では教科書の該当箇所を読み概容をまとめておきましょう。また、講義内で提示されるキーワードについて調べておきましょう。 事後学習では講義内容をノートにまとめるようにしましょう。 下調べなどの事前準備やノートのまとめには相当な時間を要します。日頃からの取り組みを心がけましょう。
教科書	稲代貴代・大森玲子編著「食と健康の科学（第3版）」建帛社　2021年
参考図書、教材、準備物等	参考図書：講義内で随時紹介します。 教材：必要に応じて資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	仁短moodle等を利用してフィードバックを行います。
評価の配点比率	期末定期試験70%　課題30% 目標①：期末定期試験25% 目標②：課題10% 目標③：期末定期試験5%　課題10% 目標④：期末定期試験20% 目標⑤：期末定期試験5%　課題5% 目標⑥：期末定期試験15%　課題5%
受講上の注意	授業の取り組み方については、第1回目のガイダンスで説明します。 本講義受講を、自身の食生活の振り返りの機会としてください。
教員の実務経験	栄養士業務に携わった経験のある教員が、健康と食に関する基本的な知識について講義します。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 野外スポーツ　　授業コード： 2110501

英文科目名称： Field Sports

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	１年次	１単位	選択
担当教員			
鮫嶋　優樹			
幼児教育学科　教養科目		演習	ナンバリング：20C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。 そのために今年度は、野外スポーツの中から、ゴルフを集中的に行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標① 積極的に野外スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	ＤＰ７	50
	目標② 野外スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	ＤＰ３	30
	目標③ 野外スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	ＤＰ３	10
	目標④ 野外スポーツの特徴を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ゴルフの運動効果、スイングの基本	全体オリエンテーションを含む
	2	フルスイングショット	
	3	９番アイアン打撃	
	4	７番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	5	５番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	6	アイアンのテストとまとめ	学外ゴルフ打撃場を使用 ※実技試験
	7	アプローチショット	学内運動場を使用
	8	ピッチとラン	学内運動場を使用
	9	パッテイング	
	10	ウッドショット打撃	学外ゴルフ打撃場を使用 ※実技試験
	11	ドライバーとスプーン	学外ゴルフ打撃場を使用 ※実技試験
	12	ウッドのテストとまとめ	学外ゴルフ打撃場を使用 ※実技試験
	13	ルールとマナー	
	14	コースでのプレーの仕方	
	15	ミニ・ラウンド	※基本は体育館・グラウンドを使用

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業で習得した練習内容や技能の振り返りとして、各回45分程度の事後学習が必要。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	適宜必要な資料をプリントして配布予定。

課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。 成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール(y-samejima@go.jin-ai.ac.jp)にて対応します。
評価の配点比率	目標①実技試験50% 目標②実技試験30% 目標③レポート10% 目標④レポート10% ※　実技試験は学外ゴルフ練習場を使用する回に実施した全ての試験により総合的に評価する。
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 情報メディア入門(幼児教育学科)　　授業コード：2110601　2110602

英文科目名称： Introduction to Information and Media Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
佐藤　宏隆			
幼児教育学科　教養科目	幼稚園教諭免許必修	講義	ナンバリング：20D102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、大学、職場、家庭にて必要となるコンピュータリテラシーの基礎を習得することである。 本学のICT環境を理解し、情報倫理・OSの基礎・タッチタイピング・インターネットの利用・文書作成・表計算の基礎を学び、事例課題に取り組むことにより、幼稚園教諭としてのデータサイエンスの基礎及び総合的なICT活用法について学ぶ。 また、初年次教育科目として、情報収集の方法（図書館の活用を含む）、レポートの書き方、プレゼンテーションの技法についても学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①情報を取り扱う多様なメディア（媒体）の特徴を理解し、情報リテラシーの基礎な知識を身につけている。	ＤＰ３	20
	目標②コンピュータの基本的な操作法、文書作成、表計算、プレゼンテーションなど基本ソフトウェアを効率的に使用できる。	ＤＰ４	10
	目標③作成した情報コンテンツを、他人と比較を通して、情報の受け手の立場で評価する。	ＤＰ６	50
	目標④インターネット活用を通して、公開されているオープンデータを参照し、統計的な処理ができる。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	学内メールのセットアップおよびガイダンス 授業における内容と心構えについて解説するとともに、必要となる学内メールのセットアップを行う。 インターネットメールのアドレスを理解し、メールの送受信、Zoom授業の参加方法やMoodleへのログインなど授業で利用する機能を実際に使用する演習を行う。	配布した操作説明のプリントを読んで、PCへのログイン等の操作に慣れておくこと
	2	Moodleの基礎 Moodle上への課題提出方法としてオンラインテキスト及び写真の提出方法について解説し演習を行う。	配布プリントで復習しておくこと
	3	タイピングの基礎 タイピングの基本と文書入力の方法について解説する。 授業終了時にタイプスピード（1回目）の結果を提出する。	全講義終了後、課題としてタイプスピード(2回目)を提出してもらうので、タイピングの練習は自主的に事前事後学習として行うこと
	4	情報検索の基礎 情報収集（情報検索・図書館活用）の基礎を解説した後、図書館の蔵書検索を通して学びに必要な図書、文献を見つける演習を行う。 加えてSNS利用時の注意点についても解説する	事前に配布したプリントを熟読し内容を理解しておくこと
	5	電子メールの利用について 電子メール（作成・送信、受信、返信）の機能について解説の後、メールアドレスや構成、マナー、使用できる文字などをレポートにまとめる情報検索演習を行う。 授業終了時に理解度評価のためMoodle上の小テストを実施する。	Moodle演習課題の小テストは必ず実施すること

	6	文書作成の基礎-1 Word入門（ページ設定と文書入力）について解説の後、テキストの例題をもとにページ設定と文書入力の演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出
	7	文書作成の基礎-2 Word入門（文書の構成と編集）について解説の後、テキストの例題をもとに文書の構成と編集の方法について演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出
	8	文書作成の基礎-3 Word入門（ビジネス文書作成の実際）について解説の後、テキストの例題をもとにビジネス文書作成の方法について演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出
	9	文書作成の基礎-4 Word入門（表・画像・図形を活用した文書作成）について解説の後、テキストの例題をもとに表・画像・図形を活用した文書作成の方法について演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出
	10	表計算の基礎-1 Excel入門（表作成と計算の基礎）について解説の後、テキストの例題をもとに表作成と計算の基礎について演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出
	11	表計算の基礎-2 Excel入門（関数の利用）について解説の後、テキストの例題をもとに合計・平均、最大・最小などの関数を用いて表の集計について演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出
	12	表計算の基礎-3 Excel入門（便利な機能）について解説の後、テキストの例題をもとに便利な機能を知りデータの評価に役立てる方法について演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出
	13	表計算の基礎-4 Excel入門（グラフ作成）について解説の後、テキストの例題をもとに様々なグラフ作成を通してデータの評価を多面的に行う演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出
	14	レポートの書き方（WordとExcelの活用含む） 専門科目等で出題されるレポート作成に必要な事柄をゼミ活動等の研究要旨の作成について解説の後、テキストの例題をもとにWordとExcelを活用について演習を行う。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと
	15	プレゼンテーションの基礎 PowerPointによるスライド作成や画面切り替え効果などの機能を効果的に利用してプレゼンする方法について解説の後、テキストの例題をもとに演習を行う 授業の終了時には全講義終了後の課題と提出方法について解説する。	テキストの該当部分を事前事後学習しておくこと Moodle追加演習課題の提出 全講義終了後の課題は、締め切りを厳守すること

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事前に教科書及び配布プリントの該当項目のページに目を通しておくこと、さらに授業の理解を深めるために事前・事後学習に相当な準備が必要となる。
教科書	『30時間アカデミック　Office2021　Windows 11対応』（実教出版）
参考図書、教材、準備物等	『電子メールを使おう』（配布プリント）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題は、授業内課題、追加課題（7～13回目）、Moodle上の小テスト（5回目）、全講義終了後の課題、タイプスピード（3回目、全講義終了後）の5種類である。 授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第１回のガイダンスで説明する。 フィードバックは基本的にmoodle上で行い、質問等はMoodleのメッセージまたは電子メールで随時受け付けるので積極的に質問すること。授業内課題は基本的に講義時間内に提出すること。
評価の配点比率	目標①全講義終了後の課題 5%、授業内課題10%、Moodle上の小テスト 5% 目標②全講義終了後の課題 2%、授業内課題 5%、タイプスピード（3回目、全講義終了後）3% 目標③全講義終了後の課題10%、授業内課題25%、追加課題15% 目標④全講義終了後の課題 5%、授業内課題15%
受講上の注意	卒業後必要となる基本的なスキルを身につけるためにも、授業中に提出できなかった課題は、締め切りまでに必ず提出すること。授業を欠席した時には、提出期限を過ぎても、次回の授業までに課題を提出すること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： データサイエンス入門　　授業コード： 2110701

英文科目名称： Introduction to Data Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	１年次	１単位	必修
担当教員			
辻岡　和孝・鮫嶋　優樹			
幼児教育学科　教養科目		講義	ナンバリング：20D501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事場で活用する基礎的な能力を身につけることである。 そのため、社会におけるデータ・AI利活用、データ・AI利活用における留意事項、データリテラシー（データを読む、説明する、扱う）を学ぶ。 ※ 前半4回は辻岡、後半4回を鮫島が担当する。 ※ 本科目は、数理、データサイエンス・AI教育プログラムの該当科目である。 ※ 課題解決型学習として福井市の実データ（福井の天気情報を予定）を用いたレポート作成に取り組む。 ※ 自主学習支援として、授業の解説や授業理解に寄与する各種資料等をLMS上で常時公開する。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①日常生活や仕事場における数理・データサイエンス・AIの活用事例について説明できる。	ＤＰ３	40
	目標②データから課題を発見できる。	ＤＰ６	20
	目標③実データを適切に読み解き、判断できる。	ＤＰ６	30
	目標④日常生活や仕事場に対して、数理・データサイエンス・AIの活用を主体的に取り入れる意欲がある。	ＤＰ７	10

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、社会で起きている変化[担当:辻岡]	事例調査・確認テスト
	2	社会で活用されているデータ[担当:辻岡]	事例調査・確認テスト
	3	データ・AIの活用領域と利活用のための技術 データ・AI利活用の最新動向[担当:辻岡]	事例調査・確認テスト
	4	データ・AI利活用における留意事項[担当:辻岡]	事例調査・確認テスト
	5	データを読む[担当:鮫島]	福井市の実データを用いる。 課題提示
	6	データを説明する[担当:鮫島]	福井市の実データを用いる。 課題提示
	7	データを扱う①：データの理解と加工[担当:鮫島]	福井市の実データを用いる。 課題提示 ミニレポート課題提示
	8	データを扱う②：レポートの作成[担当:鮫島]	福井市の実データを用いる。 ミニレポート作成方法と具体的な作成例について解説する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、４時間程度の事後学習が必要。
教科書	仁短Moodleにて、適宜、必要な資料を共有する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『基礎学習AIデータサイエンスリテラシー入門』（吉岡剛志、技術評論社、2022）、データサイエンスや統計に関する書籍等。
課題（試験・レ	課題は、仁短Moodleを用いて、学生へフィードバックする。

ポート等）の フィードバック	
評価の配点比率	目標①事例調査・確認テスト40%. 目標②課題:10%、レポート10%. 目標③課題:20%、レポート10%. 目標④振り返りノート（1×8回＝8%、まとめ2%）10%として評価する。
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては1回目のガイダンス動画で説明する。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育原理　　授業コード： 2111101

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A101
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、保育者として理解しておくべき教育の基礎理論のうち、とりわけ「教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わり」「教育の思想と歴史的変遷」「学校教育制度」「生涯学習社会における教育の現状と課題」「教育実践の基礎理論（内容・方法・計画・評価）」について修得することを目的とする。具体的には、そもそも「教育」とは何であるかを考えることから出発し、生涯学習社会で求められる学習方法、ユニークな教育実践の取り組み、教育の歴史と学校教育制度などについて順に学んでいく。各回において、教育に関する基礎的概念を身につけるとともに、現代日本の教育課題を様々な角度から捉えるための見方・枠組みを修得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①「教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わり」「教育の思想と歴史的変遷」「学校教育制度」についてそれぞれ説明できる。	ＤＰ１	50
	目標②「生涯学習社会における教育の現状と課題」について説明できる。	ＤＰ３	10
	目標③「教育実践の基礎理論（内容・方法・計画・評価）」について説明できる。	ＤＰ５	10
	目標④ 自分の考えをレポートにまとめることができる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：短期大学での学び方	【本講義15回すべてに共通する事項】 各回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に提出すること。また、その日の授業内容に関する「事後学習シート」を各回Moodle上でPDF配布するので、必ず目を通すこと。 ※併せて、各授業内では実習等で活用できる「手遊び」の紹介をしていく。一部の「手遊び」については、仁短YouTubeチャンネル動画「てあそびであそぼう」シリーズに収録されているので、あらかじめ視聴しておくと良い【自らの教育リソースの活用】。
	2	教育とは何か（1）：教育の意義と目的（教育基本法）	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	3	教育とは何か（2）：教育と子ども家庭福祉等との関わり（日本国憲法、学校教育法、児童福祉法）、乳幼児期の教育の特性	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	4	教育とは何か（3）：人間形成と文化、家庭の文化、園文化・学校文化、しつけと社会化	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	5	生涯学習社会における教育（1）：生涯学習とは、リカレント教育、Open University	事前に、「福井県生涯学習センター」「放送大学」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	6	生涯学習社会における教育（2）：成人期の学習、自己決定型学習	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	7	教育実践の多様な取り組み（1）：かつやま子どもの村小・中学校、教科カリキュラムと経験カリキュラム	事前に、「かつやま子どもの村小・中学校」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	8	教育実践の多様な取り組み（2）：森のようちえん、持続可能な開発のための教育（ESD）とSDGs	事前に、「NPO法人 森のようちえん全国ネットワーク連盟」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理す

			る。
	9	教育実践の多様な取り組み(3)：ICT利活用教育、反転授業、アクティブ・ラーニング、ポートフォリオ、ルーブリック	現在の教育におけるICT利活用の実態について事前に調べておく。また、教育現場における生成AIの利用について、自分の考えをまとめておくと良い。授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	10	教育の思想と歴史的変遷（1)：コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	11	教育の思想と歴史的変遷（2）：近代教育制度の確立、デューイと児童中心主義	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	12	教育の思想と歴史的変遷（3）：江戸時代までの教育	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	13	教育の思想と歴史的変遷（4）：明治期における近代教育制度の成立、大正新教育運動、戦時下の教育	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	14	学校教育制度：一条校、各国の学校体系	授業終了後に「事後学習シート」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	15	まとめ：現代の教育課題	第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習：学習した内容について、「事後学習シート」などを参考にしながら整理しておく（毎回1時間程度）。 予習：次回の授業内容について、指定されたwebページを読むなどして事前に理解を深めておく（毎回1時間程度）。 ※最終レポート（自由論述型：1200字以上）作成には、さらに多くの時間が必要となる。
教科書	使用しない。適宜、資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎授業終了時に提出する小課題については、次回授業の冒頭でフィードバック（特徴的な意見の紹介、全体の傾向など）する。また最終レポートについては、授業担当者が添削し採点を付したPDFデータをMoodle上で返却することでフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。
評価の配点比率	目標①授業内小課題 30%、最終レポート 20% 目標②授業内小課題 10% 目標③授業内小課題 10% 目標④最終レポート 30%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) ■自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育の方法と技術　　授業コード：2111201　2111202

英文科目名称： Educational Methods and Techniques

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
田中　洋一			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修	講義	ナンバリング：21C102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、幼稚園教諭として幼児一人一人の特性に応じた教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用方法を身につけることである。 そのために、以下の３単元を学ぶ。(1)教育目標にもとづき、教育課程、授業目標・評価・教育方法が設計されていることを理解した上、幼児教育学科の授業を批判的に分析し、ポスターツアーで議論する。(2)７つの特色ある幼稚園（認定こども園）の入園事前説明会を行い、多様な教育理念や方法を学ぶ。(3)幼稚園における視聴覚教育の設定保育を設計し、模擬保育を実施・評価する。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、教育目標に合わせた教育方法及び評価を設計できる。	ＤＰ１	27
	目標②教育課程や指導計画等（年間計画・月案・週案・日案）を理解し、指導技術を批判的に分析できる。	ＤＰ４	27
	目標③ICT機器を活用した視聴覚教育の授業を設計・実施・評価できる。	ＤＰ５	27
	目標④保育者として、自分の考えや行動を省察できる。	ＤＰ９	19

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、到達目標と評価との関係、良い授業＆悪い授業	キャンディーを用いたグループ分け。良い授業及び悪い授業に関するグループワーク。事後学習：１年前期の授業科目について、講義概要（シラバス）、教科書、配付資料、ノート、課題等を見直す。※毎回、振り返りノートの記述。
	2	グループごとに幼児教育学科１年前期の一授業に関して課題分析	マインドフルネスの説明と呼吸瞑想。課題分析に関するグループワーク。事前学習：オープンな教育リソース（東京大学教材）を反転学習として視聴。事後学習：１つの授業に関する課題分析を行う。特に、到達目標、授業内容、教育方法を整理する。
	3	授業の分析結果に関するポスター制作	ポスターを作成するグループワーク。事後学習：授業分析ポスターを完成する。特に、到達目標、授業内容、教育方法、評価方法の関係性に注目する。その上で、授業の良い点、改善提案を説明できる。
	4	ポスターツアーを行い、授業及び分析結果に関して議論、単元１に関する振り返り	発表と質疑応答。事後学習：他のクラスも含めたポスターを閲覧した上で、単元１「幼児教育学科における授業設計」レポートの作成。
	5	資質・能力及び幼稚園教育要領の理解、テーマにもとづく入園事前説明会の設計	イラストくじを用いたグループ替え、ガチャガチャを用いたテーマ決め。色覚特性への理解。良い幼稚園及び入園事前説明会に関するグループワーク。事後学習：入園事前説明会のための調べ学習。
	6	入園事前説明会スライドの制作	入園事前説明会用のスライドを作成するグループワーク。事後学習：担当スライド及び発表原稿の完成。
	7	入園事前説明会(1)「教師と保護者としての質疑、相互評価」前半グループ	相互評価。教師と保護者としてのロールプレイング。事後学習としてスライドの修正。
	8	入園事前説明会(2)「教師と保護者としての質疑、相互評価」後半グループ	相互評価。教師と保護者としてのロールプレイング。事後学習としてスライドの修正。
	9	単元２の振り返り、グループ替え及び視聴覚教材ワーク	単元２の相互評価を閲覧し、振り返る。ジェスチャーを用いたグループ替え後、視聴覚教育に関するグループワーク。事後学習：単元２「良い幼児教育の方法」レポートの作成。

	10	視聴覚教育への理解＆幼稚園におけるICT機器の活用	視聴覚教育及びICT機器活用に関するレクチャー後、クイズ教材の作成及びクリッカーの使用。事後学習：視聴覚教育の企画。
	11	視聴覚教育としての設定保育の設計、指導案の作成	視聴覚教育の指導案を作成するグループワーク。事後学習：視聴覚教育指導案の完成。
	12	視聴覚教育としての模擬保育のリハーサル	必要な教材を作成し、模擬保育をリハーサルする。事後学習：模擬保育の練習。
	13	視聴覚教育の模擬保育（１）前半グループ	指導案の説明及び模擬保育を発表した後、検討会（※グループによりクリッカーを使用）。事前学習として発表準備、事後学習として発表内容の修正や個別指導案作成。
	14	視聴覚教育の模擬保育（２）後半グループ	指導案の説明及び模擬保育を発表した後、検討会（※グループによりクリッカーを使用）。単元３を振り返りディスカッション。事前学習として発表準備、事後学習として個別指導案の作成。
	15	単元３の振り返り、幼稚園での情報倫理ワークショップ、本授業全体の振り返り	①単元３の相互評価を閲覧し、振り返る。②情報倫理シナリオを用いた課題解決型グループワークを実施。③本授業全体を振り返りディスカッション。事後学習：単元３「ICT機器を活かした視聴覚教育」レポートの作成。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 試験に代わって、全講義終了後に、振り返りノート総まとめを提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の事後学習が必要。特に、ポスター、スライド等の制作時には多くの時間が必要となる。 また、入園事前説明会や視聴覚教育の実施に関しては、数時間の事前学習を行うことが望ましい。
教科書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『教育の方法と技術：主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』（稲垣忠、北大路書房、2019）、『イラストで読む! 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK』（無藤隆・汐見稔幸、学陽書房、2017）、『マンガでわかる！幼稚園教育要領』（浅井拓久也・トオノキョウジ、中央法規、2019）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	リンクマップ、授業分析ポスター等、紙メディアの提出物は、学習管理システム（LMS）の仁短Moodleを用いて、PDFや写真として学生へフィードバックする。単元レポートの提出や相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いて、課題モジュールのコメント機能やフィードバック・モジュールで結果を学生へフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メール（you@jin-ai.ac.jp）やMoodleメッセージで連絡すること。
評価の配点比率	目標①単元１レポート15%、単元１のまとめ5%、授業評価ポスター発表及びポスターなど単元１提出物7%. 目標②単元２レポート15%、単元２のまとめ5%、入園事前説明会発表及びスライドなど単元２提出物7%. 目標③単元３レポート15%、単元３のまとめ5%、視聴覚教育の模擬保育及び指導案など単元３提出物7%. 目標④振り返りノート（1～14回：1×14回＝14%、15回：総まとめ5%）19%として評価する。 ※幼稚園児向け教材等に対する、教育的配慮以外の「漢字の使用、わかちがきの不使用」は減点する。入園事前説明会及び視聴覚教育の設定保育において保護者等として質問すれば加点（１回：1点）する。
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては1回目のガイダンスで説明する。ケースごとに園の教諭や保護者に成りきって授業に取り組むことが望ましい。各回の最後、振り返りノートに自分の行動変容等について記述する。本科目は、コンピュータやソフトウェアの使用方法を学ぶのではなく、園児への教育の方法を学ぶことを目的としています。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している ■他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子ども家庭福祉　　授業コード： 2111301

英文科目名称： Social Welfare for Child and Family

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
小川　智枝			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A105
添付ファイル			

授業の概要	本授業では保育の基盤となる子ども家庭福祉の価値観について理解を深めることを目的とする。教科書、その他の文献講読と解説により、子ども家庭福祉従事者として子どもがもっている力を信じ、子どもと家庭を見守りながら、その権利を護ることができるやわらかなまなざしと強い使命感、ゆるぎない人権意識を身につけることの意義について考えるとともに、保育への展開過程を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。	ＤＰ１	20
	目標②子ども家庭福祉の理念を理解し、子どもの最善の利益について自分の言葉で述べることができる。	ＤＰ７	30
	目標③子ども家庭福祉の社会資源について説明できる。	ＤＰ８	20
	目標④子ども家庭福祉の現状、課題について理解し、自分の意見を述べることができる。	ＤＰ６	15
	目標⑤子ども家庭福祉の理念を具体化する保育実践について説明できる。	ＤＰ５	15
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子ども家庭福祉とは何か	事後にアウトプットノートをまとめる。
	2	保育と子ども家庭福祉	事前に教科書Ch.1を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	3	子ども家庭福祉の概念と歴史	事前に教科書Ch.3を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	4	子ども家庭福祉に関わる国の施策	事前に教科書Ch.5を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	5	子ども家庭福祉の制度と法体系	事前に教科書Ch.4 Sec.1を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	6	子ども家庭福祉を実施する行政機関	事前に教科書Ch.4 Sec.2を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	7	子ども家庭福祉の施設	事前に教科書Ch.4 Sec.3を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	8	子ども家庭福祉の専門職	事前に教科書Ch.11を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	9	子ども家庭福祉と権利擁護	事前に教科書Ch.2を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	10	子育て支援・多様な保育ニーズへの対応	事前に教科書Ch.9を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	11	子ども虐待対策	事前に教科書Ch.7を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	12	社会的養護・ひとり親家庭への支援	事前に教科書Ch.8を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	13	諸外国の動向	事前に配布資料を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。

	14	現代社会における子ども家庭福祉の課題	子ども家庭福祉の新たな課題についてグループワークを行う。事前に教科書Ch.10を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	15	子どもの最善の利益	事前に配布資料を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事前に教科書を読みキーワードをノートに書き出し、事後は学んだことをアウトプットノートにまとめる。毎回2時間程度必要。最終レポート作成には相当の時間が必要。
教科書	『みらい×子どもの福祉ブックス　子ども家庭福祉〔第2版〕』（喜多一憲監修、みらい、2024年第2版）
参考図書、教材、準備物等	適宜資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・キーワードや学んだこと等を記入したノートを作成する。ノートは毎回小課題として講義終了後に提出し、後日返却する。 ・重要なことは口頭で説明するので、しっかり聴講すること。 ・質問等がある場合は、電子メール、Moodleで連絡すること。
評価の配点比率	目標①小課題20％ 目標②小課題5％、レポート25％ 目標③小課題20％ 目標④小課題15％ 目標⑤小課題15％
受講上の注意	
教員の実務経験	保育士として保育、家庭支援に携わった経験を活かし、子ども家庭福祉の理念を具体化する保育実践について事例を挙げながら講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会福祉　　授業コード： 2111401

英文科目名称： Social Welfare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
近藤　俊英			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、児童家庭福祉はもとより、高齢、障害等の他（多）領域の専門職との連携に対応できる能力を身につけること、そして広い視野で保育現場や自分自身の保育実践を見て、自身の保育実践を振り返ることができる能力を身に着けることを目的とする。 そのため、社会福祉・社会保障制度全般の基礎的知識を身につけるとともに、事例検討を通して、子どもの立場に立った支援や困難事例での対応方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①社会福祉の制度・サービスや意義、理念等を理解し、それを他者に伝えることができる。	ＤＰ３	60
	目標②課題解決のための支援策を講じることができる。	ＤＰ６	16
	目標③支援対象者の立場に立った支援を行うとともに、支援関係機関・関係者と協働して課題解決のための結論を導き出すことができる。	ＤＰ７	16
	目標④地域で社会福祉に取り組むことの意義を理解し、地域の課題について考察する。	ＤＰ８	8
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	現代社会の動向、社会福祉の歴史的変遷、社会福祉に関する法律	・テキストのChapter１、２、３相当。 ・現代社会の状況と福祉的課題を知る。 ・社会福祉の歴史的変遷を知る。 ・社会福祉に関する法律を知る。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難しい場合には当日でもよいので申し出ること。
	2	社会福祉の実施体系・社会福祉の施設と専門職	・テキストChapter４、５相当。 ・社会福祉を実施している行政機関の組織体系、民間組織の種類、財源などを見ていく。 ・社会福祉のサービス提供を行っている施設・事業所、そこで働く専門職を見ていく。 ・保育士も社会福祉の専門職の１つであるため、保育士と連携する職種・関係機関の役割等を知る。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難しい場合には当日でもよいので申し出ること。
	3	社会福祉制度①　年金保険制度・医療保険制度	・テキストChapter６の前半（P83～89）相当。 ・社会保障制度の中心部分である社会保険制度の年金保険制度及び医療保険制度を理解する。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難し

			い場合には当日でもよいので申し出ること。
	4	社会福祉制度②　雇用保険制度・社会手当・生活保護制度	・テキストChapter６の後半（P90～99）相当。 ・雇用保険制度、社会手当、生活保護制度を詳しく見ていく。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難しい場合には当日でもよいので申し出ること。
	5	グループワーク①　年金と生活保護、どちらがお得？	・社会保障制度を一通り学んだ上で、世間で時折課題となる、「年金加入と生活保護受給、どちらが得か」を自分なりに考えてみる。 ・講義資料を一読し、自分なりの考えをまとめておく。
	6	子ども家庭福祉の法と制度	・テキストChapter７相当。子ども家庭福祉を見ていく。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難しい場合には当日でもよいので申し出ること。
	7	高齢者福祉の法と制度	・テキストChapter８（一部Chapter６（P89・90）を含む）相当。 ・介護保険制度を軸に高齢者福祉制度を見ていく。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難しい場合には当日でもよいので申し出ること。
	8	障害者福祉制度の法と制度	・テキストChapter９相当。障害者総合支援法を軸に障害者福祉制度を見ていく。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難しい場合には当日でもよいので申し出ること。
	9	グループワーク②　今後の日本の課題について。最も優先して解決すべきことは何？	・テキストChapter12を踏まえて、日本の今後の課題について、最も優先して取り組んでいくべき課題は何かを話し合う。 ・テキストChapter12と講義資料を一読し、自分なりの考えをまとめておく。
	10	社会福祉とソーシャルワーク	・テキストChapter１０相当。ソーシャルワークの展開過程など、対人援助の基本的な進め方について学ぶ。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難しい場合には当日でもよいので申し出ること。
	11	福祉サービスの利用支援と権利擁護	・テキストChapter１１相当。福祉サービスの利用を保障・支援する制度や権利擁護のシステムについて学ぶ。 ・テキストの該当部分や講義資料を一読し、予習用小テストに取り組む。授業後、課題（小テスト）に取り組むことで知識が定着する。 ・授業中に課題をQRコードにて提示するため、スマートフォンやタブレット等を持参すること。持参が難しい場合には当日でもよいので申し出ること。
	12	虐待について	・児童虐待を中心に、虐待が起こる要因と思われる事柄、福祉専門職・対人援助の専門職としての心構え、権利意識等について学ぶ。 ・講義資料を一読し、moodleの予習・復習用小テストに取り組む。授業後、再度予習・復習用小テストに取り組むことで知識がより定着する。 ・実習先での状況などを振り返り、自分ならどう対応するか、どう対応するとよいのかを考えてみる。
	13	グループワーク③　要望・不適切な対応・虐待の線引き	・現場で起こりがちな状況について、自分ならどう対応するかを話し合う。 ・講義資料や１２回目の授業の講義資料、これまでの授業内容等を参考に、自分なりの考えをまとめておく。
	14	ロールプレイ・グループワーク　傾聴について	・相談者の話を聴くこと、話を引き出していくことを体験する。 ・ロールプレイを通して、傾聴の方法・コツを話し合う。 ・ロールプレイやグループワークを通して、自分なりの考えをまとめる。

	15	ロールプレイ・グループワーク　不適切な対応？	・子ども家庭福祉の現場での一場面をロールプレイを通して疑似体験する。 ・ロールプレイを通して感じたこと、考えたことをグループワークで話し合う。 ・ロールプレイやグループワークを通して、自分なりの考えをまとめる。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	自主学習に取り組む（3～4時間程度）。 事前学習：テキスト、講義資料を一読する。 事後学習：授業内容の振り返りとして、課題（小テスト）に取り組む。
教科書	教科書：みらい✕子どもの福祉ブックス　社会福祉[第2版]／株式会社みらい（2024年）
参考図書、教材、準備物等	教　　材：毎回、毎回レジュメを配布。同じ資料を仁短moodleに掲載。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・授業の進め方等に関しては初回のガイダンスで説明する。 ・各授業中に課す課題により成績評価を行う。 ・質問がある場合は授業中もしくは仁短moodleにある質問コーナー、Gmail等で質問すること。
評価の配点比率	目標①１・２・３・４・６・７・８・１０・１１・１２回目の授業後の課題（小テスト）各６％、計６０％ 目標②５回目の授業課題　８％、１３回目の授業課題　８％、計１６％ 目標③１４回目の授業課題　８％、１５回目の授業課題　８％、計１６％ 目標④９回目の授業課題　８％
受講上の注意	社会福祉や社会保障は小難しい、取っつきにくい分野ですが、就職して社会に出る皆さんにとっては必須の事柄です。生活の知恵を身につける意味でも興味を持って取り組んでください。
教員の実務経験	高齢、障害、児童（スクールソーシャルワーカー）、専門職後見人など、福祉の各分野での実践経験を持つ教員が、福祉実践現場の実情を交えながら講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子ども家庭支援論　　授業コード： 2111501

英文科目名称： Child and Family Support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
小川　智枝			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子育て家庭に対する理解を深めるとともに、支援の意義や保育の専門性を活かした支援の方法について考察することである。子どもの発達にとって基礎的な環境（集団）のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方は、核家族化や少子高齢化などの社会のさまざまな影響を受け大きく変化している。同時に、地域や家庭での子育てを支援する形態も多様に展開されている。保育者には、そのような家庭への理解に基づいた支援が求められる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、説明できる。	ＤＰ６	15
	目標②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。	ＤＰ２	20
	目標③子育て家庭に対する支援の体制について理解し、社会資源を活用できる。	ＤＰ５	15
	目標④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について述べることができる。	ＤＰ３	20
	目標⑤子どもの生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの最善の利益を尊重した柔軟な支援を行っていける。	ＤＰ７	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子ども家庭支援の意義と必要性	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	2	子ども家庭支援の目的と機能	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	6	子どもの育ちの喜びと共有	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	7	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	8	保育者に求められる基本的態度	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	9	家庭の状況に応じた支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	10	子ども家庭支援の内容と対象	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	11	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	12	地域の子育て家庭への支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	13	要保護児童等及びその家庭に対する支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	14	事例検討	保育所における子育て支援計画作成のグループワーク。各グループで作成した支援計画についてディスカッションを行う。事後学習：テーマについてのワークシート作成
	15	子育て支援に関する課題と展望	事後学習：テーマについてのワークシートとまとめのレポート作成

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事後にワークシートを作成する。毎回2時間程度必要。レポート作成には相当な時間が必要。
教科書	『新基本保育シリーズ⑤　子ども家庭支援論』（松原康雄他編、中央法規出版、2023第2版）
参考図書、教材、準備物等	改定『保育者の関わりの理論と実践　保育の専門性に基づいて』（高山静子、郁洋舎、2021） 『子ども家庭支援論』（守巧編著、萌文書林、2021）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・「子ども家庭福祉」の復習をしておく。 ・講義内容、質問、考察を記入したワークシートを毎回作成する。シートは全授業終了後返却する。 ・質問等がある場合は、電子メールやMoodleにて連絡すること。
評価の配点比率	目標①ワークシート15%（5%×3） 目標②ワークシート20%（5%×4） 目標③ワークシート15%（5%×1、10%×１） 目標④レポート20% 目標⑤ワークシート30%（5%×6）
受講上の注意	
教員の実務経験	保育士として保育、家庭支援に携わった経験に基づき、保育の専門性を活かした子ども家庭支援について実例を挙げながら講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会的養護Ⅰ　　授業コード： 2111601

英文科目名称： Social Nursing Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	２単位	選択
担当教員			
谷口　和正			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A106
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会的養護とは何かを知り、地域や支援者が子育てに果たすべき役割を主体的に考察することである。 社会的養護の意義、理念、歴史、制度、対象、関係する専門職や社会資源等を概観することを通して、社会全体で子どもを育むことや、権利擁護の視点に基づいた養育の大切さを学ぶ。 また、社会的養護の現場で実際にどのような支援を実践しているのかを知り、専門職として（又は社会の一員として）子どもや家庭を取り巻く虐待や貧困などの諸問題にどのように関わっていくことができるかを考える。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①社会的養護とは何か、その意義や理念、歴史、社会的養護制度の現状と課題を知ることができる。	ＤＰ１	30
	目標②社会全体で子どもを育むこと、また子どもの権利擁護の視点から、社会的養護にかかわる様々な専門職（支援者）や地域の社会資源の役割や責務を知ることができる。	ＤＰ３	30
	目標③現代社会における子どもや家庭を取り巻く諸問題に対して、自分はどのように関わっていくことができるのかを考えることができる。	ＤＰ６	40
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	社会的養護とは何か	◆補足説明・・・テキストのChapter1－Section1に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	2	基本理念や現状	◆補足説明・・・テキストのChapter1－Section2・3に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	3	社会的養護の歴史	◆補足説明・・・テキストのChapter2に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	4	子どもの権利擁護	◆補足説明・・・テキストのChapter2と3に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ■討議（ディスカッション、ディベート）・・・子どもの権利に関するディスカッションを行う

			◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	5	社会的養護の体系と実践	◆補足説明・・・テキストのChapter3と4に対応。社会的養護の基本理念、意義、歴史、現状、子どもの権利擁護に関するレポート課題〔１〕を提示する。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	6	社会的養護の体系と実践（続き） 乳児院	◆補足説明・・・テキストのChapter4と、5－Section1に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	7	母子生活支援施設 児童養護施設	◆補足説明・・・テキストのChapter5－Section2・3に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	8	児童養護施設（続き） 児童心理治療施設	◆補足説明・・・テキストのChapter5－Section3・4に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	9	児童自立支援施設 自立援助ホーム	◆補足説明・・・テキストのChapter5－Section5・6に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	10	児童家庭支援センター 社会的養護とソーシャルワーク	◆補足説明・・・テキストのChapter5－Section7と、Chapter9－Section1～4に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	11	家庭養護	◆補足説明・・・テキストのChapter6に対応。施設養護の実施体系や支援の実際に関するレポート課題〔２〕を提示する。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	12	家庭養護（続き）	◆補足説明・・・テキストのChapter6に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	13	障害系施設	◆補足説明・・・テキストのChapter7に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	14	専門職・専門機関と倫理 社会的養護とソーシャルワーク（続き） 施設の運営管理	◆補足説明・・・テキストのChapter8－Section1と、Chapter9－Section5・6、およびChapter10－Section1に対応。 ◆事前の自主学習・・・該当箇所(上記)のインプットノートおよび該当ページを読む。 ◆事後の自主学習・・・テキストや配布資料に目を通

			し、復習する。疑問点は調べる（わからなければ次回の授業で質問する）。宿題がある場合はそれに取り組む。
	15	施設の運営管理（続き） 社会的養護へのおもいと人財	◆補足説明・・・テキストのChapter8－Section2～4、Chapter10－Section2、まとめと今後の展望。これまで学んできた子どもや家庭を取り巻く現状と社会的養護の内容全体を振り返って、気づいたことや考えたことに関するレポート課題〔３〕を提示する。 ◆事前の自主学習・・・テキスト各章のアウトプットノートおよびこれまでの配布資料に、再度目を通す。 ◆事後の自主学習・・・「調べた情報を整理してまとめる力」「（集めた情報をもとに）自分の考えを分かりやすく他者に表現する力」を意識して、レポートを仕上げる。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習：毎回2時間程度。テキストや授業中に配布する資料を再読するとともに、テキストの「学びを振り返るアウトプットノート」を中心に学習した内容を整理する。 予習：毎回2時間程度。テキストの「イメージをつかむインプットノート」及び該当頁を読み込み、概要を把握する。
教科書	喜多一憲監修・堀場純矢編集『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅰ』第2版（みらい、2025）
参考図書、教材、準備物等	『児童養護施設で暮らすということ　子どもたちと紡ぐ物語』（楢原真也著、2021、日本評論社） 『岩波ブックレット625　新・子どもの虐待』（森田ゆり著、2004→2019第13刷、岩波書店） 『ちいさいひと　青葉児童相談所物語（1巻～6巻）』『新・ちいさいひと　青葉児童相談所物語（1巻～14巻）』（夾竹桃ジン作、2011年～2024年、小学館） その他、授業時に必要に応じて新聞記事やパンフレット等の補助資料を配布・回覧・展示する。準備物は特になし。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については第１回の講義時に説明する。レポートの作成方法等についても最初の課題提示時に説明する。レポートは年度末に返却する。 毎回のミニ感想文に寄せられた質問等については、次の講義の初めに回答・共有し、必要に応じて以後の講義内容に反映させる（ミニ感想文の方は基本的には返却しないが、返却希望者にのみ年度末にまとめて返却する）。
評価の配点比率	目標①レポート〔1〕30%、　目標②レポート〔2〕30%、　目標③レポート〔3〕40%
受講上の注意	補助資料やミニワークを取り入れることで、できるだけ自分たちに身近な問題として具体的に捉えられるような学びを提供していく。この分野に興味があり、さらに深く学びたい学生は、関連書籍やHPに目を通したり、学生も参加可能な研修会や学会、施設見学やボランティア等に積極的に参加することを勧める（講義の中で随時紹介予定）。本講義が、私たちの身近にある社会問題としての児童虐待や子どもの貧困等への関心を喚起し、将来の社会的養護の担い手を育むことを期待する。
教員の実務経験	児童家庭支援センターや、児童養護施設での経験や、法人役員として支援に携わった経験を活かし、社会的養護の現状や課題について具体例を挙げながら解説する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育心理学　　授業コード： 2111801

英文科目名称： Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
乙部　貴幸			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、各発達段階の運動、言語、認知、社会性等の発達的な変化とその特徴をこれまでの研究や代表的な理論を通じて理解する。また、学習の基本的原理や学習に影響を及ぼす諸要因を従来の代表的研究を基に理解し、それらを踏まえた学習を支える具体的な指導に関する基礎的な考え方を理解する。このため、講義動画を中心としながら、レポート課題によって自ら考える機会を持ちながら授業を進めていく。なお、この授業はMoodleを利用した遠隔授業であるため、出席は毎回の課題をMoodle上で提出することで確認する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。	ＤＰ２	50
	②幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習活動を支える指導について基礎的な考え方を理解する。	ＤＰ２	50
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第１回	発達・学習の過程を理解することの意義	授業冒頭にオリエンテーションを実施する。
	第２回	新生児期・乳児期における心身の発達的変化	原則として毎回小テストを実施する。小テストを受験することにより出席したこととする。
	第３回	幼児期における心身の発達的変化	
	第４回	児童期における心身の発達的変化	
	第５回	青年期以降における心身の発達的変化	
	第６回	発達の過程と規程因	
	第７回	発達の諸理論	レポート課題を提示する。
	第８回	定型発達と各種障害、グレーゾーン	
	第９回	学習の基本的原理	
	第10回	注意・記憶と学習方略	
	第11回	動機づけと原因帰属	
	第12回	教育・保育における学習援助の設計	
	第13回	学級集団の特性と人間関係	
	第14回	教育・保育の評価	
	第15回	教育・保育における統計	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回４時間程度の授業外学習の時間を持つことを前提として小テスト、レポート課題を実施し、評価する。
教科書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018） その他、適宜資料を配布する。

参考図書、教材、準備物等	『ガイドライン学校教育心理学―教師としての資質を育む―』（大野木裕明・二宮克美ほか5名、ナカニシヤ出版、2016） 『実践につながる教育心理学』（櫻井茂男監修、黒田裕二編著、北樹出版、2012）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	Moodle上で毎回の課題および期末試験の得点をフィードバックします。
評価の配点比率	毎回の課題:70%（目標①：35%、目標②：35%） 期末レポート：30%（目標①：15%、目標②：15%）
受講上の注意	大人にとっての「当たり前」は、子どもにとってもそうだとは限りません。発達と学習に応じて変化していく「子どもたちにとっての当たり前」を理解できるように学んでください。なお、やむを得ない理由で欠席した場合は、担当教員にその旨を伝えてください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもの健康と安全　　授業コード：2111901　2111902

英文科目名称： Health and Safety Management for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
川端　起代美			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育士として不可欠である子どもの健康及び安全を守るための具体的な知識や技能等を身につけることである。子どもの成長発達や日常生活の養護、安全な環境整備、衛生管理、感染症対策、健康安全教育、災害対策支援等に必要な知識や技術を講義、演習を通して学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①保育における保健的観点をふまえた保育環境や援助について理解する。	ＤＰ１	10
	目標②関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、子どもの発達や状態について理解し、適切な対応ができる。	ＤＰ３	60
	目標③子どもの体調不良、けが、事故、災害等の救急時に、子どもの発達、状況に応じて適切な対応ができるように理解し、実践力をつける。	ＤＰ２	10
	目標④子どもの健康及び安全管理に関わる、組織的取り組みや健康安全教育、保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。	ＤＰ５	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子どもの健康と安全の目的・ねらい	授業科目の課題と学習内容について理解する。 第１章　子どもの健康と安全 受講後確認テスト提出
	2	子どもの成長発達と健康・保育の環境	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第２章　子どもの健康と発育 受講後確認テスト提出
	3	子どもの日常生活の養護（生活環境、栄養、排泄、睡眠）	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第３章　子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ 受講後確認テスト提出
	4	子どもの事故とその予防	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第４章　子どもの事故とその予防 受講後確認テスト提出
	5	子どもに多い病状・病気とその対処および予防①	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第５章　子どもに多い病状･病気とその対処および予防① 感染症対策、小児特有の病気について 受講後確認テスト提出
	6	子どもに多い病状・病気とその対処および予防②	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第５章　子どもに多い病状･病気とその対処および予防② 予防接種について、アレルギー疾患、急性・慢性疾患の理解と対処について 受講後確認テスト提出
	7	障害をもつ子どもと家族へのかかわり方	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第６章　障害をもつ子どもと家族への関わり方

	7		受講確認テスト提出
	8	児童虐待	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第７章　児童虐待 受講後確認テスト提出
	9	災害の影響から子どもをできるだけ守る	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第８章　災害の影響から子どもをできるだけ守る 受講後確認テスト提出
	10	地域との連携・協働	教科書に沿っての学習　　教科書にて講義内容の予習 第９章　地域との連携･協働 受講後確認テスト提出
	11	おんぶ・抱っこの実習	保育の技術の習得　　教科書にて講義内容の予習 抱っこ･おんぶのメリット、デメリットについて 抱っこ紐を使い実際に抱っこ、おんぶの実習 受講後確認テスト提出
	12	沐浴実習	保育の技術の習得　　教科書にて講義内容の予習 沐浴手順について　人形を使い実際に沐浴を実施　着替え、おむつのあて方実習 受講後確認テスト提出
	13	女性の体	女性の体、妊娠・子育てについての講義　自分の体を知る　”いのち”について学ぶ 受講後確認テスト提出
	14	子どもの発達のまとめ	子どもの発達についてのまとめの講義 ３歳未満児との関わり方について 受講後確認テスト提出
	15	『子どもの健康と安全』のまとめ　応急処置の実習	学習内容の復習 今までの講義資料の整理、見直し 三角巾、包帯を使い、応急処置の仕方を学ぶ 「救急箱の必要物品、非常持ち出し袋内容、災害時の行動」についてグループワーク

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事前学習として教科書で予習しておく（毎回１時間程度）。
教科書	「子どもの健康と安全」　改訂第2版　大西文子　中山書店　2022/11
参考図書、教材、準備物等	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	教科書を基に授業を進めていく。保育の実技に関しては実習を行い実践できるように学習していく。 プリントとスライドで講義をすすめていく。質問等は、講義終了時に個別対応していく。
評価の配点比率	目標①　課題レポート、定期試験　10% 目標②　課題レポート、定期試験　60% 目標③　実技、実習　　10% 目標④　課題レポート、定期試験　20%
受講上の注意	講義と実習を取り入れながら、子どもの成長・発達、関わり方を学び、保育現場で的確な行動が取れるように、専門知識を身につけること。
教員の実務経験	助産師、妊産婦・新生児訪問指導員等、常に子育て中の保護者と関わることが多い経験を活かし、主に乳幼児の発達段階に応じての関わり方について教授し、実際に保育士としての乳幼児、保護者への対応、育児法や実践法について指導する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもの食と栄養Ⅰ　　授業コード：2112001　2112002

英文科目名称： Nutrition for Children Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
木内　貴子			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21B103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、食生活を含む生活習慣が乳幼児期に形成され、生涯にわたる基盤となることを理解し、保育者に求められる子どもの栄養や食生活に関する基本的な知識を習得することである。食事をおいしく、楽しく食べることは、心も体も健康に育つ上での基本となる。授業では子どもを取り巻く食生活の現状、栄養や食品の基礎知識、発育・発達する子どもの体の生理と食の関係について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①保育者に求められる栄養や食品の基礎知識を習得し、活用できる。	ＤＰ２	20
	目標②調理実習を通して、子どもの気持ちに寄り添った食事について考えを深める。	ＤＰ３	10
	目標③子どもの発育・発達に応じた食行動を理解し、段階に応じた援助・指導ができる。	ＤＰ４	30
	目標④子どもの食生活上の課題について学び、その解決法について的確に判断し、わかりやすく伝えることができる。	ＤＰ６	30
	目標⑤保育士として、自分にとって望ましい食事について振り返り、健康と食事の関係について考えることができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、子どもの発達と健康	授業の取り組み方の説明、子どもの栄養と食生活の意義 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：成長期にある子どもの栄養の特徴についてまとめる(目標③) ※各回の事後学習に記載された目標番号は、授業の到達目標および評価に対応した番号です。
	2	子どもを取り巻く食環境（食生活）	子どもの食生活の現状と課題（食生活） 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：さまざまな「こ」食とその問題点についてまとめる(目標④)
	3	子どもを取り巻く食環境（安全）	子どもの食生活の現状と課題（安全） 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：食の安全性について自分の考えをまとめる(目標④)
	4	子どもの発育・発達	成長発達の基本的な考え方、発育と栄養状態のアセスメント、発育・発達のリズム、発育曲線、体格指数について 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：体格指数の算出ができるようにする(目標③)
	5	食べる機能と消化吸収機能の発達と栄養	食べ方の発達、栄養の生理 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：消化器系の働きについて整理する(目標③)
	6	栄養素の種類と基礎（糖質、脂質、たんぱく質）	３大栄養素の働き、その食品と栄養的特徴 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：３大栄養素の働きと特徴についてまとめる（目標①）
	7	栄養素の種類と基礎（ビタミン、ミネラル）	ビタミン・ミネラルの働き、その食品と栄養的特徴 事前学習：範囲の教科書を読む

	7		事後学習：ビタミン、ミネラルの働きと特徴についてまとめる(目標①)
	8	虫歯予防と歯の栄養	歯と栄養について情報収集とまとめ、発表（グループワーク） 事前学習：虫歯予防と食についての情報収集 事後学習：発表の振り返り(目標③)
	9	バランスの良い食事の実践	「日本人の食事摂取基準」「食品群」「食事バランスガイド」 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：食品群の特徴をまとめる(目標③④)
	10	望ましい献立と調理の基本	献立の考え方と基本的な調理の方法 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：手順に沿って自分の１日分の献立を作成する(目標④⑤)
	11	食事の衛生管理と安全管理	調理上の衛生・清潔、災害時の食事 事前学習：子どもの食事づくりにおける衛生管理について調べる 事後学習：保育所における備蓄についてまとめる(目標④)
	12	調理実習（野菜を食べよう）	12・13回の2回の授業を使用して調理実習 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ） 事後学習：実習報告書の作成(目標②)
	13	調理実習（野菜を食べよう）	12・13回の2回の授業を使用して調理実習 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ） 事後学習：実習報告書の作成(目標②)
	14	献立・料理の実践と評価	弁当作成と献立の評価、改善案の発表（グループワーク） 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：発表の振り返り（目標⑤）
	15	世界の子どもの食生活	栄養不足と過剰栄養 事前学習：世界の食と食文化について調べる 事後学習：栄養の二重負荷についてまとめる（目標④）

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前・事後学習を要します。事前学習では教科書の予定範囲部分を読んでおきましょう。事後学習で授業内容をノートにまとめるようにしましょう。
教科書	岩田章子 寺嶋昌代 編　「新・子どもの食と栄養」出版社（㈱みらい　2025）
参考図書、教材、準備物等	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）その他適宜案内します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組みについては第１回のガイダンスで詳しく説明します。提出物は期日厳守とします。課題の内容が十分でない場合は再提出となることがあります。
評価の配点比率	期末定期試験45%　事後学習での課題取り組み40%　グループワーク活動10%　調理実習5% 目標①期末定期試験15%　課題5% 目標②調理実習5%　課題5% 目標③期末定期試験15%　課題15% 目標④期末定期試験15%　課題15% 目標⑤グループワーク10%
受講上の注意	この授業を通して、栄養の基礎知識をしっかり身に付け、保育者として子どもに寄り添い、子どもが食事を楽しめるような支援ができるようになることを目指しましょう。グループワークに備え、下調べ、情報収集をしましょう。調理実習ではアクセサリーやマニュキュアを取る、清潔なエプロンを着用するなど身なりを整え、衛生管理に努めましょう。また、けがのないように注意しましょう。
教員の実務経験	保育園において栄養士経験がある教員が、現代の子どもの食を取り巻く環境をふまえ、適正な食習慣を支援するための食について講義し、実践的な演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育課程総論　　授業コード：2112101　2112102

英文科目名称： Theory of Curriculum for Early Childhood Care and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	必修
担当教員			
川崎　恵理			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育の基本について理解するとともに、全体的な計画（教育課程）と指導計画の関係や編成・作成方法を理解することである。幼児教育現場(幼稚園・保育所・認定こども園)の保育は、計画－実施－反省・評価－改善という循環を積み重ねることにより、保育の質を向上させている。この授業では、「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み進めながら、保育の基本について、全体的な計画（教育課程）と指導計画の意義やカリキュラム・マネジメントの重要性などについて学ぶ。 また、毎回ランダムにグループ設定を行い、与えられた課題についてグループワークを行う。場合によっては、発表する時間を設けることもある。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに乳幼児期の教育・保育についての基本的な考え方を説明することができる。	ＤＰ１	62
	目標② 全体的な計画（教育課程）及び指導計画の意義や役割、作成・編成の方法等について説明することができる。	ＤＰ５	14
	目標③計画－実施－反省・評価－改善の過程やカリキュラム・マネジメントの重要性について説明することができる。	ＤＰ５	14
	目標④部分実習の指導案を作成することができる。	ＤＰ５	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育・保育をめぐる動向	これまでの教育・保育についての歴史及び、子どもの人権、児童生徒性暴力等の防止等に関する法律を含めた最近の動向について学ぶ。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	2	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の成立・改訂の変遷並びにその社会的背景	事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	3	乳幼児期の教育・保育の基本①（環境を通して行う教育・保育）	事前に、「幼稚園教育要領解説：環境を通して行う教育」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	4	乳幼児期の教育・保育の基本②（乳幼児期にふさわしい生活の展開・遊びを通しての総合的な指導）	事前に、「幼稚園教育要領解説：幼児期にふさわしい生活の展開・遊びを通しての総合的な指導」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	5	乳幼児期の教育・保育の基本③（一人一人の発達の特性に応じた指導）	事前に、「幼稚園教育要領解説：一人一人の発達の特性に応じた指導」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。

	6	乳幼児期の教育・保育の基本④（計画的な環境の構成・教師の役割）	事前に、「幼稚園教育要領解説：計画的な環境の構成・教師の役割」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。 課題①　第3回～第6回の授業内容に関するレポート
	7	乳幼児期の教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	事前に、「幼稚園教育要領解説：幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	8	ねらい及び内容の考え方と領域の編成	事前に、「幼稚園教育要領解説：第2章ねらい及び内容」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	9	教育課程の役割と編成等	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	10	教育課程・全体的な計画と指導計画の考え方	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。 課題②　第9回～第10回の授業内容に関するレポート
	11	環境の構成と保育の展開	事前に、「幼稚園教育要領解説：環境の構成と保育の展開」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	12	教育課程から指導計画・指導計画作成練習	事前に、「保育指導案の書き方ガイドブック」を熟考し、理解を深めておく。 事後に、指導計画について学んだことと、実際に書き始めてみて難しいと感じたところやさらに理解を深めたいことをMoodleにて提出。
	13	指導計画作成（演習）	事前に、附属幼稚園から与えられた活動について調べ、どのように展開するかについて考えておく。 事後に、指導計画について理解が十分でないことをMoodleにて提出。さらに、「保育指導案の書き方ガイドブック」等を参考にして解決を図る。 課題③　附属幼稚園実習の指導案作成
	14	幼児理解に基づいた評価の実施・教育課程の改善と学校評価等	事前に、「幼稚園教育要領解説」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。
	15	保育所及び幼保連携型認定こども園における評価	事前に、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをMoodleにて提出。 課題④　第12回～第15回の授業内容に関するレポート

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、事前学習１時間程度、事後学習１時間程度が必要。さらに、附属幼稚園実習の指導案作成には多くの時間が必要となる。
教科書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、2018、フレーベル館） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、2018、フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2018、フレーベル館）
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題①②④は、授業の内容について自分の考えをまとめ、記入する（添削後、返却し、授業にて解説） 課題③は、添削し、返却、または、場合によっては修正が必要となる
評価の配点比率	目標①　試験期間中の試験 30%、課題① 10%、毎回（11回分）の記録　22% 目標②　第9,10回の記録 4%、課題② 10% 目標③　第14,15回の記録 4%、課題④ 10% 目標④　課題③ 10%

受講上の注意	提出物は期限を守ること。提出物の遅れについては減点対象となる。
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、「計画（P）－実施（D）－評価（C）－改善（A）」の過程、教育課程（全体的な計画）と指導計画の関係性などについて、具体例を挙げながら授業を行うとともに、附属幼稚園実習の指導計画を作成できるよう指導を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育内容指導法（健康）　　授業コード：2112201　2112202

英文科目名称： Teaching Method of Childcare Contents (Health)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
江端　佳代			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針等の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いを理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識や技術を身に付ける。特に、乳幼児期の発育発達の過程などの特徴を理解し、具体的な指導の場面を想定して、保育の構想や指導方法を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解できる。	ＤＰ１	30
	目標②乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	ＤＰ４	30
	目標③指導案の構造について理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。	ＤＰ５	20
	目標④「健康」において幼児が経験し身に付いていく内容と小学校教育の関連について説明できる。	ＤＰ３	10
	目標⑤お互いにコミュニケーションをとりながら、協力して保育の構想、模擬保育を行うことができる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（教育・保育における「健康」とは）	自分自身の健康について、考察する。授業後は「振り返りシート」を記入し、子どもの身近なモデルになることを意識し、自己の向上に努めていくようにする。
	2	子どもの「健康」をめぐる現状と課題　（『幼児期運動指針』の理解）	『幼児期運動指針』を事前に読み、問題点や課題について自分なりに考えをまとめておく。授業では、問題点や課題についてディスカッションを行う。授業後、教科書第3章を読み、園や保育者の役割についてレポートにまとめ、整理しておく。
	3	子どもの育ちと領域「健康」（心と体の健康について）	教科書第2章を事前に読み、体の発達や運動の発達についてまとめておく。授業後、教科書を再度読み返し、教科書の写真や図などで発達についてレポートにまとめ、整理しておく。
	4	幼児教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容、内容の取扱いの理解①（３歳未満児）	事前に『幼稚園教育要領解説』（幼稚園教育の基本）と『保育所保育指針解説』「健康」のねらい、内容を読んでおく。授業後、再度読み返し、ポイントなどまとめ、教科書の事例等で確認する。
	5	領域「健康」のねらい及び内容、内容の取扱いの理解②（３歳以上児）	事前に『幼稚園教育要領解説』「健康」のねらい、内容を読んでおく。授業後、再度読み返し、ポイントなどまとめ、教科書の事例等で確認する。
	6	園生活と生活習慣　-基本的な生活習慣の理解-	教科書第5章の事例から、生活習慣を育んでいくための保育者の関わりについてグループワークを行う。授業後は、再度教科書の事例を読み、保育者の援助のポイントをまとめておく。
	7	食事や排泄、生活など基本的生活習慣①（情報機器及び教材を活用した保育の構想）	第6回の授業を活かしながら、基本的な生活習慣、食育、安全のいずれかでグループでテーマを決め、教材を作成する。幼児に実際に指導するつもりで教材作成を行うこと。授業後、自分たちで考えたテーマに向け

			て、幼児に身に付けたいものを文献や教科書で検証し整理しておく。
	8	食事や排泄、生活など基本的生活習慣②（情報機器及び教材を活用した保育の構想）	グループで決めたテーマに沿って、教材を作成する。幼児に実際に指導するつもりで教材作成を行うこと。また、次回の発表のために、各グループで練習しておく。
	9	食事や排泄、生活など基本的生活習慣③　-グループ発表-（模擬保育と振り返りによる保育の改善）	グループで発表できるように、教材を仕上げ、練習して授業に臨むこと。グループでの発表後、検討会を行い、グループで修正・改善をし、実習などに活かすことができるようにする。
	10	食事や排泄、生活など基本的生活習慣④　-グループ発表-（模擬保育と振り返りによる保育の改善）	グループで発表できるように、教材を仕上げ、練習して授業に臨むこと。グループでの発表後、検討会を行い、グループで修正・改善をし、実習などに活かすことができるようにする。
	11	食事や排泄、生活など基本的生活習慣⑤　（模擬保育を通して、課題を探る）	グループ発表の総括を行う。乳幼児期に身に付けたい生活習慣とは何か、生活習慣の身に付け方とポイントについて、グループワークを行う。他のグループの発表や検討会を通して、グループでポスターを作成し、発表する。授業後、教材作成や発表、ポスター作成を通して、基本的な生活習慣を身に付けるために留意することや保育者の援助のあり方など、確認し、まとめておく。
	12	運動遊びを中心とした指導計画の立案	指導案について理解し、各自指導案を作成する。授業後は、指導案を作成する意義や内容について整理し、附属幼稚園実習に活かすようにする。
	13	運動遊びの実際と評価①（模擬保育と振り返りによる保育の改善-鬼遊び・ルールのある遊び）	各自作成した指導案を、実習のグループ毎で検討し、模擬保育を行う。事前学習として、実習配属年齢の発達について資料を読み、理解し、発表の準備をしておくこと。また、事後学習として発表内容を修正し、附属幼稚園実習に活かす。
	14	運動遊びの実際と評価②（模擬保育と振り返りによる保育の改善-ボールやフープなどを利用した遊び）	各自作成した指導案を、実習のグループ毎で検討をし、模擬保育を行う。事前学習として、実習配属年齢の発達について資料を読み、理解し、発表の準備をしておくこと。また、事後学習として発表内容を修正し、附属幼稚園実習に活かす。
	15	領域「健康」に関する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育とのつながり	授業全体の振り返りのディスカッションを行うとともに、確認テスト実施する。最後に、授業全体としてのレポート課題を提示する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事前事後学習を必要とする。特に、指導案の作成や指導に必要な教材作成においては、各自入念に準備をすること。また、模擬保育やグループ発表の前には、練習時間が必要となる。
教科書	新訂『事例で学ぶ保育内容　領域　健康』（無藤隆監修、萌文書林、2018） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリントを配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第１回目のオリエンテーションで説明する。実際の保育の場をイメージして、授業に取り組むことが望ましい。各回の最後に学習したことを記述し、提出する。作成した指導案、教材など学習した足跡としてポートフォリオにまとめ、いつでも振り返りができるようにしておく。ポートフォリオやレポート課題は添削、講評し、返却する。なお、質問などある場合は電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標①　確認テスト30% 目標②　全講義終了後の課題レポート20% ポートフォリオ作成10% 目標③　運動遊び指導案作成10% 模擬保育10% 目標④　授業後の小課題レポート10% 目標⑤　基本的な生活習慣の指導または安全指導のグループ発表10%
受講上の注意	自分自身の生活リズムや健康について意識しながら、学んでいきましょう
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、乳幼児への関わりや援助のあり方について、具体的な事例を挙げながら講義を行う。また、「計画（P）-実践（C)-評価（C)-改善（A)」の過程や保育の構成について、模擬授業等を通して演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育内容指導法（人間関係）　　授業コード：2112301　2112302

英文科目名称： Teaching Method of Childcare Contents(Personal Relations)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
江端　佳代			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C502
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、幼稚園教育要領及び保育所保育指針等領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解し、他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な知識や技術を身に付ける。特に乳幼児期の社会的な発達の過程を理解し、具体的な姿を想定して、保育の構想や指導方法を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解できる。	ＤＰ１	30
	目標②乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	ＤＰ４	30
	目標③乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育の構想に活用することができる。	ＤＰ５	20
	目標④幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教育等とのつながりについて理解できる。	ＤＰ３	10
	目標⑤お互いにコミュニケーションをとりながら、協力して保育の構想、模擬保育を行うことができる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（教育・保育における「人間関係」とは」	毎回配布する資料はファイルに綴じておく。授業後は幼児の身近なモデルになることを意識し、自己の向上に努めていくようにする。授業後は「学習プリント」などを参考にしながら、課題を提出する。
	2	現代の保育の課題と領域「人間関係」	問題提起の資料を前の授業で配布するので、自分なりに課題について考えをまとめておく。問題点や課題についてディスカッションを行う。授業後は、資料・教科書第8章で振り返り、復習し、整理しておく。
	3	領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて①（３歳未満児）	事前に『保育所保育指針解説』「人間関係」のねらい、内容を読んでおく。授業後はワークシートにて授業の振り返りを行い、整理しておく。
	4	領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて②（３歳以上児）	事前に『幼稚園教育要領解説』「人間関係」のねらい、内容を読んでおく。授業後は、ワークシートにて授業の振り返りを行い、整理しておく。
	5	乳幼児と保育者との関わり①（信頼関係を形成する環境や関わり）	0,1,2歳児を意識した手袋人形の教材を作成する。手袋人形作成については、発表に向けて各自製作しておく。 授業後は、授業中に作成したワークシートや教科書第3章の事例を読み返し、発達について復習する。
	6	乳幼児と保育者との関わり②（自己主張から自立に向かう保育者の援助や関わり）	教科書第3章を事前に読んでおく。教科書の事例を検証しながら、「依存と自立」についてグループワークを行う。授業後は、授業中に作成したワークシートや教科書第3章の事例を読み返し、保育者の援助や関わりについて復習する。
		遊びのなかの人との関わり（協同的な遊びを通して育まれること）	事前に教科書第6章や『幼稚園教育要領解説』「人間関

	7		係」の内容の取扱いを読んでおく。教科書の事例を通して、協同的な活動の中での育ちや学びについて、グループワークを行う。授業後は、ワークシートにて授業の振り返りを行い、「協同性」について整理しておく。
	8	協同的な活動の展開①（ごっこ遊びのための情報機器及び教材を活用した保育の構成と指導案作成）	クラスでどのようなごっこ遊びを行うか検討するとともに、グループで保育指導案作成を行う。授業後、指導案作成を通して、保育のねらいや保育者の援助や配慮などについて、復習し、整理しておく。
	9	協同的な活動の展開②（ごっこ遊びのための情報機器及び教材を活用した保育の構成と指導案作成）	必要な教材をグループで作成する。活動の記録を随時撮影し、各自保育ドキュメンテーションを作成できるようにしておく。授業後、保育ドキュメンテーションでの記録のために、環境構成や保育者の援助のあり方など整理しておく。
	10	協同的な活動の展開③（学生同士で模擬保育を実施）	模擬保育としてクラスでごっこ遊びをする。模擬保育後は、遊びの振り返りなどのグループワークを行う。授業後、ごっこ遊びの記録を保育ドキュメンテーションにまとめておく。
	11	協同的な活動の展開④（保育ドキュメンテーションやポスター作成）	各自作成した保育ドキュメンテーションを持ち寄り、模擬保育の反省・振り返りを行う。協同的な活動に向けて、保育者の関わりや環境構成、子どもたちの育ちや学びについて、グループで話し合い、ポスターを作成する。授業後は、教科書第7章を読み、子どもの発達の視点についてまとめ、実習に活かすようにする。
	12	協同的な活動の展開⑤（協同的な活動における子どもの育ちや学びなどについてのポスター発表と振り返り） 遊びのなかの人との関わり　（けんかやトラブルなどいざこざにおける保育者の援助）	各グループで作成したポスター発表を通して、協同的な活動における子どもの学びや育ち、保育者の関わりや環境構成について整理し、理解する。 教科書の事例やDVDを視聴し、けんかやトラブルの中での学びや育ちについてグループワークを行う。授業後は、授業中に作成したワークシートや教科書第4章の事例を読み返し、保育者の援助や関わりについて整理しておく。
	13	気にかかる乳幼児、特別な支援を要する乳幼児への関わりと援助	授業後はプリントを読み返し、保育者の関わり、支援についてのポイントを確認する。授業後は、授業中に作成したワークシートを読み返し、整理しておく。
	14	乳幼児の育ちを支える環境（保育の構想並びに情報機器及び教材を活用した保育構想の向上）-手袋シアター発表-	手袋人形を仕上げて、発表できるようにして授業に臨むこと。各自製作した手袋人形を使って、グループに分かれて発表する。発表動画を視聴したり、グループで検討したりして、修正・改善を行い、実習に活かすようにする。授業後、自分の発表動画を視聴し、自己評価シートに記入する。
	15	領域「人間関係」における保育者の役割（保育構想の向上に向けて）と幼小接続の理解	幼小接続の資料を前の授業で配布するので、自分なりに課題について考えをまとめておく。授業後は、資料等で振り返り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について説明できるようにまとめておく。最後に授業全体を通して、確認テストを実施し、レポート課題を提示する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事前事後学習が必要とする。特に指導案作成や指導に必要な教材作成においては、各自入念に準備をすること。また、模擬保育やグループ発表の前には、練習時間が必要となる。
教科書	『事例で学ぶ保育内容　領域　人間関係』（無藤隆監修、萌文書林、2018） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリントを配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第１回目のオリエンテーションで説明する。実際の保育の場をイメージして、授業に取り組むことが望ましい。各回の最後に学習したことを記述し、提出する。作成した指導案、教材など学習した足跡としてポートフォリオにまとめ、いつでも振り返りができるようにしておく。振り返りカードやポートフォリオ、レポートは、講評や添削を行い、返却する。なお、成績評価を含め、質問などある場合は電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標① 確認テスト30% 目標② 保育ドキュメンテーション記録作成10% 模擬保育10%　ポートフォリオ作成10% 目標③ 全講義終了後の課題レポート20% 目標④ 授業後の小課題レポート10% 目標⑤ 手袋シアター発表10%
受講上の注意	自分と人とのかかわりを意識しながら学んでいきましょう。
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、乳幼児への関わりや援助のあり方について、具体的な事例を挙げながら講義を行う。また、「計画（P）-実践（C)-評価（C)-改善（A)」の過程や保育の構成について、模擬授業等を通して演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育内容指導法（環境）　　授業コード：2112401　2112402

英文科目名称： Teaching Method of Childcare Contents(Environment)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
山下　清美			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	科目ナンバリング：21C503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、領域「環境」の　１ねらい　２内容　３内容の取扱いを理解した上で、（１）身近な自然との関わり、（２）身近な物との関わり、（３）身近な生き物との関わり、（４）生命の尊さ、（５）文化・伝統・行事、（６）数量・図形、（７）標識・文字、などについて、子どもの発達段階や安全面を考慮しながら、『主体的・対話的で深い学び』が実現する指導法を身に付けて、保育者としての技術や資質を高めることを目的とする。 また、『聞く・見る・話す・考える・体験する・振り返る』を基本として、アクティブラーニングや実践的体験を通して、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力も身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについて理解できる。	ＤＰ１	10
	目標②領域「環境」のねらいを達成する具体的な遊びや保育内容、指導法を知る。	ＤＰ２	10
	目標③子どもの発達段階に応じた補助教材を作ることができる。	ＤＰ３	10
	目標④環境構成や保育者の援助の大切さについて知り、身に付ける。	ＤＰ４	10
	目標⑤アクティブラーニングを通して、保育内容や環境構成、教材準備について、他者と話し合ったり評価したり等、意見交換ができる。	ＤＰ５	20
	目標⑥領域「環境」のねらいの『主体的・対話的で深い学び』を実現する保育を計画、立案、実践（模擬保育）から、振り返りを通して保育者としての技術や資質を高める。	ＤＰ５	30
	目標⑦自然や生命に関する豊かな心情を育成できる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	◆オリエンテーション ◆幼稚園教育要領における領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについて ◆自然を意識した歌の補助教材作り	・授業の概要や到達目標、内容等について確認する。 【自主学習】 ・幼稚園教育要領の領域「環境」を読んでくる。 ・学びのワークシート①を記入する。
	2	◆幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針における領域について ・乳児保育に関わるねらい及び内容　ウ ・１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容　ウ領域「環境」 ◆身近な生き物を知る（バッタ・カマキリ・コオロギ等） ◆虫取りや園外保育等を通しての育ち、園外へ出かける時の安全や準備物等の指導法①	・虫取りや園外保育等に出かける時の安全・準備物等について学ぶ。 【自主学習】 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針における「環境」に関する領域を読んでくる。 ・学びのワークシート②を記入する。 ・授業３に行う虫取りの準備をして、次週に持参する。
	3	◆身近な自然を意識した環境構成と遊び ◆虫取りや園外保育等を通しての育ち、園外へ出かける時の安全や準備物等の指導法② ◆実際に堤防に出かけ、虫取りをする	・虫取りや園外保育等に出かける時の安全・準備物等について確認する。 ・準備物を整えて、実際に堤防に出かけ、虫取りを経験する。（フィールドワーク） 【自主学習】 ・学びのワークシート③を記入する。

	4	◆飼育・栽培を中心とした環境構成と遊びの発展① ・身近な生き物との関わり（カブトムシ） ・子どもが自然や生命の尊さを学ぶ指導法	・身近な生き物との関わりを豊かにする環境構成について考える。 ・実際にカブトムシの幼虫を、見て触れて観察する。（グループワーク） 【自主学習】 ・学びのワークシート④『カブトムシの生態・飼育の仕方』の補助教材用パネル作成。（個人）
	5	◆模擬保育①：模擬保育を知る ◆飼育・栽培を中心とした環境構成と遊びの発展② ◆視聴覚教材等のＩＣＴの活用	・模擬保育について、先輩達の写真を見ながら知る。 ・「身近な生き物の生態・飼育の仕方」の環境構成として、グループで１枚のポスターを作成するために題材や内容を話し合う。（討議） 【自主学習】 ・グループで作成するポスターの内容の下調べをする。 ・学びのワークシート⑤を記入する。
	6	◆飼育・栽培を中心とした環境構成と遊びの発展③ ◆模擬保育②：グループの担当決めと準備	・「身近な生き物の生態・飼育ポスター」を作成する。（グループワーク） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑥を記入する。
	7	◆飼育・栽培を中心とした環境構成と遊びの発展④ ◆模擬保育③：模擬保育の準備	・「身近な生き物の生態・飼育ポスター」を作成する。（グループワーク） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑦を記入する。
	8	◆数量や図形・標識や文字等を意識した環境構成と遊び ◆模擬保育④：「身近な生き物の生態・飼育ポスター」をグループ毎に発表する	・数量や図形・標識や文字等を意識した環境構成と遊びについて知り話し合う。（グループワーク） ・「身近な生き物の生態・飼育ポスター」を仕上げ、語り合う。（発表） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑧を記入する。
	9	◆伝統的な遊びと園行事における環境構成と指導について ◆「主体的・対話的で深い学び」を実現する保育について ◆模擬保育⑤：環境の準備	・行事の指導について知る。 ・伝統的な遊びを知り経験する。 ・子どもが環境に関わり、考えたり工夫したり試したり出来る遊びや環境構成について学ぶ。 【自主学習】 ・学びのワークシート⑨を記入する。
	10	◆身近な物を意識した環境構成と遊びについて ◆「主体的・対話的で深い学び」を実現する保育の環境構成と指導案の作成① ◆模擬保育⑥：環境の準備	・生活の中で様々な物に触れたり、身近な物（素材）を遊びに取り入れたりすることで、生活を豊かにする環境構成を考える。また、物を大切にする保育を考える。 ・生活や安全面についての環境構成について話し合い考える。（討議） ・指導案の書き方を学ぶ① 【自主学習】 ・環境構成の準備をする。（学びのワークシート⑩身近な物を集める）
	11	◆「主体的・対話的で深い学び」を実現する保育の環境構成と指導案の作成② ◆模擬保育⑦：環境の準備	・指導案の書き方を学ぶ② ・模擬保育に必要な環境について話し合い準備する。（グループワーク） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑪指導案を記入する。
	12	◆模擬保育１日目：身近な生き物に、興味・関心をもつ保育	・実際に園児を迎えて「身近な生き物の生態・飼育ポスター」を語る。（発表） ・園児と一緒に数量や図形・標識や文字等を使った遊びをする。（実習） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑫（模擬保育１日目）の振り返りを記入する。
	13	◆模擬保育⑧：模擬保育２日目の準備をする ・「主体的・対話的で深い学び」を実現する保育（準備と練習）	・担当の内容や環境構成等の準備をし、練習する。（グループワーク） 【自主学習】 ・模擬保育の準備、ノートの確認をする。 ・学びのワークシート⑬指導案を記入する。
	14	◆模擬保育２日目：「主体的・対話的で深い学び」を実現する保育 ・グループ担当の発表と好きな遊び	・「主体的・対話的で深い学び」が実現する保育の環境を構成して園児と遊びを展開する。（発表） ・模擬保育を通して、子どもたちとの関わり方、援助の仕方を学ぶ。（実習） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑭（模擬保育２日目）の振り返りを記入する。

	15	◆模擬保育振り返り：評価と改善 ◆保育ドキュメンテーションについて ◆授業のまとめ、ノートの確認	・模擬保育で学んだことをグループで話し合い、指導案の「評価・反省（振り返り）」の欄に記入する。 （グループワーク） ・保育ドキュメンテーションを知る。 ・模擬保育を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を確認し、幼児教育から小学校教育への接続を意識する。 ・ノートのまとめと確認をする。 【自主学習】 ・学びのワークシート⑮保育ドキュメンテーションを書く。 ・ノートを見直し、試験に備える。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 定期試験は、授業でまとめたノートを持ち込んでの筆記試験とする。ノートは定期試験終了時に、解答用紙とともに提出する。
準備学習に必要な時間	毎回自主学習として、１時間程度の事前・事後学習が必要である。（具体的な内容は授業計画の中に記入及び、授業毎に説明する）
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 教　　材：テーマに基づいて資料を配布する。 準 備 物：ノート（Ａ４版WIDE）購買にて購入・のり・内ズック
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業内容をまとめるためのノート（Ａ４版WIDE）を準備し、配布されたプリント、課題、授業で学んだことなどをまとめる。 定期試験は、授業でまとめたノートを持ち込んでの筆記試験で、終了時に解答用紙とノートを提出する。 ノートは、後日フィードバックするので、実習や将来現場で役立てる。
評価の配点比率	授業内課題、ノート作成：50% （目標①5%、目標②5%、目標③5%、目標④5%、目標⑤10%、目標⑥15%、目標⑦5%） 筆記試験：50% （目標①5%、目標②5%、目標③5%、目標④5%、目標⑤10%、目標⑥15%、目標⑦5%）
受講上の注意	授業は、内ズックを履き、動きやすい服装で受けること。また、ノートのまとめ方も学ぶので、ノート・筆記用具・のりを必ず持参し、提出物は期限を守るようにすること。
教員の実務経験	幼稚園教諭・主事・園長等40年の経験や、福井県内園の保育相談経験がある。それらの経験を活かして、幼児教育・保育の仕事に役立つ知識や指導法等、具体的な事例や演習を通して共に考え学び合う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育内容指導法（言葉）　　授業コード：2112501　2112502

英文科目名称： Teaching Method of Childcare Contents(Language)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
前田　敬子			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C504
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、言葉の領域によって乳幼児が身に付ける内容と、小学校以降の生活や学習との関連を取り上げ、小学校との円滑な接続の必要性と具体的な保育活動について理解し、自分の力で保育指導案が作成できること、及び、保育者として必要な言葉に関する知識や技能を修得し、物語や言葉に関する感性を高めることを目的とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を子どもの言葉の発達と照らし合わせながら理解する。	ＤＰ１	50
	目標②領域「言葉」に関わる乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。	ＤＰ５	15
	目標③他者の助言や意見を聴いた上で、自分なりに考えを広げ深めるように努力して、実習で活用する絵本や紙芝居のリストを作ることができる。	ＤＰ６	15
	目標④幼稚園教育要領や子どもの発達過程を理解するとともに、自己の学習行動全般を謙虚に振り返ることができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（実習の振り返り・領域「言葉」のねらい）	観察参加実習の体験を振り返り、子どもの言葉をめぐる観察事項をまとめ、領域「言葉」の項目と結び付ける。
	2	領域「言葉」の理解	幼児教育の具体的な場面を思い起こし、幼稚園教育要領の領域「言葉」を結び付けて関連を説明できるように準備しておく。
	3	領域「言葉」の「ねらい及び内容」と保育の構想	幼稚園・保育園の「ことば」に関する環境整備や保育活動における言葉の要素を具体的に挙げることができるようにしておく。
	4	言葉を育む保育活動の展開を考える（指導案の作成）	自身が経験したり、見聞きしたりした幼児教育現場の言葉を育てる活動の指導案を書いてみよう。
	5	模擬保育①（第１グループの発表）	『幼稚園教育要領』の言葉以外の領域に目を通し、具体的な活動と結び付けて説明できるようにしておく。
	6	模擬保育②（第2グループの発表）	いくつかの手遊びを覚え、実践できるようにする。
	7	模擬保育③（第3グループの発表）	絵本の読み聞かせの仕方や選び方の注意事項を確認する
	8	模擬保育④（第4グループの発表）	パネルシアターの演じ方を確認する。
	9	模擬保育⑤（第５グループの発表）	紙芝居の演じ方を確認する。
	10	領域「言葉」と小学校「国語」との関連①（小学校学習指導要領「国語」編）	小学校「国語」の思い出を振り返り、それが幼児期とどのようなつながりをもつかを考える。
	11	領域「言葉」と小学校「国語」との関連②（小学校低学年の教材）	絵本と教科書とで、同じ話を扱うものを例として、その違いを理解する。
	12	言葉の感覚を豊かにする実践①（情報機器や教材の工夫―ことば遊び）	手遊びや絵描き歌など、言葉の楽しさに触れる体験を探してみよう。
	13	言葉の感覚を豊かにする実践②（情報機器や教材の工夫―なぞなぞ遊び）	なぞなぞを仲間同士で出し合うとき、より興味をひく表現方法を考えよう。

	14	言葉の感覚を豊かにする実践③（情報機器や教材の工夫―聴いて描く）	正しく伝え、わかり合うためには、どのように工夫すべきかを考えよう。
	15	言葉の感覚を豊かにする実践④（実践の振り返りと保育構想の向上に向けた改善）	実習時の指導案を振り返り、更に豊かに展開する保育活動を目指すにはどのようにすべきか考える。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度、テキストの下読みや事前課題、事後課題の学習を必要とする。		
教科書	『乳幼児の乳幼児の言葉が生まれ・育っていくために　保育内容「言葉」』（アイ・ケイコーポレーション 2024）		
参考図書、教材、準備物等	参考書：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018） 『指導法も一緒に学ぶ保育内容指導法「言葉」』（教育情報出版　2023）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第１回のガイダンスで説明する。子どもの育ちを言葉の面から概観し、子どもの心と言葉を豊かにできる保育者をめざす。ほぼ毎時間、授業内容を振り返り学んだことを「振り返りシート」に文章にまとめるが、後日その文章は返却される。その活動を通して、学び取る力、総合的な指導力を身につける。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーなどを利用して随時連絡すること。		
評価の配点比率	目標①言葉そのものや言葉に関連する保育活動に理解と関心を深めるための「振り返りシート」を毎回の授業で提出する。50% 目標②授業内容をふまえて、領域「言葉」に関連する指導案を作成して提出し、わかりやすく説明する。15% 目標③授業内容をふまえて、紙芝居や絵本のリストを提出する。15% 目標④「指導案」や紙芝居や絵本のリストを作成し、自身の考えをレポートにまとめて提出する。20%		
受講上の注意	言葉に対して自覚的になることがスタート地点である。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： 保育内容指導法（表現）　　授業コード：2112601　2112602

英文科目名称： Teaching Method of Childcare Contents (Expression)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
山下　清美			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C505
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、領域「表現」の　１ねらい　２内容　３内容の取扱いを確認した上で、「子どもと表現(造形)」及び「子どもと表現(音楽)」の授業と連携し、指導場面を想定した保育を体験しながら指導法を身に付けて、保育者としての技術や資質を高めることを目的とする。 そのために、表現活動を（１）造形表現活動　（２）音楽表現活動　（３）身体表現活動　（４）言語表現活動の４つに分けて、具体的な指導法を学ぶ。また、指導場面を「発表会ごっこ」とした模擬保育を実施し、指導案を立てて環境構成をした中で、幼児を招いて、発表したり指導したりする。経験からの学びを重視し、「振り返り」を行い、保育を改善する方法を身に付ける。授業の形態としては、『聞く・見る・話す・考える・体験する・振り返る』を基本として、アクティブラーニングを中心としながら、講義や情報機器の活用、実技や体験など、授業内容によって最も効果的な方法で行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等における領域「表現」を理解し説明ができる。	ＤＰ１	10
	目標②心情・意欲・態度など表現遊びを通しての学びの過程を理解し説明ができる。	ＤＰ２	10
	目標③乳幼児の発達に即した表現遊びと環境作りや、乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し説明ができる。	ＤＰ３	20
	目標④領域「表現」のねらいや内容を達成するために具体的に保育を計画し、指導案を作成して実際に模擬保育をする。	ＤＰ４	20
	目標⑤指導場面を「発表会」とした模擬保育を実施し、実際に幼児と体験する。	ＤＰ４	20
	目標⑥振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける。	ＤＰ５	10
	目標⑦領域「表現」における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育との接続を確認し、理解する。	ＤＰ５	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	◆オリエンテーション ◆幼稚園教育要領における領域「表現」のねらい・内容・内容の取扱いについて ◆当番表を作成する。	・授業の概要や到達目標、内容等について確認する。 ・製作活動の準備や指導法を学びながら当番表を作成する。（グループワーク） ・当番活動を開始する。（実習・毎回） ・挨拶の仕方を学び実践する。（実習・毎回） 【自主学習】 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「表現」を読んでくる。 ・学びのワークシート①を記入する。
	2	◆幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針における領域について ・乳児保育に関わるねらい及び内容　ウ ・１歳以上３歳未満児の保育に関わるねらい及び内容　オ領域「表現」 ◆造形表現活動① ・描いたり作ったりする遊びと乳幼児の育ちについて	・造形表現活動の「遊びと学び」や指導法について考える。 ・当番表を仕上げる。（グループワーク） 【自主学習】 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針における「表現」の領域を読んでくる。 ・学びのワークシート②を記入する。
	3	◆造形表現活動② ・描いたり作ったりする遊びと乳幼児の育ちについて	・造形表現活動について（発達段階を知る）ＤＶＤを視聴する。 ・描いたり作ったりする遊びと指導法を学ぶ。 【自主学習】

			・学びのワークシート③を記入する。
	4	◆音楽表現活動① ・歌、手遊び、歌遊び、わらべうたあそびの指導のあり方と乳幼児の育ちについて ・補助教材を作る（牛乳パックのパクパク人形）	・音楽表現活動の「遊びと学び」や指導法について考える。 ・いろいろな歌や手遊び・歌遊びやわらべうたあそびを実際に行う。（実習） ・歌の指導に使用する、補助教材を作る。（個人） 【自主学習】 ・学びのワークシート④を記入する。
	5	◆音楽表現活動② ・歌と合奏の指導のあり方と乳幼児の育ちについて	・リズム遊びをする。 ・打楽器の種類や持ち方、奏法について知る。 ・実際に歌と合奏をして指導法について考える。（発表） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑤を記入する。
	6	◆身体表現活動① ・ダンスや体操の指導のあり方と乳幼児の育ちについて	・身体表現活動の「遊びと学び」や指導法について考える。 ・実際にダンスや体操を行い、紙面に描く方法を知る。（実習） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑥を記入する。
	7	◆身体表現活動② ・乳幼児の発達段階にあったダンスや体操の創作	・乳幼児の発達段階にあったダンスや体操等の振り付けを考え、紙面に描く。（発表） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑦を記入する。
	8	◆言語表現活動① ・感じたことや考えたことを言葉で表現する乳幼児を支える指導法 ・簡単な劇あそびをする	・言語表現活動の「遊びと学び」や指導法について考える。 ・グループ毎に簡単な劇あそびをする（グループワーク）（実習） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑧を記入する。
	9	◆言語表現活動② ・グループ毎に劇あそびを発表する ◆模擬保育①：模擬保育を知る	・グループ毎に劇あそびを発表して、人前で表現することを体験する。（発表） ・模擬保育について、先輩達の写真を見ながら知る。 【自主学習】 ・学びのワークシート⑨を記入する。 ・模擬保育の内容を自分なりに考えてくる。
	10	◆領域「表現」に関する指導案の作成 ◆模擬保育②：５歳児を想定したプログラムの構想	・指導案の必要性や、書き方を知る。（授業で行った表現活動の指導案を書く） ・グループで模擬保育の内容を相談して決め、具体化する。（グループワーク）（討議） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑩指導案を仕上げる。
	11	◆「発表会」に必要な、大道具・小道具・衣装について ・お面や帽子の作り方を知り、作成する。 ◆模擬保育③：表現遊び「発表会ごっこ」に取り組む ・模擬保育の準備・練習	・「発表会」に必要な、大道具・小道具・衣装について知る。 ・グループ毎に、模擬保育の準備や練習をする。（グループワーク） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑪を記入する。
	12	◆模擬保育④：表現遊び「発表会ごっこ」に取り組む ・模擬保育の準備・練習	・グループ毎に、模擬保育の準備や練習をする。（グループワーク） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑫を記入する。
	13	◆情報機器及び教材の活用－プログラム作成 ◆模擬保育⑤：表現遊び「発表会ごっこ」に取り組む ・模擬保育の準備・練習	・情報機器及び教材を活用してプログラム作り方を知る。 ・グループ毎に、模擬保育の準備や練習をする。（グループワーク） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑬プログラムを作成する。
	14	◆模擬保育当日：表現遊び「発表会ごっこ」をする ・園児と一緒に表現遊びを行い、グループ毎に発表し合う	・園児を招いて、表現遊びを一緒に楽しむ。（実習） ・グループワーク毎に表現遊びを行い、互いに発表し合ういながら、表現遊びの指導法を学ぶ。（発表） 【自主学習】 ・学びのワークシート⑭振り返りを記入する。
	15	◆模擬保育振り返り：評価と改善 ◆領域「表現」に関する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の確認 ◆授業のまとめ、ノートの確認	・グループ毎に模擬保育の振り返りをする。（グループワーク） ・領域「表現」に関する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を確認する。 ・これまでの授業の課題とノートの確認をする。

			【自主学習】 ・これまでの課題とノートを確認し、試験に備える。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 定期試験は、授業でまとめたノートを持ち込んでの筆記試験とする。ノートは定期試験終了時に、解答用紙とともに提出する。
準備学習に必要な時間	毎回自主学習として、１時間程度の事前・事後学習が必要である。（具体的な内容は授業計画の中に記入及び、授業毎に説明する）
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 教　　材：テーマに基づいて資料を配布する。 準 備 物：ノート（Ａ４WIDE）購買にて購入・のり
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業内容をまとめるためのノート（Ａ４版WIDE）を準備し、配布されたプリント、課題、授業で学んだことなどをまとめる。 定期試験は、授業でまとめたノートを持ち込んでの筆記試験で、終了時に解答用紙とノートを提出する。 ノートは、後日フィードバックするので、実習や将来現場で役立てる。
評価の配点比率	授業内課題、ノート作成：50% （目標①5%、目標②5%、目標③10%、目標④10%、目標⑤10%、目標⑥5%、目標⑦5%） 筆記試験：50% （目標①5%、目標②5%、目標③10%、目標④10%、目標⑤10%、目標⑥5%、目標⑦5%）
受講上の注意	授業は、内ズックを履き、動きやすい服装で受けること。また、ノートのまとめ方も学ぶので、ノート・筆記用具・のりを必ず持参し、提出物は期限を守るようにすること。
教員の実務経験	幼稚園教諭・主事・園長等40年の経験や、福井県内園の保育相談経験がある。それらの経験を活かして、幼児教育・保育の仕事に役立つ知識や指導法等、具体的な事例や演習を通して共に考え学び合う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 文章表現の基礎　　授業コード：2112701　2112702

英文科目名称： Basics of Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	必修
担当教員			
前田　敬子			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D101
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、生活に必要な国語について特質を理解し適切に使うことができ、人との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉がもつ良さを認識するとともに、言語感覚を養うことを目的とする。 ※本授業は、初年次教育科目である。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①正しい漢字や仮名遣い、慣用句、四字熟語などを理解し、話や文章のなかで使うことができる。	ＤＰ３	50
	目標②目的や意図に応じて、題材を決め、伝えたいことを明確にして、文章や口頭で表現することができる。	ＤＰ６	25
	目標③読み手や聴き手の質問に答えたり、助言を聴いたりする中で、自己の表現を謙虚に振り返り、改善することができる。	ＤＰ９	25
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	実習ノートやエピソード記述の文章例を見て、気付いたことを発表しよう。	小説、新聞などの散文の中で、自分が乗り越えて行くべき課題の力になる文章を見つけて、書き写していこう。（初年次教育）
	2	話の聴き方を振り返ろう。	どのような自己紹介をすれば、その先の展開があるかを考えよう。
	3	話し言葉と書き言葉の区別を知ろう。筆記具の持ち方を知ろう。	見聞きしたことと思ったことを書き分けよう。
	4	実習ノートのまとめの書き方を知ろう。	保育の用語で覚えておくべき言葉を書き出そう。
	5	誤りやすい漢字を克服しよう。	苦手な漢字を挙げてみよう。
	6	効果的な音声表現を心掛けよう。	絵本の読み聞かせで、新しい情報を丁寧に読む習慣を身につけよう。
	7	送り仮名のつけ方の決まりを知ろう。	活用表が送り仮名と関連していることを知り、誤りやすい送り仮名に気をつけていこう。
	8	正しい仮名遣い（「じ」「ぢ」「ず」「づ」の使い分け）を知ろう。 調べたことをA４１枚の文章にまとめよう。	誤りやすい表記について調べてみよう。
	9	ことわざや言い回しを知ろう。	これまで知らなかった言い回しを挙げ、短文を作ってみよう。
	１０	副詞や接続詞に強くなろう。	実習ノートやエピソード記述の文章の構成に気をつけながら、副詞や接続詞、文末表現を見よう。
	１１	レポートの書き方を知ろう。	付箋の色分けを利用して、事実の関する記述と思考を分けて考えよう。
	１２	語彙を豊かに・学習のまとめ等の書き方を知ろう。	実習ノートやエピソード記述の文章例の言葉から、覚えておきたい言葉を探そう。（初年次教育）
	１３	実習礼状の書き方、封筒や便箋の選び方、字配り、宛名書きを知る。	実習要項の文章例や手紙の書き方に関する書籍を参考にしよう。（初年次教育）
	１４	ものの見方を広げる。	ものの見方を広げるために努力していることを話し合ってみよう。
	１５	敬語	敬語の使い方について書かれた書籍を読んでみよう。（初年児教育）
定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。		

	□全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回の事前事後学習に1時間程度は必要。
教科書	教 科 書:前田敬子『改訂版　保育者養成校の言語表現』（2025　三恵社）
参考図書、教材、準備物等	参考図書:厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館2018） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館2008）内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館2018） 文化庁「敬語の指針」「敬語おもしろ相談室」
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第１回のガイダンスで説明する。できる限り多く「話す」「聴く」「書く」「読む」活動を取り入れ、それらの活動を通して、学び取る力、総合的な表現力を身につける。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーなどを利用して随時連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業時間内の2回の小テストと試験期間中の試験　50% 目標②試験の作文記述や授業時間内のレポート作成　25% 目標③事前事後学習としてのノート作成活動　25%
受講上の注意	保育現場を意識した言語活動を展開していきますが、何より学生の皆さんが、保育者になった自身を思い描きつつ、取り組みましょう。また、一人の社会人としても、言葉を大切にする態度を養っていきましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 身体表現の基礎　　授業コード：2112801　2112802

英文科目名称： Basics of Physical Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
乾　典子			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D102
添付ファイル			

授業の概要	・本授業の目的は、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。また子どもの豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする援助者となる力を指導者として身につけることが重要である。 ・近年の動画配信サイトから模倣した踊りを子どもたちに強要する行為は望ましい保育とは言えない。子どもたちの自由な発想から動きを見つけてこその身体表現であり、その援助者になるのが保育者であるということを理解する必要がある。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①　保育者として知るべき身体表現の内容に気づくことができる。	ＤＰ１	30
	目標②　保育者として必要なダンスの表現と創作の手順を学ぶことができる。	ＤＰ４	20
	目標③　実習を中心に専門知識を学習し、保育者として幼児の前で即実践できる身体表現を学ぶことができる。	ＤＰ６	30
	目標④　グループで活動することにより、リーダーの育成とその指導方法を習得することができる。	ＤＰ７	20

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス　身体表現（ダンス）のねらいと内容・表現探し・簡単なダンスの体験	事前学習として講義要項（シラバス）の内容を見ておく。 事後学習として体験したダンスを踊ってみる。
	2	ステップ遊び・フォークダンスの体験	実習。子どもたちが好きな動きを知り、ステップ遊びなどを通して、ダンスの導入に利用する必要性を理解する。 フォークダンスの体験　たくさんの人と踊る事ができる。またあまりよく知らない人と仲良くなる性質を持つ教材であることを理解する。 事前学習としてフォークダンスの種類を調べておく。 事後学習として習ったフォークダンスを踊ってみる。
	3	ステップ遊び・プレイバルーンの体験と創作。	実習。リズムに合わせて子どもの好きな動きの体験と理解。 大きなバルーンの安全な動かし方とその創作の方法を学ぶ。 事前学習としてバルーンの動画を見ておく。 事後学習として他に動きがないか考えておく。
	4	ステップ遊び・プレイバルーンの創作。	実習。集団で協力してバルーンを創作する。集団の中での自分の活動内容を把握する。 事前学習として他に動きがないか考えておく。 事後学習としてバルーンの動きを忘れないようにイメージする。
	5	ステップ遊び・プレイバルーンの発表。 ポンポンの製作	実習。集団で創作したバルーンを発表する。発表動画を撮影しMoodle上にアップ。 また集団の中での個人の役割を果たせたか顧みる。 今後のダンスで使う自分用のポンポンを作る。 事前学習としてグループで作った動きを復習しておく。 事後学習としてプレイバルーンの発表動画をMoodle上で視聴し、その活動についての意見・反省をレポートにして提出する。

	6	身体表現遊び（1）童謡を使ってその動き探しと発表	実習。童謡の歌詞から創作の基本となる動き探しをする。「振付」とは違う事への意識の移行が必要。自由な発想の重要性を理解する。 事前学習として童謡について調べておく。 事後学習として他の学生の動きを確認する。
	7	身体表現遊び（2）ポンポンダンスの体験	ダンスを体験(実技)　ポンポンを使ったダンスを習い実際に踊ってみる(前半) 事前学習として自分用に作ったポンポンを完成しておく。 事後学習として習ったダンスをMoodle上のダンス動画を見て練習しておく。
	8	身体表現遊び（2）　ポンポンダンスの体験と発表　個人発表　練習(60分)試験(30分)	ポンポンダンスを習得(実技)、個人発表。携帯で撮影する。 事前学習としてダンスを踊って発表の準備をする。 事後学習として携帯で撮影した自分のダンス動画を見て顧みる。
	9	身体表現遊び　(2) ポンポンダンスの発展　グループ別でフォーメーションを考える(グループワーク)	グループワーク。習ったダンスを元にグループでフォーメーションを考える。グループで教え合い各個人のグループでの関わりとコミュニケーション能力を体験する。 事前学習としMoodle上の音源に合わせてダンスの復習をしておく。 事後学習としてグループで考えたダンスの練習をする。
	10	身体表現遊び　(2)　ポンポンダンスの発表(グループワーク)	グループワーク。ダンスの創作と発表。携帯使用(ダンスの映像を撮影・振り返り) 事前学習としてダンスの練習と発表の準備をする。 事後学習として創作と発表についてレポートをMoodle上の課題に提出する。
	11	ダンスの創作（1）　創作方法の説明と理解	ダンスを創作する方法を知り、創作イメージとダンスに使う造形物や衣装を考え、創作の企画案を作りレポートにまとめて授業時間内に提出する。この授業ではそれぞれの発想力を知るため、個人での企画を考える。 事前学習として子どもの踊っている動画などを見ておく。 事後学習として自分で考えた企画がどうだったか復習する。
	12	ダンス　グループ別創作（2）　動きの発見・創作方法の説明と理解(グループワーク)	グループワーク。グループでどの企画案を使ってダンスを創作するのかを決定しその内容を考える。 グループとしての進行計画や造形物・衣装を考えて、その購入材料をリストにする。 事前学習として自分の企画案を確認する。 事後学習として造形物の材料を購入する。
	13	ダンス　グループ別創作（3）　動きの発見・振付(グループワーク)	グループワーク。課題曲の動きを創作しその練習をする。 事前学習・事後学習として創作したダンスの発表用の造形物と衣装を作る。創作した動きの動画を撮影して練習する。
	14	ダンス　グループ別創作（4）　動きの発見・振付(グループワーク)	グループワーク。課題曲のダンスを創作して発表用のダンスに仕上げ、その練習をする。 事前学習・事後学習として創作したダンスの発表用の造形物と衣装を完成させる。創作したダンスを復習する。
	15	発表会　練習(30分)発表(30分)鑑賞・まとめ(30分)(グループワーク)	グループワーク。創作したダンスを発表。スマホ使用(ダンスの映像を撮影・振り返り) 事前学習として発表のダンス・造形物の制作確認を行う。 事後学習として活動内容と身体表現の理解をレポートにしてMoodle上の課題に提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	・毎回1時間程度の事前・事後学習が必要 ・各課題の身体表現について、どのような物があるのか調べておく。 ・習ったダンスを忘れないように、 踊ってみるなどの復習が十分にされること。ダンス動画と音源は授業後にMoodle上にアップするので、事前・事後学習として各自動きの確認と練習をすること。 ・実技で欠席をした場合などは、特にグループ活動の場合は同じグループの受講生から習うなど事前学習をして次回授業に臨むこと。携帯で動画を撮影して動きを確認するのもよい。 ・活動内容によって事後学習としてレポート作成などを行うため、期日を守って提出すること。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配布する。 参考図書　事例で学ぶ保育内容　領域　表現（無藤隆 監修　浜口順子 著作　萌文書林　2021年4月1日）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	身体表現の各課題の活動を体験した後に、その活動についての内容を顧みてのレポートをMoodle上に提出させるので、そこでフィードバックする。また第11回目の個人でのダンス創作案については授業中に制作し提出する。その創作案は評価後返却するので、それを基にグループ活動へとつなげる。
評価の配点比率	身体表現であるので個人でのダンスの技術を身につけることは重要だが、保育者としてはグループ活動の中で個人の関わり方を身につけることは大切なことである。 自分の動きや創作したダンスについて振り返り、毎回の授業後のグループでの関わり方の反省を各自行うこと。

	目標①　ダンス活動レポートを、各テーマ終了後に提出　20% 目標②　6回目授業　8回目授業　各テーマの個人でのダンス発表　30% 目標③　11回目授業　ダンス創作課題　30% 目標④　5回目授業　10回目授業　15回目授業　グループでのダンス発表　20%
受講上の注意	保育者としてダンスの必要性と、その創作の基本を学ぶ。 模倣ではない自由な発想の大切さを理解・体験するために、授業中はこちらが言うまでスマホ動画を検索しないこと。また保育者を目指すのであれば服装も大切である。 必ずダンスの実技ができる服装で出席すること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 造形表現の基礎　　授業コード： 2112901　2112902

英文科目名称： Basics of Arts

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
重村　幹夫			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D103
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、乳幼児造形表現の上で必要な様々な表現技法について「造形あそび」を中心とした手法を用いて習熟する。 また、形態や明暗を遠近法に沿って把握し描写することが出来るようにするとともに、色彩の3属性や3原色による混色を理解し、効果的な配色が出来るようにする。 また、乳幼児絵画表現の特徴についても理解する。 これらの学習における、素材、技法に触発された活動やその振り返りにおいて、主体的な問題解決、発表を通したアクティブラーニングを行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①乳幼児造形表現で必要とされる様々な表現技法に習熟する。	ＤＰ４	60
	目標②形態や明暗を遠近法に沿って把握し、描写することが出来るとともに、色彩の３属性や、3原色による混色を理解し、効果的な配色を行うことが出来る。	ＤＰ４	10
	目標③乳幼児の絵画表現の特徴を理解することが出来る。	ＤＰ４	10
	目標④他者と協働した、製作や発表を行う事が出来る。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第１回	オリエンテーション及び講義：moodleの見方、学習内容の概略と目的、「造形表現」と「造形あそび」についての説明　乳幼児絵画の見方講義	小テストによる復習
	第２回	竹ひごによる造形あそび	竹ひごをカッターナイフで切る。竹ひご等の素材に触れ、技法や発想の習熟を目指す。
	第３回	凧揚げ①	素材の扱いの習熟が実践に関係することを実感させる。
	第４回	凧揚げ②	素材の扱いの習熟が実践に関係することを実感させる。凧揚げの振り返りと指導法の省察を行う。
	第５回	チラシによる造形あそび	チラシを丸め、ニッパーやカッターナイフ、セロハンテープ、グルーガン等を用いた立体作品。
	第６回	絵の具による造形あそび	ローラー、ストロー、筆、型抜き等を用いた平面作品
	第７回	スチレン版画による造形あそび	スチレンボード、バレン、版画用紙等を用いた平面作品。
	第８回	木による造形あそび	廃材の木、のこぎり、万力、紙やすり、グルーガン等を用いた立体作品。
	第９回	「梅雨」をテーマにしたカラードテープによる造形表現	カラードテープ、ホチキス、はさみ、セロハンテープ、両面テープ等を用いた立体作品。
	第10回	紙コップによる造形あそび	紙コップ、紙皿、洗濯ばさみ等を用いた立体作品。
	第11回	新聞紙による造形あそび	新聞紙、養生テープ、水性色マジックを用いた立体作品。
	第12回	人物クロッキー	鉛筆の種類。鉛筆の削り方、形の取り方。
	第13回	静物デッサン	明暗表現の理解。
	第14回	絵具の混色練習	色彩の3属性、混色練習。
	第15回	植物の着彩	混色練習、描画練習。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		

準備学習に必要な時間	振り返りシートの記入等毎回1時間程度の事後学習が必要。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	描画材は必要に応じその都度指示する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題の講評を行う。
評価の配点比率	目標①60％ 目標②10％ 目標③10％ 目標④20％
受講上の注意	保育環境においても、美しい形や色彩は大切です。そのような造形要素は、多くの場合、自然観察やその再現を通じて学ぶことがあると考えます。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 音楽表現の基礎　　授業コード：2113001　2113002

英文科目名称： Basics of Music Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
川﨑　美砂子			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、幼児教育に有効な音楽基礎理論、および演奏能力の習得である。楽譜を正確に読み取る為の知識を身に付け、保育現場での歌唱、弾き歌い、音楽的アプローチをより的確に実践することにつなげる。知識の習得、楽譜の読み取り、音楽表現（主に歌唱実技）を総合的に学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①音楽理論分野において、楽譜上の記号や音符、調や音階等、様々な情報を分析できる。	ＤＰ４	50
	目標②保育現場での歌唱表現を想定し、明るい発声、正しい音程、はっきりとした言葉で表情豊かに歌うことができる。	ＤＰ４	50
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	「楽典＝音楽理論」とは 音階と音名 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	「楽典＝音楽理論」とは何か、なぜ「音楽理論」を学ぶのか この授業の目標と、進め方、取り組み方について説明します。 「これだけは知ってほしい楽典」（以下「教科書」と表記する）p.4～11を参考にしながら楽譜を読むことの初歩から学びます。 基本的な発声練習を継続し、こどもの歌を歌いレパートリーを増やしていきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、いつでも使えるよう、ピアノ弾き歌いにも繋がるように準備してください。 担当講師が作成したプリントを配布します。 授業の復習、確認を目的としたものです。書き込んで、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	2	リズムと拍子① 「音の長さを理解する」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.12～17を参考に、音の長さ、音符の名称を知り、簡単な楽譜を読む練習をします。 「こどものうた」の読譜へと応用し、歌唱表現につなげていきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、いつでも使えるよう、ピアノ弾き歌いにも繋がるように準備してください。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	3	リズムと拍子② 「基本の拍子・基本のリズム」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.19～20を参考に、基本のリズムを理解し、基本的な拍子の曲の譜読み練習をします。 同程度の「こどものうた」の読譜へと応用し、歌唱表現につなげていきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、いつでも使えるよう、ピアノ弾き歌いにも繋がるように準備してください。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。

	4	リズムと拍子③ 「複合拍子とリズムの展開」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.21～25を参考に、8分の6拍子などの複合拍子を知り、譜読み練習をします。 シンコペーションなどのリズムを理解し、「こどものうた」を使用して応用、定着していきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、いつでも使えるよう、ピアノ弾き歌いにも繋がるように準備してください。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	5	歌唱実技個別指導	この回は、別室にて歌唱実技の個別指導を行います。 前回までに課題曲を指定します。 個別指導では、一人一人の歌を聴いて個別に方向性や改善点を口頭でお伝えします。 参考にして以後の音楽への向き合い方に役立ててください。 個別指導以外の学生はML室にて課題を実施。
	6	音程① 「基本の音程練習」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回の課題について、復習、確認をします。 「音程」について知り、教科書p.27～33を参考に、音程の感覚を意識し譜読み練習をします。 簡単な「こどものうた」の譜面をを読み取れるようになります。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、ピアノ弾き歌いにも繋がるように準備してください。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	7	音程② 「完全音程と増減音程」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.27～33を参考に、基本の音程から更に詳しく音程の知識を広げます。 これは、歌うだけでなくピアノを弾くとき、コードを押さえるときにも大変役に立つ知識であり、音楽をより豊かに表現することに繋がります。 関連する「こどものうた」の譜読み、歌唱を通して定着していきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、ピアノ弾き歌いにも繋がるように準備してください。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	8	音程③ 「完全音程と長短音程」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.27～33を参考に、引き続き更に詳しく音程の知識を広げます。 関連する「こどものうた」の譜読み、歌唱を通して定着していきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、ピアノ弾き歌いにも繋がるように準備してください。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	9	調性と和音① 「長調の音階と和音」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.35～49を参考に、長調の「調性」について理解します。 合わせて基本の和音についても学びます。 関連する「こどものうた」の譜読み、歌唱を通して定着していきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、ピアノ弾き歌いのレパートリーにしてください。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	10	調性と和音② 「短調の音階と和音」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.35～49を参考に、短調の「調性」について理解します。 合わせて基本の和音についても学びます。 関連する「こどものうた」の譜読み、歌唱を通して定着していきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、ピアノ弾き歌いのレパートリーにもしてください。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	11	音楽用語① 「強さ、速さの表示」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.57～63を参考に、強さや速さを表す様々な記号や音楽用語を知ります。 関連する「こどものうた」の譜読み、歌唱を通して定着していきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、ピアノ弾き歌いも必ずやりましょう。 表示記号を知ることで、より正確に豊かに表現することができます。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。

	12	音楽用語② 「曲想、奏法の表示」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.65～73を参考に、曲想や奏法を表す様々な記号や音楽用語を知ります。 関連する「こどものうた」の譜読み、歌唱を通して定着していきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、ピアノ弾き歌いも必ずやりましょう。 表示記号を知ることで、より正確に理解し、豊かに表現することができるようになります。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	13	音楽用語③ 「その他の表示、まとめ」 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より ※最後に歌唱テスト課題曲5曲をお知らせします。	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.65～73を参考に、更に曲想や奏法を表す様々な記号や音楽用語を知ります。 関連する「こどものうた」の譜読み、歌唱を通して定着していきます。 授業で使用した楽曲は必ず覚えるまで各自練習して、ピアノ弾き歌いも必ずやりましょう。 表示記号を知ることで、より正確に理解し、豊かに表現することができるようになります。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	14	コードネーム 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より	前回課題の復習、確認をします。 教科書p.51～55を参考に、基本のコードネームを知り、実際にコードを押さえながら歌を歌います。 前回お知らせした「歌唱テスト課題曲」5曲を、これまで得た知識や発声の技術を意識しながら練習します。 配布する課題プリントで復習、確認し、期限内に必ずMoodleに提出しましょう。
	15	まとめ 発声練習 こどもの歌を歌う ・仁愛幼稚園課題曲他 ・「こどものうた」より 歌唱総合演習（実技テスト）準備	前回課題の復習、確認をします。 歌唱総合演習（実技テスト）に向けて最終確認練習。 「テストシート」を配布します。 ※「テストシート」は歌唱テストの際に必要です。必要事項を記入して テストの際に必ず提出すること。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・後述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート･作品・その他）を提出させる
準備学習に必要な時間	毎回、30分間程度の『これだけは知ってほしい楽典 はじめの一歩』の予習が望ましい。 歌唱においては、日常的な歌唱練習の習慣が必要。歌唱と共に、ピアノなど鍵盤楽器での弾き歌いの習慣的な練習も必要。 １日に30分間でよいので毎日、歌唱と弾き歌いの練習を継続すること。
教科書	理論：木村鈴代、中川淳一他共著『－保育士、幼稚園、小学校教諭を志す人たちへ－これだけは知ってほしい楽典 はじめの一歩』（カワイ出版2017） 歌唱：『こどものうた200』（チャイルド本社 小林美実編1975） 『続こどものうた200』（チャイルド本社 小林美実編1996）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：小林紀子、砂上史子、刑部育子編著『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房2019） 教材：授業担当者用意資料
課題（試験・レポート等）のフィードバック	欠席せず、授業内容をしっかり実践すること。 毎回授業担当者が作成した確認プリントを配布します。授業後３日以内にMoodleに必ず提出し、担当者は内容を確認し、理解できていない箇所を重点的に次の授業にて再確認し、各自赤ペン修正で共有します。 毎回、全員完全理解を目指します。プリントにはフリーコメント欄を設け、個々との意思疎通を図ります。 実技試験時には、事前に配布するテストシートを記入し、担当者は歌唱実践の観点ごとの評価やコメントを記述して後日返却します。
評価の配点比率	目標①毎回配布する課題プリントの提出状況25％と、理解度25％ 目標②試験期間中に行う個人実技テスト（歌唱）評価25％とテストシート内容25％
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもと健康　　授業コード：2113101　2113102

英文科目名称： Health for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
鮫嶋　優樹			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C105
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、乳幼児期の運動遊びや、心身の発育発達、安全管理等についての専門的事項に関する知識・技術を身につけることを目的とする。特に、各種運動遊びの実施を通して、様々な運動遊びの動作特性の理解を図るとともに、運動遊びと心身の発育発達や各種健康課題との関連を学ぶ。 ※ 自主学習支援として、講義資料や授業に関する参考資料、確認テスト等を常時公開する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①乳幼児期の運動遊び特性を理解し、基本的な技術を習得することができる。	ＤＰ４	40
	②乳幼児における心身の発育発達と運動遊びの関連を理解し、説明できる。	ＤＰ２	20
	③乳幼児の体力・運動能力や動きの測定・観察方法を理解し、適切に評価することができる。	ＤＰ３	10
	④乳幼児期の健康課題を理解し、運動と生活習慣との関連を踏まえて説明できる。	ＤＰ３	10
	⑤乳幼児の安全を守るために適切な遊具の使い方を理解し、説明できる。	ＤＰ３	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第１回	オリエンテーション・乳幼児期における運動遊びの種類と理解	事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して幼児期運動指針の内容を復習する。
	第２回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得（１）（けん玉、なわとび）	実技試験① 事後学習：LMS(moodle)上に提示される課題（実施した運動種目修得のコツや特性に関して）を実施するとともに、習得できなかった技に関して適宜練習を実施する。
	第３回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得（２）（お手玉、こま）	実技試験② 事後学習：LMS(moodle)上に提示される課題（実施した運動種目修得のコツや特性に関して）を実施するとともに、習得できなかった技に関して適宜練習を実施する。
	第４回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得（３）（マット運動、跳び箱）	実技試験③ 事後学習：LMS(moodle)上に提示される課題を通じて授業で実施した遊びのルールや特性を復習する。
	第５回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得（４）（一輪車、鉄棒）	実技試験④ 事後学習：LMS(moodle)上に提示される課題を通じて授業で実施した遊びのルールや特性を復習する。
	第６回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得（５）（ボール遊び）	事後学習：LMS(moodle)上に提示される課題（実施した運動種目修得のコツや特性に関して）を実施するとともに、習得できなかった技に関して適宜練習を実施する。。
	第７回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得（６）（おにあそび）	事後学習：LMS(moodle)上に提示される課題（実施した運動種目修得のコツや特性に関して）を実施するとともに、習得できなかった技に関して適宜練習を実施する。
	第８回	乳幼児の発育発達と運動遊びの関連（１）これまでの運動遊びの振り返りと幼児期運動指針の解説	事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。

	第９回	乳幼児の発育発達と運動遊びの関連（２）（乳幼児期の心身の発育発達）	事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
	第１０回	乳幼児の発育発達と運動遊びの関連（３）（運動遊びが乳幼児の発育発達に及ぼす影響）	事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
	第１１回	乳幼児期における健康課題および生活習慣・運動の関連	事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
	第１２回	乳幼児の体力測定と動きの観察評価（1）（体力測定の実施）	事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
	第１３回	乳幼児の体力測定と動きの観察評価（２）（観察評価の実施）	事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
	第１４回	幼児の運動遊びの際に気を付けること（１）（運動遊びにおけるリスクとハザード、乳幼児の応急手当、保育施設における事故事例）	レポート課題提示 事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
	第１５回	幼児の運動遊びの際に気を付けること（２）（遊具の使用における留意事項、運動遊びの指導における留意点）	事後学習：LMS（Moodle）上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	運動遊びの実践後には、授業内で習得できなかった運動遊びの基礎技能に関しては事後に自主的な練習が必要となる（1時間程度）。講義では、事前に教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめておくことが必要である（1時間程度）
教科書	『幼児のからだとこころを育てる運動遊び』（出村慎一監修、杏林書林、2012）
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実技試験の結果に関しては、その場で到達状況をフィードバックする。テストおよびレポートの評価に関しては希望者に対してオフィスアワー、もしくは電子メール(y-samejima@go.jin-ai.ac.jp)にて対応する。
評価の配点比率	目標①運動遊びに関する実技試験（40%） 目標②筆記試験（20%） 目標③筆記試験（10%） 目標④筆記試験（10%） 目標⑤レポート（20%）
受講上の注意	実技を伴う授業回では、体調を整え、靴、運動に適した服装で出席して下さい。掲示でお知らせすることもあるので、気を付けて見ておいて下さい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもと人間関係　　授業コード：2113201　2113202

英文科目名称： Personal Relations for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
小川　智枝			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C106
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、領域「人間関係」の指導の基礎となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることである。乳幼児の生きる力の基礎は、豊かな人間関係の中で愛着、信頼や協同、葛藤を体験しながら育まれることを具体的な事例を基に理解しつつ、全体的な乳幼児の育ちにおける人間関係の意義についての考察を試みる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①人と関わる力の育ちが人生を支える力となることを理解している。	ＤＰ１	30
	目標②乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、身近な大人や乳幼児との関係から説明できる。	ＤＰ６	40
	目標③自立心・協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて説明できる。	ＤＰ２	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション－「領域　人間関係」とは何か	事前学習：教科書Lecture1を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	2	社会の変化にともなうこれからの子どもの育ち	事前学習：教科書Lecture2を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	3	子どもの人間関係をめぐる課題　領域「人間関係」がめざすもの	事前学習：教科書Lecture3を読み、疑問点をまとめておくこと。グループワーク「砂場で学ぶことは？」。事後学習：ワークシート作成。
	4	領域人間関係の基礎知識①　乳幼児期の人間関係の発達－愛着と信頼関係の形成、情緒の安定	事前学習：教科書Lecture4を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	5	領域人間関係の基礎知識②　乳幼児期の人間関係の発達－自我の発達、他者意識の形成	事前学習：教科書Lecture4を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	6	子どもの生活と人間関係	事前学習：教科書Lecture5を読み、疑問点をまとめておくこと。グループワーク「愛着形成のための保育者の関りとは？」。事後学習：ワークシート作成
	7	遊びの発達と人間関係	事前学習：教科書Lecture6を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	8	自立心の育ち	事前学習：教科書Lecture7を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	9	協同性の育ち	事前学習：教科書Lecture8を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	10	道徳性・規範意識の芽生え・遊びでつなぐ友だちとの関係	事前学習：教科書Lecture9を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	11	家庭や地域との関わり	事前学習：教科書Lecture10を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	12	人間関係を育てる実践の原理	事前学習：教科書Lecture11を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	13	気になる子どもと関係性	事前学習：教科書Lecture12を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	14	関わりの育ちを「みる」	事前学習：教科書Lecture13を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成

	15	エピソード記述	エピソードを通した事例検討のグループワーク。事後学習：ワークシート作成

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事前事前学習として教科書を読み疑問点をまとめ、事後には考察、小課題をワークシートに記入する。毎回1時間程度必要。
教科書	『体験する・調べる・考える　領域　人間関係』（田宮縁、萌文書林、2024第2版）
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『新時代の保育双書　保育内容人間関係第２版』（濱名浩編、みらい、2020）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・質問、考察、小課題を記入したワークシートを毎回作成し提出する。ワークシートは全授業終了後に返却する。 ・質問等がある場合は、電子メールやMoodlにて連絡すること。
評価の配点比率	目標①ワークシート30%（5%×6） 目標②ワークシート20%（5%×4）、試験20% 目標③ワークシート25%（5%×5）、試験5%
受講上の注意	
教員の実務経験	保育士として保育に携わった経験を活かし、遊びのなかで育まれる子どもたちの人間関係と保育者の援助について、実例を挙げながら講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもと環境　　授業コード：2113301　2113302

英文科目名称： Environment for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	１単位	選択
担当教員			
大久保　嘉雄			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C107
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子どもが身の回りの自然や社会の事象に関心を示して健やかに育つことを実践的に学ぶことである。そのために、草花の栽培や野外での観察などの体験を積み、天体や気象、四季の行事、子どもの安全管理などの学習を通して、領域「環境」に関する保育内容を理解し、深めることができるようにする。 スマホで仁短Moodleにアクセスして、小テストや課題を提出する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①乳幼児を取り巻く環境の重要性や乳幼児と環境との関わり方について説明できる。	ＤＰ１	20
	目標②乳幼児が遊びや生活の情報に興味を持ち、地域に親しむ工夫ができる。	ＤＰ３	20
	目標③自作の教材を通して、乳幼児に対する適切な接し方、安全管理を説明できる。	ＤＰ４	20
	目標④自然や生命に関する豊かな心情を、自らが持つことの重要性に気づくとともに、乳幼児に伝えることを工夫できる。	ＤＰ４	20
	目標⑤自作の教材や調べたことを他者に説明できる。	ＤＰ５	10
	目標⑥乳幼児の科学的な思考や概念の発達、身の回りの標識や文字等の認識を育成する方法を説明できる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	領域「環境」のねらいと内容、子どもを取りまく環境	教育法規について学ぶ。授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 事後学習：領域環境のねらいに沿った子どもへの働きかけを考える。 次回にスケッチブック（大きさはＡ４判くらい）と色鉛筆を準備。
	2	春の七草と野外における草花の観察、草花遊び	授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 学内や学外へ出て春の野草を観察し、その特徴を調べる。クラスメートと名前を確認しあう。 事後学習：春の草花を撮影する。
	3	草花の栽培と子どもの成長、種子の播種	授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 植木鉢に草花の種子を播く作業（培養土の入れ方や種子の播き方など）を、クラスメートと協力し合いながら行う。 事後学習：草花の種子をまいて開花するまでの経過をスケッチブックにまとめる。
	4	季節の行事や気象に関わる子どもの活動	五節句や二十四節気について調べる。授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 興味のある五節句や二十四節気を調べ、クラスメートに紹介する。 事後学習；五節句や二十四節気、七十二候を絵に描いて説明文を入れる。
	5	七夕と月や星、天候にかかわる事象	クラスメートと一緒に七夕飾りを作る。 授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 事後学習；七夕飾りを貼り付けた台紙（スケッチブック）に、自然背景を描く。また、月の動きを観察す

			る。観察のレポートは後日紹介する。
	6	昆虫の世界	粘土でアリを作る。クラスメートとアリの特徴を説明し合う。また、その他の動物の粘土模型も作り、クラスメートに見せて批評しあう。 授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。
	7	危険な昆虫とその対応	折り紙で昆虫（セミ、クワガタムシ）を折る。その他の昆虫の折り紙をしらべ、クラスメートと紹介しあう。 授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 事後学習；昆虫折り紙を貼り付けた台紙（スケッチブック）に、自然背景を描く。
	8	地球の環境問題、ＳＤＧｓ ＫＰ法（紙芝居プレゼンテーション）の概略	ＳＤＧｓについて調べる。 授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 事後学習；ＫＰ法（紙芝居プレゼンテーション）のシートを作る。次回にクラスメートにプレゼンテーションする。
	9	秋の七草と野外における草花の観察、園内における自然環境と保育者の役割、ネーチャーゲーム	クラスメートと一緒に、フィールドビンゴを楽しむ。市販のカードでなく、各自が作ったカードを紹介しあう。 授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 事後学習；秋の草花を撮影する。
	10	どんぐりと動物散布種子	童謡「どんぐりころころ」の三番の歌詞をクラスメートと一緒に考える。授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 事後学習；「どんぐりころころ」の三番の紙芝居を作る。
	11	色の世界（光と色の三原色、色覚のしくみ）	色を認識するしくみを学ぶ。班別に、色水の混合の実験を行う。授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 事後学習；幼稚園で子どもが体験できるフィールドビンゴを作る。
	12	標識や施設、図形	授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。 自分で工夫して描いたピクトグラムをクラスメートに紹介する。
	13	フレーベルの恩物、動くおもちゃの制作	紙ヒコーキを作り、クラスメートと競いながら、より飛びやすい飛行機を工夫する。 授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。
	14	日本の伝統遊び（かるたやすごろく、福笑い）	かるたやすごろく、福笑いを作り、クラスメートに紹介する。 授業中に簡単な小テスト（スマホで仁短Moodleにアクセス）。
	15	生物の多様性はなぜ必要か	事後学習；切り絵を作り、クラスメートに紹介する。 授業中に簡単な小テスト、小レポート（スマホで仁短Moodleにアクセス）。

定期試験	■前期試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業内容によっては45分～１時間程度の事後学習が必要になることがある。鉢植えの草花の観察は、成長段階においてスケッチや記録を取ることが必要になる。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書:田宮縁『体験する調べる考える領域環境』（萌文書林2011） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館2018）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館2018） 教　材:必要に応じてプリントを配付する、準備物:スケッチブック、色鉛筆
課題（試験・レポート等）のフィードバック	○課題をまとめたスケッチブックや制作物をMoodleに画像で提出すること。課題はコメントや評価などを付けて返却し、アイデア豊かなものは講義で紹介する。
評価の配点比率	課題66%、筆記試験26%、小テスト8%、 目標① 草花の栽培や草花の観察（課題）13%、その分野の筆記試験7%、小テスト2% 目標② 季節の行事の表現や七夕飾り（課題）13%、その分野の筆記試験7%、小テスト2% 目標③ 童謡「どんぐりころころ」の三番、フィールドビンゴ、かるたやすごろく・福笑い、空飛ぶおもちゃの制作（課題）13%、小テスト2% 目標④ 昆虫折り紙や粘土で作るアリの制作、月の観察（課題）13%、その分野の筆記試験8%、小テスト2% 目標⑤ 地球の環境問題ＫＰシートの制作（課題）7%、その分野の筆記試験4% 目標⑥ 標識やピクトグラムの制作（課題）7%
受講上の注意	本科目を通して、生き物や自然、文化、そして、人間を再認識することを望みます。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等)

	□自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもと言葉　　授業コード：2113401　2113402

英文科目名称： Language for Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	１単位	選択
担当教員			
前田　敬子			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C108
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、乳幼児の言葉の発達を概観して理解を深めるとともに、乳幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践について基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①自分自身の話し言葉や書き言葉などを振り返り、その意義と機能について再考し、考えたことを表現できる。	ＤＰ９	30
	目標②乳幼児の言葉の発達過程について説明できる。	ＤＰ２	20
	目標③言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする保育実践を考え、工夫することができる。	ＤＰ３	20
	目標④児童文化財について理解を深め、基礎的な知識と技能を身につける。	ＤＰ４	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション	乳幼児の言葉の発達を概観する。 言葉を覚え、コミュニケーションのもとになるのが三項関係であることを理解する。 『じゃあじゃあびりびり』『がたんごとん』『たまごのあかちゃん』など、子どもの絵本にオノマトペが多いことを確認し、それらの絵本による言葉の楽しさを味わう。
	2	絵本と紙芝居	本学図書館や「えほんのへや」の利用の仕方を知り、絵本に対する興味関心を深める。乳幼児に読み聞かせする絵本を具体的に知り、自身の読み聞かせを見通しを立てる。
	3	言葉を話す前に・前言語期のコミュニケーション	言葉を話す前の段階でも「語りかけ」によって、コミュニケーションをとること（非言語コミュニケーション、喃語、初語など）を理解する。『いないいないばあ』『くだもの』『かおかおどんなかお』など、赤ちゃん絵本について知る。
	4	子どもにとっての「言葉」（１）話し言葉の発達	乳幼児の心理発達と話し言葉の発達、それを支える保育者の援助について考える。『おおきなかぶ』『てぶくろ』の絵本を味わう。
	5	子どもにとっての「言葉」（２）言葉の機能	０歳から６歳までの言葉の発達を、DVD映像で具体的にたどり、認知機能の発達と絡めて理解する。そして、言葉が、コミュニケーション（伝え合い）だけでなく、思考の機能、行動調整の機能をもつことを理解する。自分の生活における、内言の例を挙げて説明することで、言葉の思考の機能についての理解を深める。『くれよんのくろくん』『そらまめくんのベッド』と『おおきなかぶ』『てぶくろ』の表現の違いについて話し合う。
	6	子どもにとっての「言葉」（３）書き言葉の発達 児童文化財、昔話絵本を知る	子ども同士の話し合いやけんか、絵本や紙芝居から劇遊びに発展する様子、歌や言葉遊びにふれる保育を確認し、幼児教育における書き言葉の課題を知る。 昔話絵本『さんびきのこぶた』『さんびきのやぎのがらがらどん』『三枚のおふだ』を知り、繰り返しの妙

			とそれによる先を予測する楽しさを味わうとともに、子どもの認知機能との関連を理解する。
	7	子どもにとっての「言葉」（４）領域「言葉」・言葉を育てる （言葉が育つ環境、幼児の書いた文字を確認した後に、幼稚園見学）	幼稚園を見学し、幼児が「言葉の楽しさ美しさ」や「文字」にふれる具体的な例を確認する。年齢ごとの保育室の環境を比較する。
	8	児童文化財、紙芝居の技法を確認する 児童文化財、科学絵本を知る	紙芝居の技法を知り、幼児教育現場で演じられる題目に興味関心をもつ。 自然や社会に対する興味関心を高める科学絵本『しっぽのはたらき』『じめんのうえとじめんのした』『みずとはなんじゃ』『どうぐ』を味わう。
	9	児童文化財　パネルシアターを使って行う自己紹介文を考える 児童文化財　言葉遊びの絵本、創作絵本を知る	自己紹介文に、適切な題材を探し、描いたものを見せながら、効果的に自己紹介する案を立てる。 『ふしぎなおるすばん』『あるのかな』『へんしんトンネル』、『どろんこハリー』『いたずらきかんしゃちゅうちゅう』を味わう。
	１０	児童文化財（３）パネルシアター作り①（型紙を写す）	視覚的に示すことによって伝えやすい利点を、幼児教育現場では、具体的には、どの場面で活かせるか考えてみよう。
	１１	児童文化財（３）パネルシアター作り②（色塗りをする）	文化財の色使いについて考えよう。
	１２	児童文化財（３）パネルシアター作り③（演じ方を工夫する）	立ち方や声の表情について考えよう。
	１３	絵本の読み聞かせ練習（１）	実習で担当する子どもの年齢を考慮して本を選び、伝わりやすい読み方を心掛けよう。
	１４	絵本の読み聞かせを聞き合う（２）	仲間と協力して、表現力を高めよう。
	１５	絵本の読み聞かせの展望をもつ（３）	互いに聞きあい、工夫点や改善点を見つけよう。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、児童文化財（絵本、紙芝居）に親しみ、ノートを作成するなど１時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	『指導法も一緒に学ぶ　保育内容「言葉」』（教育情報出版、2023） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）
参考図書、教材、準備物等	『保育に役立つ！年中行事の言葉かけ』（堀祐美子、ナツメ社、2012） 『年中行事のことばがけスピーチ』（阿部恵、ひかりのくに、2010）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第１回のガイダンスで説明する。学習ノートの提出を授業終了時に求めるが、書き方の確認を第4回の授業で行う。適宜「発表」の時間を設け、総合的な言葉の能力の向上をめざす。成績評価なども含めて質問があれば、オフィスアワーなどを利用して随時連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業を通して、自らの保育者としての資質を高めるように努力し、言葉について気付いた内容をノートにまとめることができる。30% 目標②乳幼児の発達の概略を教科書や映像資料をもとにしてノートにまとめることができる。20% 目標③「言葉」の領域を念頭におきながら、絵本やパネルシアターや劇の効果的な活用について考えをレポートにまとめることができる。20% 目標④保育の展開を具体的に想像しながら、絵本やパネルシアター、紙芝居の効果的な活用を計画し、実践することができる。30%
受講上の注意	保育現場を意識した言語活動を展開していきますが、何より学生の皆さんが、保育者になった自身を思い描きつつ、取り組んでほしいと思います。また、一人の社会人としても、言葉を大切にする態度を養ってほしいと思います。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもと表現（造形）　　授業コード：2113501　2113502

英文科目名称： Expression for Children (Figurative Arts)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
重村　幹夫			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C109
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、領域「表現」について理解し、感性や表現力、創造性を豊かにすることを通して、乳幼児の様々な表現を受容し援助できるようになることを目的とする。 そのため、「造形表現の基礎」に引き続き「造形あそび」を中心とした表現技法の学習をおこなうとともに、その習熟をもとにした季節や行事による主題による表現活動を行う。 このような活動やその振り返り、発表を通したアクティブラーニングを行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ＤＰ４	10
	目標②乳幼児の様々な表現や環境の構成等に対応する知識・技能・表現力を身につけることができる。	ＤＰ４	70
	目標③他者と協働して、問題の省察や発表をすることが出来る。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第１回	オリエンテーション：評価の基準、配点説明。 幼児造形表現の位置づけと配慮事項	後半、ワークシートを作成発表する。
	第２回	「夏休み」を主題にした絵画表現	主題による絵画表現。
	第３回	昆虫採集と観察①	デッサンと色彩練習の応用
	第４回	昆虫採集と観察②	昆虫採集、昆虫の観察 デッサンと色彩練習の応用
	第５回	「昆虫採集」をテーマにしたスチレン版画	「造形表現の基礎」の応用
	第６回	毛糸による造形遊び	毛糸を中心とした素材
	第７回	落ち葉などによる造形遊び	落ち葉を中心とした素材
	第８回	「クリスマス」をテーマにした造形表現①	
	第９回	「クリスマス」をテーマにした造形表現②	
	第10回	「正月」をテーマにした造形表現①	
	第11回	「正月」をテーマにした造形表現②	
	第12回	「冬休み」をテーマにした絵画表現	
	第13回	「ひなまつり」をテーマにした造形表現①	
	第14回	「ひなまつり」をテーマにした造形表現②	
	第15回	半年間の振り返り：造形表現と造形あそび、3つの側面、部分発想と全体発想について。講義及び省察	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事後学習が必要。事前にmoodleの内容を確認し、授業後は振り返りシートを完成させること。
教科書	使用しない。

参考図書、教材、準備物等	内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」, 株式会社フレーベル館, 2018 文部科学省「幼稚園教育要領解説」, 株式会社フレーベル館, 2018 厚生労働省「保育所保育指針解説」, 株式会社フレーベル館, 2018
課題（試験・レポート等）のフィードバック	振り返りシートの省察を基にフィードバックを行う。
評価の配点比率	目標①10%、目標②70%、目標③20%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもと表現（音楽）　　授業コード：2113601　2113602

英文科目名称： Expression for Children (Music)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
木下　由香			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C110
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につけることである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ＤＰ１	20
	目標②発達段階に応じた、表現が生成される過程について説明ができる。	ＤＰ２	20
	目標③乳幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感しながら、課題を設定することができる。	ＤＰ３	20
	目標④音楽表現の基礎的な知識・技能を生かし、乳幼児の表現活動を展開させることができる。	ＤＰ４	40
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション、「音楽とは何か」「表現とは何か」について考える－当たり前に存在する「音楽」について改めて考える。幼児の「表出」や「表現」について具体的に考える。	「音楽」や「表現」の定義について理解することができる。
	2	領域「表現」のねらい及び内容の理解－幼稚園教育要領および保育所保育指針の変遷を確認し、子どもの音楽的な表現について考える。	子どもたちに行いたい音楽活動について、「幼児教育において育みたい資質・能力」の三つの柱の視点で見ることができる。
	3	乳幼児の表現の発達の理解①－子どもの音を聴く力の発達と音楽的表現の発達について学ぶ。	月齢、年齢を追って子どもの聴覚をはじめとする音楽的発達についてまとめる。
	4	乳幼児の表現の発達の理解②－小学校学習指導要領や教科書から理解し、学びの連続性について考える。	学習指導要領にみられる歌唱、演奏、鑑賞、創作などの音楽活動と音楽を形づくっている要素について整理し、幼児教育の現場で行われる音楽活動を分析する。
	5	世界の音楽教育とサウンド・エデュケーション－世界の音楽教育の紹介と身の周りの音に気付くことを通して環境と対話する。	世界の音楽教育についての知見を得て、より良い音環境について考えることができる。
	6	声と歌唱表現①－子どもの声域の発達、絵本を使った擬音語遊びを通した表現活動を行う。	声による表現の可能性を探る。
	7	声と歌唱表現②－わらべうた、手遊び、絵描き歌を使った歌唱活動と効果について学ぶ。	様々な歌唱表現を体験し、子どもの年齢や発達に応じた歌唱活動について考える。
	8	声と歌唱表現③－季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような表情豊かな歌唱表現を身に付ける。	子どもに分かりやすいように目的にあった補助教材を用いながら、歌唱活動の楽しさを伝える方法を考える。
	9	楽器を使った表現①－保育の現場で使用する様々な楽器に親しむ。	楽器の特性について知り、音色から様々なイメージを膨らませながら子どもとどのような活動ができるか考える。
	10	楽器を使った表現②－トーンチャイム・ハンドベルを使った音楽活動を通して、和音付け及びグループ演奏を行う。	和音の響きを味わうことができる。グループで協働して曲を仕上げることができる。
	11	楽器を使った表現③－絵本に音をつける。	心情や情景などを、楽器や声、身の周りの音を使い、協働して表現する。グループワーク。

	12	イメージを音に表現する①－リトミックスカーフを使って拍や曲想の変化を感じる。リズム遊び、ボディパーカッション、パラバルーン遊びを通して、心情や情景などを、全身を使い、協働して表現する。	音楽にあわせて拍やリズムを感じながら表現する。グループワーク。
	13	イメージを音に表現する②－ピアノを使って即興的な創作活動を行う。	イメージを絵や音で表現することができる。グループワーク。
	14	楽器を作って披露する－手作り楽器を通して音の出る仕組みについて学ぶ。	身近な素材を用いて楽器を作り、その特性について発表することができる。
	15	本授業全体の振り返りとICTの活用－保育現場でのICT活用について考える。学習のまとめを行う。	全体を振り返りながら音楽に関する知識の修得を確認し、子どもたちの興味関心に寄り添った音楽活動を考え、展開していくことができる。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業の終わりに次の授業の導入となる話をしますので、一日45～60分程度音楽について意識的に感じたり考えたりしながら過ごしてもらえればと思います。
教科書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省編、フレーベル館、2018）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）
参考図書、教材、準備物等	『子どものための音楽表現技術―完成と実践力豊かな保育者へ』（今泉明美・有村さやか編、萌文書林、2017）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のオリエンテーションで説明する。各回毎に課題を課し、仁短Moodleに提出する。質問等がある場合は、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①提出物および発表20%、目標②提出物および発表 20%、目標③提出物および発表 20%、目標④提出物および発表 40%
受講上の注意	音楽は私たちの身の周りに当たり前に存在するものです。子どもに与える音や音楽の影響や効果について学び、保育の現場で積極的に音楽活動を取り入れてもらいたいと思います。また、仁愛附属幼稚園および仁愛保育園で連携授業を行うことがあります。その際は、活動しやすい服装や内履きの準備など忘れないでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 音楽（ピアノ基礎演習）　　授業コード：2113701　2113702

英文科目名称： Music (Fundamentals of Piano Practice)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１年次	２単位	選択
担当教員			
木下由香・加藤俊裕・西尾順子・福岡智子・福田安希子・和田　芳			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D105
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、幼稚園教諭・保育士として必要なピアノ技術・弾き歌い技術の習得を目指す。学生のレベルに応じた３段階のグレード制とし、それぞれに設定された教材における指定楽曲を弾きこなすことを通して、乳幼児に対する音楽教育に必要な技能を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①楽譜の指示通りに音間違いや弾き直し無く、正確なリズムで豊かな表現によるピアノが弾ける。	ＤＰ４	50
	目標②はっきりとした発声で歌詞の内容が伝わる、子どもが歌いやすい弾き歌いができる。	ＤＰ６	50
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	概要の説明とグレード決め	アンケート、演奏を元にグレードを決める。
	2	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	練習の課題ポイントを整理する。
	3	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と予習、練習計画を立てる。
	4	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と予習、曲の構成について理解を深める。
	5	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向上を図る。
	6	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と予習、表情豊かに音楽的な演奏を目指す。
	7	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と仕上げ、評価項目に沿って自己評価を行い、見直しを図る。
	8	第１回小テストと復習	ピアノ曲1曲と弾き歌い曲1曲を演奏する。
	9	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲（拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解）	練習の課題ポイントを整理する。
	10	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲（拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解）	課題の復習と予習、練習計画を立てる。
	11	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲（拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解）	課題の復習と予習、曲の構成について理解を深める。
	12	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲（拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解）	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向上を図る。
	13	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲（拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解）	課題の復習と予習、表情豊かに音楽的な演奏を目指す。
	14	各グレード指定楽曲及び仁愛附属幼稚園実習曲（拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解）	課題の復習と仕上げ、評価項目に沿って自己評価を行い、見直しを図る。
	15	第２回小テストと復習	ピアノ曲1曲と弾き歌い曲1曲を演奏する。
	16	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲（音楽的表現とピアノスキルの向上）	練習の課題ポイントを整理する。

	17	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲 （音楽的表現とピアノスキルの向上）	課題の復習と予習、練習計画を立てる。
	18	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲 （音楽的表現とピアノスキルの向上）	課題の復習と予習、曲の構成、コード等について理解を深める。
	19	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲 （音楽的表現とピアノスキルの向上）	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向上を図る。
	20	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲 （音楽的表現とピアノスキルの向上）	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向上を図る。
	21	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲 （音楽的表現とピアノスキルの向上）	課題の復習と予習、表情豊かに音楽的な演奏を目指す。
	22	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲 （音楽的表現とピアノスキルの向上）	課題の復習と仕上げ、評価項目に沿って自己評価を行い、見直しを図る。
	23	第3回小テストと復習	ピアノ曲1曲と弾き歌い曲1曲を演奏する。
	24	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	練習の課題ポイントを整理する。
	25	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、練習計画を立てる。
	26	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、曲の構成について理解を深める。
	27	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向上を図る。
	28	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向上を図る。
	29	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、表情豊かに音楽的な演奏を目指す。
	30	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と仕上げ、評価項目に沿って自己評価を行い、見直しを図る。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	必ず毎日10分間以上のピアノ・弾き歌い練習を行う。予習と復習を毎日の習慣にしなければピアノ演奏技術習得・子どもの前での弾き歌い実践は難しい。
教科書	『保育者のためのピアノ・レッスン』（ホッタガクフ 2025）、『こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1975）、『続こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1996）、その他必要に応じて準備する。
参考図書、教材、準備物等	準備物：仁愛附属幼稚園実習使用の楽譜プリント、音楽（ピアノ基礎演習）レッスンカード
課題（試験・レポート等）のフィードバック	グレードや受講に関する規定は音楽（ピアノ基礎演習）レッスンカードを参照する。連絡事項等はMoodleにて行う。小テストおよび期末実技テストは就職試験の予行演習として臨み、話し方、服装、履物、爪なども配慮する。小テスト後には、担当教員から個別講評があり、次回の小テストに生かす。 質問等があれば、木下研究室（E102）まで。
評価の配点比率	3回の小テストおよび期末実技テスト、進度状況など総合的に評価する。目標①50%、目標②50%
受講上の注意	保育現場で子どもに音楽性豊かで魅力的な演奏をするためには、技術の獲得は不可欠です。そのためには適切な練習を継続しなければなりません。子どもの心を育むにはまずは保育者の心から。しっかり取り組みましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 乳児保育Ⅰ　　授業コード： 2113801

英文科目名称： Infantile Nurture Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	１年次	２単位	選択
担当教員			
橋本　登茂江			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21C104
添付ファイル			

授業の概要	授業の目的は、乳児保育の意義・目的を理解し、生命の保持と心身の発達を保障する乳児保育に必要な専門的知識を身につけることである。 我国における乳児保育の変遷をたどりながら、今日の保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育や子育て支援事業などの現状と課題及び、３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容、環境構成、保育における配慮、運営体制等ついて理解する。さらに、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。	ＤＰ１	15
	目標②保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。	ＤＰ３	30
	目標③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容、環境構成、保育における配慮、運営体制等について理解する。	ＤＰ２	40
	目標④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	ＤＰ６	15
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（授業の概要説明） 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷	事後学習：乳児保育の定義や意義、乳児保育の歴史的経緯、役割と機能とは何か。また、「養護」と「教育」の関係性などについて復習してください。
	2	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	ビデオ視聴：非認知能力について 事後学習：子どもや子育て家庭を取り巻く社会的環境から、支援の在り方や課題について復習してください。
	3	保育所における乳児保育	ビデオ視聴 事後学習：養護と教育の意味と重要性及び保育所における乳児保育の課題について復習してください。
	4	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育	ビデオ視聴：乳児院について 事後学習：児童福祉施設の現状と課題及び乳児院の役割と支援方法について復習してください。
	5	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	ビデオ視聴：小規模保育の実際 家庭的保育・小規模保育・保育所・認定こども園幼稚園の比較表作成し提出 事後学習：地域型保育と乳児保育の実際と違いを復習して下さい。
	6	３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	事後学習：保護者の現状の理解と具体的な支援方法や目的について復習して下さい
	7	３歳未満児の生活と環境	ビデオ視聴：3歳未満児の生活の実際 事後学習：環境を通した保育とは何かについて復習してください。
	8	３歳未満児の遊びと環境	ビデオ視聴：３歳未満児の環境とのかかわりの実際 発達と遊びの環境表作成 事後学習：遊びを通してどのように発達していくのか、遊びは環境構成によってどのように展開されていくのかにについて復習してください。

	9	３歳以上児の保育に移行する時期の保育	ビデオ視聴 事後学習：子どもの発達の連続性をふまえ、３歳以上児の保育につながる移行について復習してください。
	10	３歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり	事後学習：乳児の発達の様子や援助のポイント、発達を考慮しながら保育を進めることついて復習してください。
	11	３歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮	チャイルドビジョン作成 事後学習：発達に応じた安全・安心の保育を行うためにはどのような配慮が必要かについて復習してください。
	12	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	事後学習：保育計画の概要と計画から記録、評価までの流れについて復習してください。
	13	職員間の連携・協働	まとめの試験について説明します。 事後学習：保育者として求められる専門性や人間性、保育者同士のチームワークについて復習してください。
	14	保護者との連携・協働	ビデオ視聴 事後学習：子どもの育ちを実現するためにどのように保護者と連携すればよいのかについて復習してください。
	15	自治体や地域の関係機関との連携・協働	事後学習：健康と安全を守るために、保健や医療関係の専門機関との連携について復習してください。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、２時間程度の事後学習が必要。（復習レポートを通して、授業内容・重要ポイントを振り返りファイルに綴っておく。特に、授業で学んだ保育所保育指針の内容は必ず自分の保育所保育指針でチェックし読むこと。） また、最終の筆記試験に向けてはさらに多くの準備学習が必要となる。
教科書	新基本保育シリーズ１５　乳児保育Ⅰ・Ⅱ　（中央法規2019年）　公益財団法人児童育成協会＝監修／寺田清美、大方美香、塩谷香＝編集
参考図書、教材、準備物等	乳児の保育新時代（乳児保育研究会編（ひとなる書房2018年） 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 MINERVAはじめて学ぶ保育　第７巻乳児保育（ミネルヴァ書房2019年）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・教科書以外の授業の教材は、必要に応じてプリントを配布する。ファイルに綴ること。 ・毎回、授業を振り返り復習レポートを記載提出する。提出された復習レポートは、重要ポイントをはじめ一人ひとりの質問に対してコメントし、フィードバックする。確認してファイルに綴ること。 ・参考図書「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。
評価の配点比率	目標①授業復習レポート６％（２％×３）、試験９％ 目標②授業復習レポート６％（２％×３）、試験２４％ 目標③授業復習レポート１６％（２％×８）、試験２４％ 目標④授業復習レポート２％、試験１３％
受講上の注意	楽しい手あそびやふれあい遊び、簡単なダンスや体操、季節の遊びの紹介などを交えながら、自分のレパートリーを増やしていきましょう。身体的・精神的・社会的発達の基盤を培う３歳未満児の保育に必要な専門的知識を身に付けましょう。
教員の実務経験	保育士として保育現場に携わった経験を活かし、人間形成の土台作りとして重要な時期である乳児期の保育について、必要な専門的知識、実際の乳児の姿や関わり方などを具体的な例を交えながら講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 乳児保育Ⅱ　　授業コード： 2113901　2113902

英文科目名称： Infantile Nurture Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
橋本　登茂江			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C111
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、3歳未満児の発育・発達の過程や特性及び養護と教育の一体性を踏まえた、保育の計画・内容・方法等について理解し、乳児保育に必要な専門的技術を身に付けることを目的とする。３歳未満児の発達を捉え、その時期にふさわしい心豊かな体験・主体性を尊重する生活や遊びを支える環境構成や援助等について学ぶ。	

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。	ＤＰ２	15
	目標②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	ＤＰ４	35
	目標③乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。	ＤＰ６	40
	目標④上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。	ＤＰ５	10

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（授業の概要説明） 乳児保育の基本	事後学習：応答的なかかわりや共感性が言葉や社会性の発達と密接であることついて復習してください。
	2	子どもの生活の流れ（0歳児クラス）	ビデオ視聴 事後学習：乳児が安心して心地よく過ごせる生活とな何かについて復習してください。
	3	子どもの保育環境（0歳児クラス）	ビデオ視聴 事後学習：０歳児にとって室内環境をどう整えたらよいか、成長に合わせた玩具とは何かについて復習してください。
	4	子どもの援助の実際（0歳児クラス）	乳児の人形を使っての実習（ミルクの作り方、飲ませ方、オムツ交換の方法など）実習レポート作成 事後学習：０歳児の生活と遊びの援助について復習してください。 課題：発達表の作成
	5	子どもの生活の流れ（1歳児クラス）	ビデオ視聴 事後学習：１歳児の生活の様子と保育者の配慮について復習してください。
	6	子どもの保育環境（1歳児クラス）	事後学習：１歳児クラスの環境設定や、地域性における工夫について復習してください。 課題：乳児向け手作りおもちゃの製作
	7	子どもの援助の実際（1歳児クラス）	事後学習：生活と遊びの両面から具体的な援助について復習してください。 課題：乳児向け手作りおもちゃの製作
	8	子どもの生活の流れ（2歳児クラス）	事後学習：２歳児の成長を知り、生活習慣の自立を促すための環境構成や保育者のかかわりについて復習してください。 課題：乳児向け手作りおもちゃの実践と発表、意見交換
		子どもの保育環境（2歳児クラス）	ビデオ視聴

	9		事後学習：２歳児の成長を知り、生活習慣の自立を促すための環境構成や保育者のかかわりについて復習してください。
	10	子どもの援助の実際（2歳児クラス）	ビデオ視聴 事後学習：２歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性について復習してください。
	11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	グループワーク：乳児の身の回りにあるリスクと危険予知のついてイラストの事例を基に話し合う。 事後学習：子どもが安全に過ごすために必要な保育者の気付きやかかわりについて復習してください。
	12	集団での生活における配慮	母子手帳から学ぶ 事後学習：乳児の集団での生活における配慮と保護者や他職種との連携の重要性について復習してください。 課題：連絡帳作成
	13	環境の変化や移行に対する配慮	グループワーク 事後学習：環境の変化や移行の際にどのような配慮が必要かについて復習してください。
	14	長期的な指導計画と短期的な指導計画	事後学習：長期的な指導計画と短期的な指導計画とその必要性について復習してください。
	15	個別的な指導計画と集団の指導計画	事後学習：個別計画と集団の指導計画について復習してください。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要。　（コメントを含む復習レポートを通して、 授業内容を振り返り、 ファイルに綴っておく)特に、授業で学んだ保育所保育指針の内容は自分の保育所保育指針にチェックし再読しておくこと。 ペープサートは、 作成する材料や用具など事前準備に時間が必要。 自分の母子手帳を準備しておく。準備できない場合は、授業⑫までに担当教員に伝えること。
教科書	新基本保育シリーズ１５　乳児保育Ⅰ・Ⅱ　（中央法規2019年）　公益財団法人児童育成協会＝監修／寺田清美、大方美香、塩谷香＝編集
参考図書、教材、準備物等	乳児の保育新時代（乳児保育研究会編（ひとなる書房2018年） 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 MINERVAはじめて学ぶ保育　第７巻乳児保育（ミネルヴァ書房2019年）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・教科書以外の教材は、 必要に応じてプリントを配布する。 各自ファイルに綴ること。 ・毎回授業を振り返り復習レポートを記載提出する。提出した復習レポートは、重要ポイントをはじめ質問に対しコメントし、フィードバックする。確認してファイルに綴ること。 ・「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。 ・ペープサート・手作りおもちゃは、 事前に案や作り方を考え、 自分で材料・用具を準備して授業にのぞみ、 時間内に仕上げる。
評価の配点比率	目標①授業復習レポート１０％（２％×５）、試験５％ 目標②授業復習レポート１０％（２％×５）、試験２５％ 目標③授業復習レポート６％（２％×３）、乳児向け手作りおもちゃの製作と発表１０％、試験２４％ 目標④授業復習レポート４％（２％×２）、試験６％
受講上の注意	子どもの発達を保障する保育ができるよう、 専門的な知識・技術を身に付けましょう。 復習レポートのやりとりをしながら個別指導します。低年齢児向けの絵本や季節の歌あそびや手あそび、簡単な集団あそび、ダンス、体操なども紹介し、楽しみたいと思います。
教員の実務経験	保育士として保育現場に携わった経験を活かし、指導計画等の重要性や作成、発達を押さえた関わり方などについて、助言を行いながら演習する。また、３歳未満児の発達の特性や環境をとおしての保育、子どもの学びの視点などについて乳児保育の経験に基づいて具体的に質問に答えたり助言を行ったりする。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： リトミック　　授業コード： 2114101

英文科目名称： Eurhythmics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	１年次	１単位	選択
担当教員			
南出　眞代			
幼児教育学科　専門科目	リトミック2級資格必修	演習	ナンバリング：21C112
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は指導者自身のリズム感を高めながら子どもたちへの人間形成を、リトミックにより身に付けることである。 子ども達は、生活の中で様々なものの美しさなどを感じ取り、感じた事や考えた事を自分なりに表現する。この科目は、このような豊かな感性と表現する意欲と創造性を育てるための適切な援助が出来る保育者としての資質を身につけることを目的にしている。特に子ども達が音を聞き、感じ、理解し、その上で楽器に触ってみることの楽しさを身体全体で味わい、その喜びの中で音楽表現を育むという指導法である「リトミック」を学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園、保育園で実践・応用できる内容で、リズム・ピアノ演奏を含む幼児を対象とする指導法及び基礎的な動きを中心に修得する。	ＤＰ１	30
	目標②幼稚園・保育園のための指導資格認定試験に合格できるレベルに到達する。	ＤＰ２	15
	目標③保育者として幼児のためのリトミックが人間教育としての多方面への成長を促すことを理解する。	ＤＰ３	15
	目標④保育者として自覚を持った上で本授業で学んだ楽しい保育方法を自分の考えで指導計画を立てることができる。	ＤＰ５	15
	目標⑤保育者として子どもたちに接する中で自分の考えや行動を省察できる。	ＤＰ４	15
	目標⑥保育者として自分でアイディアを出し、園児の人間的成長を図るための考えをまとめ,他者に説明できる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	リトミックについての説明と体験	
	2	楽しいリトミックの経験 強弱・テンポ・空間・アクセント 基礎的な動き 基礎リズム(２拍子)	
	3	楽しいリトミックの経験 基礎的な動き 基礎リズム(２拍子) 拍子	
	4	リズムの演奏法　（３歳児指導法　：　１学期）	次回までにピアノ演奏予習
	5	ティーチング３歳児指導法：１学期	ピアノ小テスト
	6	リズムの演奏法　（３歳児指導法　：　２学期）	次回までにピアノ演奏予習
	7	ティーチング３歳児指導法：２学期 模擬発表の練習	ピアノ小テスト
	8	楽しいリトミックの経験 基礎リズム(２拍子) 拍子 ３歳児指導案２学期の中から模擬発表	模擬発表指導案提出
	9	リズムの演奏法　（３歳児指導法　：　３学期）	次回までにピアノ演奏予習
	10	ティーチング３歳児指導法：３学期 模擬発表の練習	ピアノ小テスト

	11	３歳児指導案３学期の中から模擬発表	リトミック指導案(クリスマス・お正月)の作成 模擬発表指導案提出
	12	３歳児指導法総括１～３学期 リズムの演奏法(３歳児指導法：１～３学期) クリスマスでリトミック指導	リトミック指導案(クリスマス・お正月)提出
	13	楽しいリトミックの経験 リズムカノン導入 リズムフレーム２・３拍子	
	14	リズムの演奏法（３歳児指導法ー１～３学期）	
	15	リトミックの理論とダルクローズについて	

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 試験は、筆記・実技を行う。
準備学習に必要な時間	３週前に提示がされる実技試験について、リズム(CDを聴いて）練習、ピアノ課題曲に(６曲）対する事前学習を行う（毎回1時間程度）。
教科書	『幼稚園・保育園のためのリトミック３歳児用』　『カラーボード（４色４枚セット）』　『スティック』 『試験練習用ＣＤ』　（リトミック研究センター出版）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：岩崎光弘 『リトミックってなあに』　（ドレミ楽譜出版社 1993） 『子どもがぐんぐん伸びる音楽あそび』 厚生労働省 『保育所保育指針解説』　（フレーベル館 2018） 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』　（フレーベル館 2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　（フレーベル館 2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習の後に振り返りレポート提出。提出したレポートはコメントを添えて返却。
評価の配点比率	目標① 実技試験　リズム１５％　ピアノ１５％　（定期試験） 目標② 幼児のためのリトミック教育理念の確認テスト１５％　（定期試験） 目標③ 園児に対し実際にリズム指導を行う中で何が育つかを理解する１５％　（模擬実習の内容・定期試験） 目標④ 指導案を立て模擬レッスンを経験する１５％　（指導案の提出） 目標⑤ 附属幼稚園・保育園又は授業間でのリトミック実習１５％　（模擬実習後のレポート） 目標⑥ リトミックの資格を取得するにあたり,振り返りレポート提出１０％　（レポート提出）
受講上の注意	動きやすい服装で、裸足または底の薄い上履きで受講の事。 本科目は、幼稚園・保育園のためのリトミック２級指導者資格を取得するための授業である事を自覚し取り組んでほしい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育実習Ⅰ　　授業コード： 2114201

英文科目名称： Tearching PracticeⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	４単位	選択
担当教員			
川崎　恵理			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修	実習	ナンバリング：21E101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実際に幼稚園の教育に参加し、体験を通して幼稚園や幼稚園教諭の役割を理解するとともに、幼稚園教諭としての保育技術を習得することである。1年次9月に附属幼稚園で1週間、2年次6月に学外幼稚園で3週間、計4週間の実習を行い、各授業において学んだ理論と技術に基づいて直接幼児と接し、具体的に幼稚園教育を体験し、保育に必要な知識や技能を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①幼児とふれ合い保育を体験する中で、幼児について理解し、一人一人の子どもの発達や興味関心に基づいた関わりや指導ができる。	ＤＰ４	20
	目標②自分から幼児と関わったり、一人一人の幼児を尊重しながら関わったりすることができる。	ＤＰ７	20
	目標③幼児理解に基づいたねらいの設定、ねらいを達成するための環境構成、援助などについて具体的に理解し、指導計画を作成・実践することができる。	ＤＰ５	10
	目標④自己の実習を省察し、適切に実習ノート・日誌を記入することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤主体的に実習に取り組み、指導、助言を受けながら、教諭としての自己の課題を明確化することができる。	ＤＰ９	20
	目標⑥教育実習に臨む態度が身に付き、挨拶、服装など基本的なマナーを実践しながら実習園の教諭と共に協働することができる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		〔附属幼稚園実習〕 1年次9月を中心として1週間（学科が割り振りした時期）、仁愛女子短期大学附属幼稚園で実習をする。 〈実習の概要〉 見学・観察を通して幼児の心身の発達過程と特性を観察し、知的・身体的・情緒的・社会的実態の大略を把握する。また、幼稚園教育、幼稚園の指導法等について全体的に理解し把握するとともに、指導計画を作成して保育を行う。	〔附属幼稚園実習〕 1.附属幼稚園でのオリエンテーションを通して把握した内容を、教育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。 2.実習前に、教育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって教育実習に臨むこと。 3.毎日、一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、幼児の姿、教師の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、教育実習ノートに記入して実習担当教諭に提出すること。 4.実習終了後に、教育実習ノートの「自己の研究テーマについてのまとめ」「全体反省会の記録」及び「実習を終えて」を記入し、附属幼稚園に提出すること。
		〔学外指導実習〕 2年次6月に3週間、出身地等の幼稚園・認定こども園（各自が決定する）において実習をする。 〈実習の概要〉 附属幼稚園実習において習得したものを基に、指導実習を行う。 教師の役割について意識しながら行動したり、指導計画を作成して保育を実践・反省・評価するという体験をしたりする経験を通して、教師の役割を理解し、自覚を強くもつ。	〔学外指導実習〕 1.実習幼稚園・認定こども園でのオリエンテーションを通して把握した内容を、教育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。 2.実習前に、教育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって教育実習に臨むこと。 3.毎日、一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、幼児の姿、教師の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、教育実習日誌に記入して実習担当教諭に提出すること。 4.実習終了後に、教育実習ノートの「自己の研究テーマについてのまとめ」及び「実習を終えて」を記入し、実習園に提出すること。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館　2018）
参考図書、教材、準備物等	内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館　2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・実習ノートは、実習後回収し、閲覧後返却する。 ・質問等がある場合は、Moodleを利用するか、電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標① 実習園からの評価表 20% 目標② 実習園からの評価表 20% 目標③ 実習園からの評価表 10% 目標④ 実習園からの評価表 10% 目標⑤ 実習園からの評価表 20% 目標⑥ 実習園からの評価表 20%
受講上の注意	・教育実習Ｉは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生が受講することが望ましい。 ・1年次全履修科目（社会人基礎演習Ⅲは除く）のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における教育実習は履修できない。 ・GPAが1年次前期・後期（2期連続）で1.0未満となった場合は、2年次における教育実習は履修できない。 ・1年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価表を基に学科実習指導委員会で検討を行い、その結果によっては2年次の教育実習を履修できない場合がある。
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、教育実習の具体的な内容を指導するとともに、実習園と連携しながら一人一人の学生を支援する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育実習Ⅱ　　授業コード：2114301　2114302

英文科目名称： Tearching PracticeⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
川崎　恵理			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修	実習	ナンバリング：21E103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、教育実習Ⅰ（1年次9月の附属幼稚園実習及び2年次6月の学外指導実習）がより良い効果をあげ有意義なものとなるように、事前に実習の基礎的事項を把握し、実習への心構えや目標を明確にもつことができるようにすることである。2年間を通して適切な時期に、実習内容・方法などを取り上げ、事前指導、または、事後指導を行う。 本授業は、原則としては時間割表に基づいた時間に教室で行うが、附属幼稚園で実施したり、時間外に実施したりすることもある。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①教育実習の意義・目的を説明することができる。	ＤＰ１	10
	目標②教育実習の内容を理解し、自らの課題を明確にもつことができる。	ＤＰ６	10
	目標③保育の計画、実施－反省－評価－改善の循環について説明することができ、指導計画を作成することができる。	ＤＰ５	20
	目標④幼児の発達過程を理解し、発達に応じた援助を説明することができる。	ＤＰ４	10
	目標⑤保育に必要な表現技術を身に付けている。	ＤＰ４	10
	目標⑥一人ひとりの幼児の個性を尊重する姿勢で幼児と接し、一人ひとりの姿を記録することができる。	ＤＰ７	20
	目標⑦挨拶や言葉遣い等、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション力やマナーを身に付けている。	ＤＰ８	10
	目標⑧教育実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。	ＤＰ９	10

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育実習オリエンテーション・子どもの発達理解①（３歳児）	・毎回配布する資料はファイルに綴じて、実習前に復習すること。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	2	子どもの発達理解②（４歳児）	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	3	子どもの発達理解③（５歳児）	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	4	幼稚園教育実習の心構えについて	・『実習ガイドブック』を事前に読んでおくこと。 ・授業後、附属幼稚園実習の心構えを記入しておくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	5	実習ガイドブック・実習ノートについて	・『実習ガイドブック』『実習ノート』の関連ページを読んでおくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	6	附属幼稚園のオリエンテーション等について	・オリエンテーションの項目を確認し、研究テーマなどの課題について考えておくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	7	附属幼稚園でのオリエンテーション	・仁愛女子短期大学附属幼稚園で、時間外に実施する。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	8	観察参加（仁愛女子短期大学附属幼稚園）	・動きやすい服装で臨むこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	9	指導計画作成について	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	10	教育実習ノートの記入について	・実習で活用できるような教材を準備しておく。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。

	11	附属幼稚園実習事後指導（自己評価及び指導実習に向けて）、今後の実習について	・自己評価アンケートを行う。また、グループワークにより実習を振り返るので、各自次の実習に向けての課題を明確にしておくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	12	学外実習についてのオリエンテーション	・今後の実習先についての事前調査を行うので、各自、実習希望園について可能な範囲で調べておくこと。
	13	電話対応、話し方と敬語	・授業に関する小テストを行う。
	14	実習先を訪問するときのマナー	・授業に関する小テストを行う。
	15	教育実習報告会（1年次参加）	・時間外に実施する。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	16	幼稚園（指導）実習　事前指導（オリエンテーションについて）	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	17	実習ノートについて	・オリエンテーションで質問することを整理しておくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	18	実習幼稚園（こども園）でのオリエンテーション	・各自、実習幼稚園でのオリエンテーションに参加し、オリエンテーションの内容や指示されたことを教育実習ノートにまとめておくこと。
	19	指導計画について	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	20	指導計画作成演習	・オリエンテーションで配属クラスを聞いておき、担当するクラスの幼児を対象とした指導計画を考える。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	21	幼稚園（指導）実習心構え　諸注意	・外部講師による指導を受ける。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	22	幼稚園（指導）実習　事後指導	・幼稚園（指導）実習を振り返り、自己評価を行う。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	23	教育実習報告会（2年次発表）	・学習成果のポートフォリオを作成し、提出する。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。
教科書	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著『新しい保育講座⑫　保育・教育実習』（ミネルヴァ書房 2020）
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第１回目のオリエンテーションで説明する。実際の実習の場をイメージして授業に取り組むことが望ましい。各回の最後に振り返りカードに学習したことを記述する。記述されたことは、次の時間にフィードバックしたり、コメントして返却したりする。配布した資料は足跡としてポートフォリオにまとめ、いつでも振り返りができるようにしておく。質問などある場合は、Moodleを利用するか、電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標①レポー8%、ポートフォリオ2% 目標②レポート8%、ポートフォリオ2% 目標③レポート16%、ポートフォリオ4% 目標④レポート8%、ポートフォリオ2% 目標⑤レポート8%、ポートフォリオ2% 目標⑥レポート16%、ポートフォリオ4% 目標⑦レポート8%、ポートフォリオ2% 目標⑧レポート8%、ポートフォリオ2%
受講上の注意	教育実習Ⅱは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生が受講すること。幼稚園実習に直結する授業なので、やむを得ず欠席した場合は、その時の授業内容を必ず確認に来ること。
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育を携わった経験を生かし、実習に向けての心構えや態度、指導案作成など事例を挙げながら講義及び演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育実習Ⅰ　　授業コード： 2114401

英文科目名称： Field Practice on Childcare Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	４単位	選択
担当教員			
石川　昭義・中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	実習	ナンバリング：21E104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実際に保育所・施設の保育に参加し、体験を通して子ども・利用者への理解、保育士の役割や職務内容等への理解、保育所・施設の役割や機能への理解等を深めることである。1年次2月に保育所で（担当：石川）、2年次8月に保育所以外の児童福祉施設等で（担当：中尾）、各80時間実習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、子どもの保育及び保護者への支援について説明することができる。	ＤＰ１	10
	目標②観察や子どもとの関わりを通して子ども一人一人の理解を深め、説明することができる。	ＤＰ２	20
	目標③個に応じた援助をすることができる。	ＤＰ４	10
	目標④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について、具体的に説明することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤保育士の業務内容や職業倫理を理解し、挨拶、服装など基本的なマナーを実践することができる。	ＤＰ７	30
	目標⑥自己の実習を省察し、実習ノートを適切に記入・提出することができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		保育所実習　〔石川 担当〕 実習保育所で、以下の内容を学ぶ。 1.保育所の役割と機能 (1)保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2)保育所保育指針に基づく保育の展開	・保育所でのオリエンテーションを実施していただき、保育実習ノートの「園の概況表」にまとめておきましょう。 ・実習前に、保育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって保育所（参加・観察）実習に臨みましょう。 ・毎日、一日を振り返り、心に残る出来事、子どもの姿、保育士の援助について学んだこと、話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、保育実習ノートに記入しましょう。 ・保育所（参加・観察）実習終了後に、保育実習ノートの「参加・観察実習でのまとめ」を記入し、実習園に提出してください。
		2.子どもの理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助や関わり	
		3.保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育環境 (4)子どもの健康と安全	
		4.保育の計画・観察・記録 (1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2)記録に基づく省察・自己評価	

		5.専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携・協働 (3)保育士の役割と職業倫理	
		施設実習　〔中尾 担当〕 実習施設で、以下の内容を学ぶ。 1.施設の役割と機能 (1)施設における子どもの生活と保育士等の援助や関わり (2)施設の役割と機能	1.実習施設でのオリエンテーションを実施していただき、実習初日までに、施設実習ノートの「施設の概要」にまとめておきましょう。 2.実習初日までに、施設実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって実習に臨みましょう。 3.毎日一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、利用児・者の姿、援助者のかかわりについて観察や話し合い等で学んだこと、課題の達成度などを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、施設実習日誌に記入しましょう。 4.実習終了後に、施設実習ノートの「自己の研究テーマについて」及び「実習を終えて」を記入し、実習施設に提出してください。
		2.子ども（利用者）の理解 (1)子ども（利用者）の観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助や関わり	
		3.施設における子どもの生活と環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3)子どもの活動と環境 (4)健康管理、安全対策の理解	
		4.計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価	
		5.専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	実習時間外に、実習ノート等を記入するなどの学習が必要です。
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	適宜、資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習ノートは、実習後回収し、評価後返却します。
評価の配点比率	目標①　実習先からの評価表6%　実習ノート4% 目標②　実習先からの評価表12%　実習ノート8% 目標③　実習先からの評価表6%　実習ノート4% 目標④　実習先からの評価表6%　実習ノート4% 目標⑤　実習先からの評価表18%　実習ノート12% 目標⑥　実習先からの評価表12%　実習ノート8%
受講上の注意	・保育実習Ⅰは保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。 ・1年次全履修科目（社会人基礎演習Ⅲは除く）のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における保育実習Ⅰは履修できない。 ・GPAが1年前期・後期（2期連続）で1.0未満となった場合は、2年次における保育実習Ⅰは履修できない。 ・1年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価を基に学科実習指導委員会で検討を行い、その結果によっては2年次の保育実習Ⅰを履修できない場合がある。
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、保育所実習の具体的な内容を指導するとともに、実習園と連携しながら一人一人の学生を支援する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ　　授業コード：2114501　2114502

英文科目名称： Guidance for Field Practice on Childcare Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	２単位	選択
担当教員			
中尾　繁史・小川　智枝・山下　清美			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21E102
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、保育実習Ⅰ(1年次2月の保育所実習及び2年次8月の施設実習)が有意義なものとなるように、事前に実習への心構えや目的等を明確にもつことができるようになるとともに、実習後には自己の実習を省察して保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲへの課題を明確にもつことができるようになることを目的とする。2年間を通して適切な時期に、保育所実習については山下・小川が、施設実習については中尾が、実習内容に応じた指導を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①保育実習の意義・目的を説明することができる。	ＤＰ１	20
	目標②実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができる。	ＤＰ７	10
	目標③保育に必要な表現技術を身につけている。	ＤＰ４	10
	目標④保育の計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に説明することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤保育実習の内容を理解し、自らの課題を明確に説明することができる。	ＤＰ６	20
	目標⑥実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。	ＤＰ９	20
	目標⑦挨拶や言葉遣いなどの保育実習に必要なマナーを身につけることができる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育所実習指導　〔山下 担当〕 実習に役立つ表現遊び講習①（手遊び・うた遊び）〔山下 担当〕	資料はファイルに綴っておき、実習前に復習しましょう。 毎時間、感想レポートを提出してもらいます。 事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	2	実習に役立つ表現遊び講習②（絵本）〔山下 担当〕	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	3	実習に役立つ表現遊び講習③（折り紙遊び）〔山下 担当〕	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	4	保育者のマナーと実習生の心構え　〔山下 担当〕	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	5	清掃体験（仁愛保育園）〔小川 担当〕	事後にレポートを作成する。
	6	保育実習の意義・目的及び実習の概要について〔小川 担当〕	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	7	実習の内容と課題、実習の心構えについて〔小川 担当〕	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	8	保育所及び認定こども園の機能と目的について DVDの視聴　〔小川 担当〕	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	9	保育士の仕事と役割、保育者の配置基準について DVD視聴〔小川 担当〕	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	10	保育所実習報告会への参加	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	11	保育所実習における参加・観察実習について 配属クラスのパターンについて 実習保育所でのオリエンテーションについて 〔小川 担当〕	実習前にファイルに綴った資料を確認し、復習しましょう。

	12	実習保育所でのオリエンテーション〔小川 担当〕	事後に、オリエンテーションで質問することを整理しておきましょう。
	13	実習ノート及び実習日誌の記載についてーその書き方と活用の方法〔小川 担当〕	
	14	実習の評価について 実習での留意事項と最終チェック〔小川 担当〕	実習までに「私の心構え」と「自己の研究テーマ」を記入しましょう。
	15	実習の総括と課題の明確化－自己評価及び保育実習Ⅱに向けて〔小川 担当〕	学習成果のポートフォリオを作成し、提出しましょう。
	16	施設実習指導　〔中尾 担当〕 施設実習の目的・概要	
	17	実習の内容と課題	
	18	2回生による実習報告会への参加	
	19	実習に際しての留意事項（人権、守秘義務、マナー等）	
	20	施設見学に関するオリエンテーション、諸注意	
	21	施設（障害者支援施設）見学	学外での学習になります。
	22	施設（障害者支援施設）見学	学外での学習になります。
	23	実習の計画と記録、実践・観察の視点	
	24	各実習種別における特徴及び実習の目的と概要	
	25	実習日誌の書き方、心構え、諸注意	
	26	実習施設でのオリエンテーション	
	27	実習の総括(1)－自己評価・課題の明確化	
	28	実習の総括(2)－グループワーク	
	29	実習の総括(3)－報告会に向けて	
	30	実習報告会での発表（１・2回生合同）	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度資料を基に復習し、実習前にはもう一度資料を確認するなどの事後学習の時間が必要です。
教科書	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著『新しい保育講座⑫　保育・教育実習』（ミネルヴァ書房 2020）
参考図書、教材、準備物等	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート等は、適宜添削し返却します。
評価の配点比率	目標①：授業中に取り組むレポート課題10%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート10% 目標②：授業中に取り組むレポート課題5%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート5% 目標③：授業中に取り組むレポート課題5%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート5% 目標④：授業中に取り組むレポート課題5%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート5% 目標⑤：授業中に取り組むレポート課題10%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート10% 目標⑥：授業中に取り組むレポート課題10%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート10% 目標⑦：授業中に取り組むレポート課題5%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート5%
受講上の注意	保育実習指導Ⅰは保育士資格を取得する学生が受講してください。 積極的に質問等をしてください。感想レポートに記入していただいた質問にも対応します。 実習時に、自分で考え、自分で判断し、行動することができるよう、主体的に授業に臨んでください。
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、保育所実習に必要な表現技術、実習の心構えやマナーなどについて、具体的な事例なども取り入れながら授業を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している